

道徳教育に関する
小・中学校段階の教員を対象とした調査
—道徳の授業への取組を中心として—
〈結果報告書〉

2024（令和6）年12月

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

上廣道徳・倫理教育研究開発推進室

はじめに

道徳教育の充実は、いつの時代も変わらず、学校教育における大きな課題である。それは、子ども一人一人が自ら豊かで活力のある生き方や、幸せな人生を実現していくことを私たちが強く望みながらも、社会の変化などが、子どもの心の成長に関わる問題や新たな状況を生み出し続けているからである。例えば、ICT環境の急激な進歩の中、SNSや対話型AIにどう向き合わせていくべきか、また、新型コロナ禍を経験した若年世代の人間関係体験の不十分さをどう克服していくかなど、子どもたちの心の状況への不安や危惧が拭えないからである。

私たちはそれらの課題に向き合うためにも、常に道徳教育の新たな在り方に心を砕いていかななくてはならない。そのような中、2015（平成27）年に学校の教育課程に「特別の教科」である道徳科が位置付けられ、2018（平成30）年より小学校段階から検定教科書使用による全面的な実施へと移行し、既に数年が経過した。この大きな変化を私たちがどのように受け止め、向き合っていくかが、いま、改めて問われている。

では、満を持しての改善・充実策でもある「特別の教科」である道徳科の実施状況は、現在、どのような状況だろうか。また、それは、長く進めてきた道徳の時間からの変化の中でどのような課題を生んでいるのだろうか。本調査は、このような問題意識のもと、特に道徳授業に対する教師の考え方や、そこでの取組の傾向などについて明らかにすることを主な目的として実施された。

なお、本学（東京学芸大学）では、2023（令和5）年度より公益財団法人上廣倫理財団の支援をいただき、本学の先端教育人材育成推進機構の中に上廣道徳・倫理教育研究開発推進室を設置して、さまざまな取組を行っている。本調査研究もその事業の一環として進めているものである。上記の他にも、研究事業として、先端的、次世代型道徳教育の理論的研究、授業実践を生かした研究、学生対象調査、教科書教材の分析研究などを進め、研修事業としては、「上廣道徳教育アカデミー」と銘打ったシンポジウムや種々のセミナー、ライブ型研修などを展開し、今後、それらの成果について全国の関心のある教育関係者に参考となるように情報提供を拡充していくこととしている。

ところで、本調査は、全国の小・中学校において日々多忙極まる教育活動を鋭意進められている多くの先生方のご理解に支えられてまとめることができた。調査にご協力いただいた各学校の先生方に心よりお礼を申し上げますとともに、本調査結果を参考にされ、またご活用いただき、この中から、これからのための具体的な示唆を一つでも見出しただくことができれば幸いである。

2024（令和6）年12月

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構
上廣道徳・倫理教育研究開発推進室

室長 永田 繁雄

2023・2024年度「上廣道德・倫理教育研究開発推進室」（構成員）

◎：統括監督者　○：室長　◇：協力教員

◎佐々木 幸 寿	先端教育人材育成推進機構長
○永 田 繁 雄	先端教育人材育成推進機構教授
齋 藤 嘉 則	先端教育人材育成推進機構教授
松 尾 直 博	総合教育科学系長・教授
浅 部 航 太	教職大学院准教授
川 出 龍 一	先端教育人材育成推進機構助教
範 蘭 心	先端教育人材育成推進機構専門研究員
◇小 森 伸 一	芸術・スポーツ科学系教授

本調査「道德教育に関する小・中学校段階の教員を対象とした調査―道德の授業への取組を中心として―」の結果報告書は、本学の先端教育人材育成推進機構「上廣道德・倫理教育研究開発推進室」における事業の一環として行い、まとめたものである。

も く じ

□ はじめに	-----	(i)
□ 2023・2024 年度「上廣道徳・倫理教育研究開発推進室」(構成員)	-----	(ii)
□ も く じ	-----	(iii)
■ 調査にあたって	-----	1
1 本調査実施の背景と趣旨	-----	2
(1) 調査の背景	-----	2
(2) 調査の趣旨	-----	3
2 調査の目的と方法	-----	4
(1) 調査の目的	-----	4
(2) 調査の方法	-----	4
■ 結果	-----	9
1 回答者の属性および勤務校の状況	-----	10
2 道徳の授業における取組	-----	13
(1-1) 1時間の授業の中心教材	-----	13
(1-2) 教科書以外も使用する教材	-----	14
(2) 効果的だと思われた教材(お話)	-----	16
(3) 多く用いる指導方法や学習活動	-----	18
(4) 効果が高いと感じるICT機器のソフト名や方法	-----	20
3 道徳の授業について感じていること	-----	24
(1) 道徳の授業に対する印象	-----	24
(2) 多様な指導のあり方に対する考え	-----	26
(3) 道徳の授業の充実についての意見	-----	28
4 道徳の授業の特別教科化による変化	-----	35
(1-1) 道徳の時間の指導経験の有無	-----	35
(1-2) 道徳の時間が「特別の教科」である道徳科になって変わったこと	-----	36
(2) 道徳の授業の特別教科化に対する考え	-----	38
5 重視したい道徳の内容項目	-----	48
6 道徳科の授業の充実に対する考え	-----	50
(1) 重視したい道徳科の質的改善の視点	-----	50
(2) 重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題	-----	52
7 道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え	-----	54
□ おわりに	-----	63
■ 調査票	-----	65

■ 調査にあたって ■

1 本調査実施の背景と趣旨

(1) 調査の背景

道徳教育の要としての道徳の時間は、「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」）として、2017（平成 29）年の学習指導要領の全面改訂に 2 年先行する 2015（平成 27）年 3 月、その一部改正により教育課程上に位置付けられた。それに伴い、道徳教育用教科書がその検定・採択を経て、各児童生徒に無償配布され、2018（平成 30）年度より小学校、2019（平成 31・令和元）年度より中学校において、その使用による全面実施となった。道徳の時間が 1958（昭和 33）年に学校教育に登場して以来、ちょうど 60 年ぶりの大きな変化であり、まさに還暦による生まれ変わりともいえるような節目となった。それにより、「特別の教科」としての「考え、議論する」道徳科の指導や評価への取組など、今までにない改善点を踏まえた授業の量的充実、質的改善が求められることになった。

なぜ、このような道徳科への位置付け直しが行われたのか。そこには、子どもたちの自尊感情の不十分さや社会参画能力の不安定化、いじめの認知件数の増加の状況など、心の危機に対して早く手を打つ必要があったものの、そのような状況に対して、道徳教育の中核的な役割を果たすべき道徳の時間が有効に機能してこなかったのではないかとの声が根強いことがその背景にあった。文部科学省が設置した「道徳教育の充実に関する懇談会」が 2013（平成 25）年に出した報告「今後の道徳教育の改善・充実方策について」では、その「道徳教育の指導方法」の項において、授業の問題を、「授業方法が、単に読み物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがち」「道徳の時間の指導が道徳的価値の理解に偏りがち」など、それまでの道徳授業の忌避傾向と軽視化傾向が見られ、それとともに硬直化を招いてきたのではないかと指摘している。

ところが、令和の時代の幕開けとともに道徳科が全面的な実施の展開を見せるはずだったが、私たちの社会を襲った新型コロナウイルス感染症拡大によって、飛沫の飛散防止のための社会的距離などが人間関係体験や授業での議論の機会を奪うなど、私たちの想像を超えた状況が続いた。その後、道徳科の実施そのものが不安定な状況のままに、2023（令和 5）年 5 月の同感染症の 5 類移行を経て少しずつ日常を取り戻す中で、各学校において道徳科への移行の趣旨を踏まえた授業の全面展開が進められているといった状況である。

では、道徳科への移行による道徳教育充実への取組はどのような様子を見せているだろうか。文部科学省はその全国的な状況の把握に関して、2021（令和 3）年度に「道徳教育実施状況調査」を行い、その結果を公表している。また、武庫川女子大学教育研究所にて押谷由夫を中心とした研究チームが、「「特別の教科 道徳」設置前後の道徳教育に関する全国調査」として、2017（平成 29）年度から 2020（令和 2）年度までかけて 4 回にわたって実施した調査がある。いずれも道徳科への移行による変化と、その展開の中でのコロナ禍による影響を含む示唆深い結果が公表されている。しかし、これらのいずれも回答を学校の管理職等に求めるなど、道徳教育の計画作成、実施授業時間数、連携や実施体制など、経営的な状況を把握する趣旨が強い。いずれも教員個人の道徳授業に対する見方や取組の状況等を明らかにする意図は必ずしも強いとはいえない。

(2) 調査の趣旨

本調査はこのような背景や経緯を踏まえて企画されたものである。道徳教育，とりわけ道徳科の充実・改善のための課題やその効果的な方途を見出すためには，学校にて道徳教育を主に担当し推進する教員や実際に各学級で取り組む学級担任一人一人を対象として調査することが有効であると考えた。

また，調査の具体化に際して今ひとつ留意したことは，本学が以前に「総合的道徳教育プログラム」推進本部の取組として実施した調査とのつながりである。その結果は，2012（平成24）年，報告書「道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査」として公表している。それ以来10年を超え，その間に道徳の時間が道徳科へと位置付け直されたことから，その期間における変化を把握することの有益性も考え，調査内容についても前回の調査票を参考にしつつ，比較的視点と道徳科のもつ新たな趣旨の両面を視野において実施することが有益ではないかと考えた。

そこで，本調査の企画と実施に際しては，特に次の点を押さえるようにした。

調査対象について

全国の小・中学校等より抽出した学校に依頼し，道徳教育を主に担当する教員（道徳教育推進教師等）と学級担任の両者に回答してもらえるように依頼し，主担当かそうでないかによつての考え等の違いの比較・把握も可能になるようにする。

調査内容について

具体的な調査内容については，特に次の点を考慮して実施することとする。

①2012（平成24）年度報告の調査との比較的視点での検討ができるようにする

道徳授業が道徳の時間として実施されていた時期と，道徳科となつてからの教師の意識や取組にどのような変化が見られるかを把握できるようにする。そのため，2012（平成24）年度の調査と共通となる項目を位置付ける。質問内容としては，効果的だと思われた教材，指導方法や学習活動，授業に対する印象，多様な指導の在り方に対する考えなどがそれにあたる。また，学習指導要領に示す道徳の内容項目に関し，重視したい項目の変化等について有益な情報が得られることを期待し，改善が図られた現状の内容項目に合わせる形で調査することとする。

②道徳科への新たな位置付けへの意識や課題等が把握できるようにする

道徳科が，教師の新たな課題意識や改善への方向を意識し，新たな志向を生み出しているかを把握できるようにする。そこで，道徳科への改善の課題となっていること等を調査内容に含むようにする。質問内容としては，道徳の時間が道徳科になつて変わったことや，道徳科の「特別の教科」化に対する考えなどを問う。

③道徳科の充実のための考えや方向について建設的な知見が得られるようにする

社会的な課題や子どもの心の問題状況等に重ねて，道徳教育や道徳科の指導の一層の充実に対する考え等を自由記述で幅広く求める。

なお，今次の調査票の作成に際しては，事前に首都圏（主に東京都内）の教員および本学の附属学校道徳研究部に所属する教員，併せて16名に模擬的な回答を経た改善意見を得て，調査用紙の最終調整等を行っている。

2 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

包括的な目的

本調査の包括的な目的は、次のとおりである。

学校の教育課程の小・中学校段階に、「特別の教科」である道徳科が設置されて数年経った現在、今の実施の様子や取り組む教員の考えなどを広く把握し、今後の道徳教育のあり方や授業の改善・充実などに役立てられるようにする。

具体的な目的・ねらい

そこで、上記目的を受けて、次の具体的な目的を設定した。

- ① 道徳の時間が「特別の教科」道徳科となって、教師の意識や取組の様子がどう変わったかを把握する。
- ② 道徳科の課題やよさをとらえて、一層の改善点を見いだす。
- ③ 道徳科の充実を図るための考えの方向をさぐる。

(2) 調査の方法

調査実施時期

依頼状が郵送されたのは2023（令和5）年12月であり、回答期限は2024（令和6）年1月の月末までであった。

調査対象サンプリング方法

「2023年版全国学校データ（特定非営利活動法人教育ソリューション協会）」の全国学校リストより系統抽出法を用いて抽出された小学校2043校、中学校1551校、義務教育学校21校および中等教育学校7校の総計3622校であった。上記の手続きによって1校あたり最大7名の教員が回答対象とされた。

調査手続き

郵送法を用いて、調査対象校に調査の依頼状とアンケート内容の参考用紙（2部）が送付され、内容参考用紙のおもて面にあるQRコードからGoogle Formにアクセスして回答してもらい、オンラインでデータを収集した。回答を依頼した対象は、1校につき、なるべく、①道徳教育推進教師、道徳主任、道徳教育を主に担当する教員1名、と②学級担任（①で回答した教員を除く）1名～最大6名とされた。ただし、学校の事情や規模などによって、人数が少なくてもかまわないこと、また、調査結果（まとめ）は、アンケートに回答した学校で、送付を希望される学校の全てに送付することが伝えられた。

回答件数

合計1527件の回答が収集でき、そのうち小学校839件、中学校671件、義務教育学校14件、中等教育学校3件であった（表1）。担当する学校段階によって分けたところ、小学校教員は848名で、中学校教員は679名であった。調査年度の2023（令和5）年度に道徳教育推進教師（道徳主任）など、学校における道徳教育や道徳科の指導を推進する分掌を担当しているか否かについて、その内訳は、表2に示されるとおりである。

表 1 学校種別回収件数

	小学校	中学校	義務教育学校	中等教育学校
回収件数	839	671	14	3
割合(%)	54.9	43.9	0.9	0.2

表 2 学校段階別の回答者数と道徳教育主担当の有無

	回答者全体	担当している	担当していない
小学校段階	848	448	400
中学校段階	679	431	248

調査内容

アンケートはフェイスシートと道徳教育に関する調査項目から構成されており、具体的な調査項目は以下に示すとおりである。

■回答者の属性および勤務校の状況

学校種：調査協力者の勤務校の種類を選択するよう求めた（①小学校，②中学校，③義務教育学校，④中等教育学校）。

担任する学年：調査協力者が担任を担当する学年を選択するよう求めた（①第1学年，②第2学年，③第3学年，④第4学年（小学校），⑤第5学年（小学校），⑥第6学年（小学校），⑦学級担任以外）。

勤務校の地域：調査協力者の勤務校の地域を選択するよう求めた（①北海道，②東北，③関東，④甲信越，⑤北陸，⑥東海，⑦近畿，⑧中国，⑨四国，⑩九州・沖縄）。

年齢層：調査協力者の年齢層を選択するよう求めた（①20～29歳，②30～39歳，③40～49歳，④50～59歳，⑤60歳以上）。

道徳教育主担当の有無：調査協力者が道徳教育推進教師（道徳主任）など，学校における道徳教育や道徳科の指導を推進する分掌を担当しているか否かを求めた（①担当している，②担当していない）。

道徳の研究授業を行った経験の有無と回数：調査協力者が今まで道徳の研究授業（校内研究・公開研究等）を行ったことあるか否かを求めた。4回以上の場合，今までの実施回数について記入するよう求めた（①特に実施したことはない，②1回、実施したことがある，③2～3回、実施したことがある，④4回以上、実施したことがある）。

最も関心の強い教科または領域（小学校），担当する教科（中学校）：小学校段階の調査協力者の最も関心の強い教科または領域，中学校段階の調査協力者の担当する教科をひとつ選択するよう求めた（①国語，②社会，③算数、数学，④理科，⑤生活（小学校のみ），⑥音楽，⑦図画工作、美術，⑧体育・保健体育，⑨家庭、技術・家庭，⑩外国語（小学校は外国語活動を含む），⑪道徳（小学校のみ選択可），⑫総合的な学習の時間（小学校のみ選択可），⑬特別活動（小学校のみ選択可））。

■道徳の授業における取組

1時間の授業の中心教材：調査協力者が1時間の授業の中心教材を選択するよう求めた（①1時間の授業の中心教材としては、教科書のみ使用している，②1時間の授業の中

心教材として、教科書以外も使用することがある)。

教科書以外も使用する教材：上記「②1時間の授業の中心教材として、教科書以外も使用することがある」と回答した調査協力者が、教科書以外の教材の14項目のうち、本年度今までに用いたものをすべて選択するよう求めた(①以前の道徳用副読本，②都道府県、市町村等の資料，③自作(学校作成)の資料，④「私たちの道徳」(文部科学省)，⑤新聞記事，⑥図書の本(書籍・雑誌)，⑦写真(デジタル写真を含む)，⑧紙芝居(掛図・大型絵)，⑨人形劇教材(紙人形、パネルシアター)，⑩NHK道徳番組(録画を含む)，⑪DVD・VTR教材(道徳番組以外)，⑫録音教材・CD(音声)等，⑬パソコン用アプリケーション，⑭インターネットによる情報，⑮その他(自由記述))。

効果的だと思われた教材(お話)：調査協力者が使用して効果的だと感じた教材(お話)の教材名，主に使用する学年について3つまでを自由記述で回答するよう求めた。

多く用いる指導方法や学習活動：調査協力者が道徳の授業に用いる指導方法や学習活動8項目のうち多く使用する方法5つまでを選択するよう求めた(①話し合い(小集団やペアによる)，②話し合い(討論の形態による)，③学習ノート，④エンカウンターなどのプログラムや集団ゲーム，⑤模擬体験や追体験，⑥役割演技(ロールプレイ)・劇遊び，⑦講師やゲストを招いての活動，⑧調査や観察，⑨用いていない，⑩その他(自由記述))。

効果が高いと感じるICT機器のソフト名や方法：調査協力者がICT機器を生かした活動で，効果が高いと感じた方法の名称，ソフト名，または「このような方法」について2つまでを自由記述で回答するよう求めた。

■道徳の授業について感じていること

道徳の授業に対する印象：道徳の授業の印象に関する10項目について，5件法(そう思わない，あまりそう思わない，どちらとも言えない，わりとそう思う，そう思う)で回答を求めた(①子どもの人間形成に役立っている，②魅力ある教材(資料)が様々にある，③指導の工夫が多様に考えられる，④他の教科等の授業とは違うよさがある，⑤教師のやりがいがある授業である，⑥子どもが好きな授業である，⑦子どもの変わる様子が感じられる，⑧いじめや非行の防止に役立っている，⑨学力の向上に効果がある，⑩人間関係づくりに役立っている)。

多様な指導のあり方に対する考え：道徳授業の多様な指導のあり方に関する10項目について5件法(そう思わない，あまりそう思わない，どちらとも言えない，わりとそう思う，そう思う)で求めた(①ビデオなどの映像資料を大いに使うべきだ，②新聞記事やニュースなどの報道をもっと使うべきだ，③パソコンやインターネットをもっと使うべきだ，④子どもが討論する学習をもっと充実すべきだ，⑤調べ学習などをもっと取り入れるべきだ，⑥担任以外の人をもっと授業に参画すべきだ，⑦1時間ずつだけでなく複数時間をつなげた指導をもっとするべきだ，⑧各教科や総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図るべきだ，⑨学期別や月ごとにテーマを決めて重点的な学習をするべきだ，⑩学級の間関係の問題をもっと取り上げるべきだ)。

道徳の授業の充実についての意見：このようにすれば道徳の授業が一層充実する，みんなが意欲的に取り組むようになるといった考えについて自由記述で回答を求めた。

■ 道徳の授業の特別教科化による変化

道徳の時間の指導経験の有無：調査協力者が以前の道徳教科書を使用しない頃の指導経験あるか否かを求めた（①経験がある，②経験がない）。

道徳の時間が「特別の教科」である道徳科になって変わったこと：前の設問で「①経験がある」と答えた教員に，道徳の時間が「特別の教科」である道徳科になって変わったこと10項目について5件法（そう思わない，あまりそう思わない，どちらとも言えない，わりとそう思う，そう思う）で求めた（①子どもの道徳授業への学習意欲が高まった，②子どもが道徳授業がっそう好きになった，③子ども同士による話し合いや議論が活発になった，④道徳の授業についての教師の意識が高まった，⑤育てようとする子ども像をより意識して指導するようになった，⑥より計画的、体系的な指導が行えるようになった，⑦授業時数を十分に確保して指導することができるようになった，⑧教師が多様な授業展開を工夫するようになった，⑨他教科等に比べて道徳の授業が軽視される風潮が少なくなった，⑩授業を通して、子どもの変化の手応えをより感じるようになった）。

道徳の授業の特別教科化に対する考え：道徳の時間が「特別の教科」である道徳科に移行した（変わった）ことについて自由記述で回答を求めた。

■ 重視したい道徳の内容項目

重視したい道徳の内容項目：道徳の内容（内容項目）26項目について，特に重視する7項目までを選択するよう求めた（小学校（高学年）：A-①善悪の判断、自律、自由と責任，A-②正直、誠実，A-③節度、節制，A-④個性の伸長，A-⑤希望と勇気、努力と強い意志，A-⑥真理の探究，B-⑦親切、思いやり，B-⑧感謝，B-⑨礼儀，B-⑩友情、信頼，B-⑪相互理解、寛容，C-⑫規則の尊重，C-⑬公正、公平、社会正義，C-⑭勤労、公共の精神，C-⑮家族愛、家庭生活の充実，C-⑯よりよい学校生活、集団生活の充実，C-⑰伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度，C-⑱国際理解、国際親善，D-⑲生命の尊さ，D-⑳自然愛護，D-㉑感動、畏敬の念，D-㉒よりよく生きる喜び。中学校：A-①自主、自律、自由と責任，A-②節度、節制，A-③向上心、個性の伸長，A-④希望と勇気、克己と強い意志，A-⑤真理の探究、創造，B-⑥思いやり、感謝，B-⑦礼儀，B-⑧友情、信頼，B-⑨相互理解、寛容，C-⑩遵法精神、公德心，C-⑪公正、公平、社会正義，C-⑫社会参画、公共の精神，C-⑬勤労，C-⑭家族愛、家庭生活の充実，C-⑮よりよい学校生活、集団生活の充実，C-⑯郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度，C-⑰我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度，C-⑱国際理解、国際貢献，D-⑲生命の尊さ，D-⑳自然愛護，D-㉑感動、畏敬の念，D-㉒よりよく生きる喜び）。

■ 道徳科の授業の充実に対する考え

重視したい道徳科の質的改善の視点：道徳科の質的改善の視点に関する10項目について，特に重視したい3項目を選択するよう求めた（①「自我関与」が中心の学習，②「問題解決的な学習」，③「体験的な学習」，④「道徳的価値の理解」を促す指導，⑤子どもが「多面的・多角的」に考えを深める指導，⑥子どもが「生き方についての考え」を深める指導，⑦子どもが「自分事」として考えを深める学習，⑧子どもが自らの「納得解」を見出していく学習，⑨子どもの「主体的・対話的で深い学び」，⑩

道徳授業の「カリキュラム・マネジメント」，⑩その他（自由記述））。

重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題：様々な社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題に関する 8 項目について，特に重視したい 3 項目までを選択するよう求めた（①子どもの「自尊感情」や自己肯定感を高める指導，②子どもの「いじめ問題」の深刻化に向き合う指導，③「情報モラル」に関して考えを深める指導，④「対話型 A I（生成 A I）」を生かす指導，⑤「SDG s」を意識した指導，⑥子どもの「エージェンシー（Agency～主体性）」を生かす指導，⑦子どもの「ウェルビーイング（幸福観・幸福度）」を高める指導，⑧「伝統や文化の尊重」について考えを深める指導，⑨特になし，⑩その他（自由記述））。

■道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え

道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え：道徳教育や道徳科の指導の一層の充実のために，重要なことや改善すべきことについて自由記述で回答を求めた。

■ 結果 ■

1 回答者の属性および勤務校の状況

小学校および中学校段階の教員を対象とした分析結果を以下に示した。表3から表7では、担任する学年、年齢層、勤務校の地域、最も関心の強い教科または領域（小学校）、担当する教科（中学校）、道徳の研究授業を行った経験の有無と回数について、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち道徳教育推進教師（以下、推進教師）の人数および割合を内数として示した。

表3 担任する学年

	小学校段階				中学校段階			
	回答者全体		推進教師(内数)		回答者全体		推進教師(内数)	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
第1学年	142	16.6	87	10.3	210	31.3	130	19.1
第2学年	126	15.0	58	6.8	206	31.3	120	17.7
第3学年	127	15.0	72	8.5	182	27.2	111	16.3
第4学年	122	14.5	59	7.0	—	—	—	—
第5学年	126	15.0	58	6.8	—	—	—	—
第6学年	106	12.7	47	5.5	—	—	—	—
学級担任以外	52	6.1	33	3.9	61	7.6	55	8.1
2つ以上回答	47	5.3	34	4.0	20	2.7	15	2.2
合計	848	100.0	448	52.8	679	100.0	431	63.5

注：「—」は該当がないことを示す。

表4 年齢層

	小学校段階				中学校段階			
	回答者全体		推進教師(内数)		回答者全体		推進教師(内数)	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
20～29歳	191	22.5	93	11.0	205	30.2	107	15.8
30～39歳	230	27.1	125	14.7	207	30.5	118	17.4
40～49歳	212	25.0	113	13.3	150	22.1	113	16.6
50～59歳	182	21.5	97	11.4	97	14.3	77	11.3
60歳以上	33	3.9	20	2.4	20	2.9	16	2.4
合計	848	100.0	448	52.8	679	100.0	431	63.5

表 5 勤務校の地域

	小学校段階				中学校段階			
	回答者全体		推進教師(内数)		回答者全体		推進教師(内数)	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
関東	271	32.0	140	16.5	175	25.8	121	17.8
近畿	97	11.4	53	6.3	98	14.4	58	8.5
九州・沖縄	125	14.7	61	7.2	72	10.6	50	7.4
甲信越	58	6.8	27	3.2	50	7.4	35	5.2
四国	19	2.2	13	1.5	31	4.6	14	2.1
中国	51	6.0	26	3.1	48	7.1	29	4.3
東海	95	11.2	54	6.4	81	11.9	48	7.1
東北	85	10.0	44	5.2	78	11.5	46	6.8
北海道	31	3.7	20	2.4	21	3.1	14	2.1
北陸	16	1.9	10	1.2	25	3.7	16	2.4
合計	848	100.0	448	52.8	679	100.0	431	63.5

表 6 最も関心の強い教科または領域（小学校），担当する教科（中学校）

	小学校段階				中学校段階			
	回答者全体		推進教師(内数)		回答者全体		推進教師(内数)	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
音楽	17	2.0	11	1.3	41	6.0	20	2.9
家庭、技術・家庭	8	0.9	1	0.1	27	4.0	14	2.1
外国語・外国語活動	18	2.1	10	1.2	122	18.0	97	14.3
国語	192	22.6	98	11.6	134	19.7	97	14.3
算数、数学	204	24.1	93	11.0	111	16.3	74	10.9
社会	56	6.6	28	3.3	83	12.2	44	6.5
図画工作、美術	32	3.8	17	2.0	18	2.7	15	2.2
生活	13	1.5	8	0.9	—	—	—	—
総合的な学習の時間	19	2.2	9	1.1	—	—	—	—
体育・保健体育	66	7.8	24	2.8	62	9.1	27	4.0
道徳	157	18.5	116	13.7	1	0.1	1	0.1
特別活動	28	3.3	13	1.5	—	—	—	—
理科	38	4.5	20	2.4	80	11.8	42	6.2
合計	848	100.0	448	52.8	679	100.0	431	63.5

注：「—」は該当がないことを示す。

表 7 道徳の研究授業を行った経験の有無と回数

	小学校段階				中学校段階			
	回答者全体		推進教師 (内数)		回答者全体		推進教師 (内数)	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
特に実施したことはない	243	28.7	104	12.3	236	34.8	140	20.6
1回、実施したことがある	214	25.2	109	12.9	191	28.1	113	16.6
2～3回、実施したことがある	269	31.7	144	17.0	191	28.1	128	18.9
4回以上、実施したことがある	122	14.4	91	10.7	61	9.0	50	7.4
合計	848	100.0	448	52.8	679	100.0	431	63.5

2 道徳の授業における取組

(1-1) 1時間の授業の中心教材

表 8 および図 1, 図 2 では, 調査協力者の「1時間の授業の中心教材」の使用状況に関して, 学校段階別に, 小学校段階および中学校段階の人数, 割合を示した。また, そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

表 8 1時間授業の中心教材の使用状況

	小学校段階				中学校段階			
	回答者全体		推進教師 (内数)		回答者全体		推進教師 (内数)	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
1時間の授業の中心教材としては、 教科書のみ使用している	461	54.4	236	27.8	290	42.7	186	27.4
1時間の授業の中心教材として、 教科書以外も使用することがある	387	45.6	212	25.0	389	57.3	245	36.1
合計	848	100	448	52.8	679	100	431	63.5

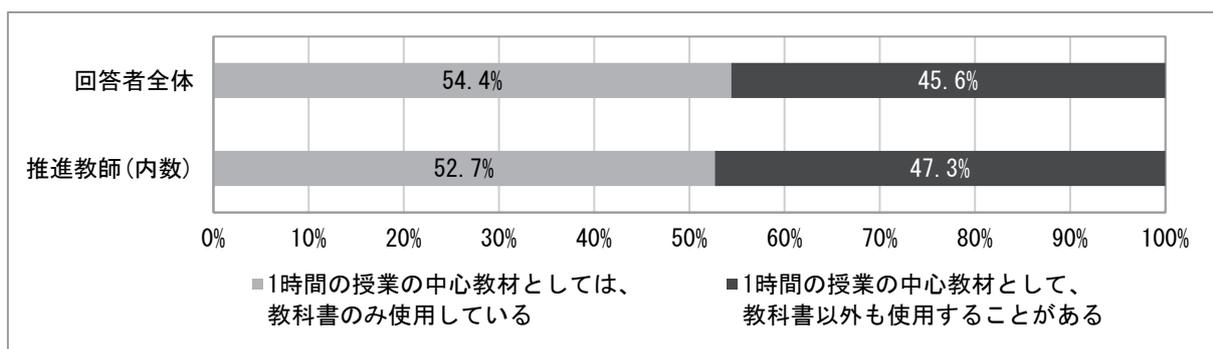


図 1 1時間授業の中心教材の使用状況：小学校・回答者全体 (n=848, 推進教師 内数 n=448)

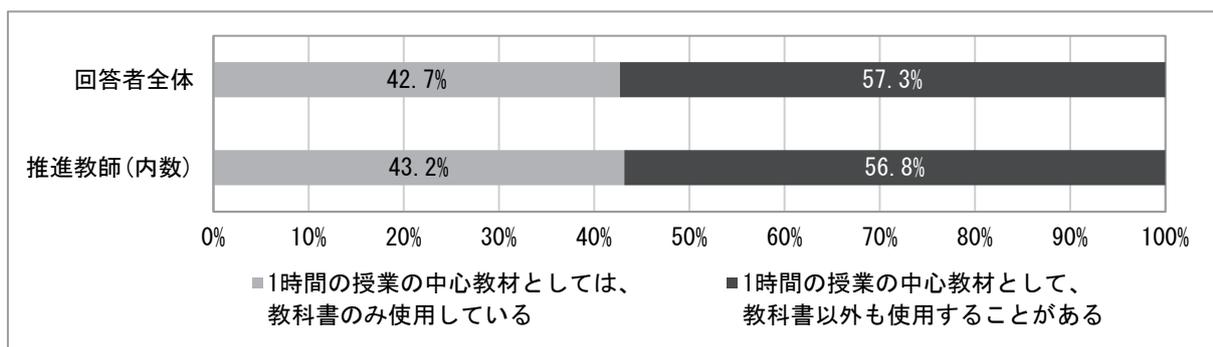


図 2 1時間授業の中心教材の使用状況：中学校・回答者全体 (n=679, 推進教師 内数 n=431)

小学校の方は, 1時間の授業の中心教材として, 教科書のみ使用している教員の方が多く, 教科書に頼る傾向が強い。中学校では1時間の授業の中心教材として, 教科書以外も使用することがある教員が半数を超えていることから, 授業中に他の教材も織り込む傾向は小学校より高いと推測できる。

(1-2) 教科書以外も使用する教材

図3から図6では、上記「②1時間の授業の中心教材として、教科書以外も使用することがある」と選択した調査協力者が「今年度今まで使用した教材」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

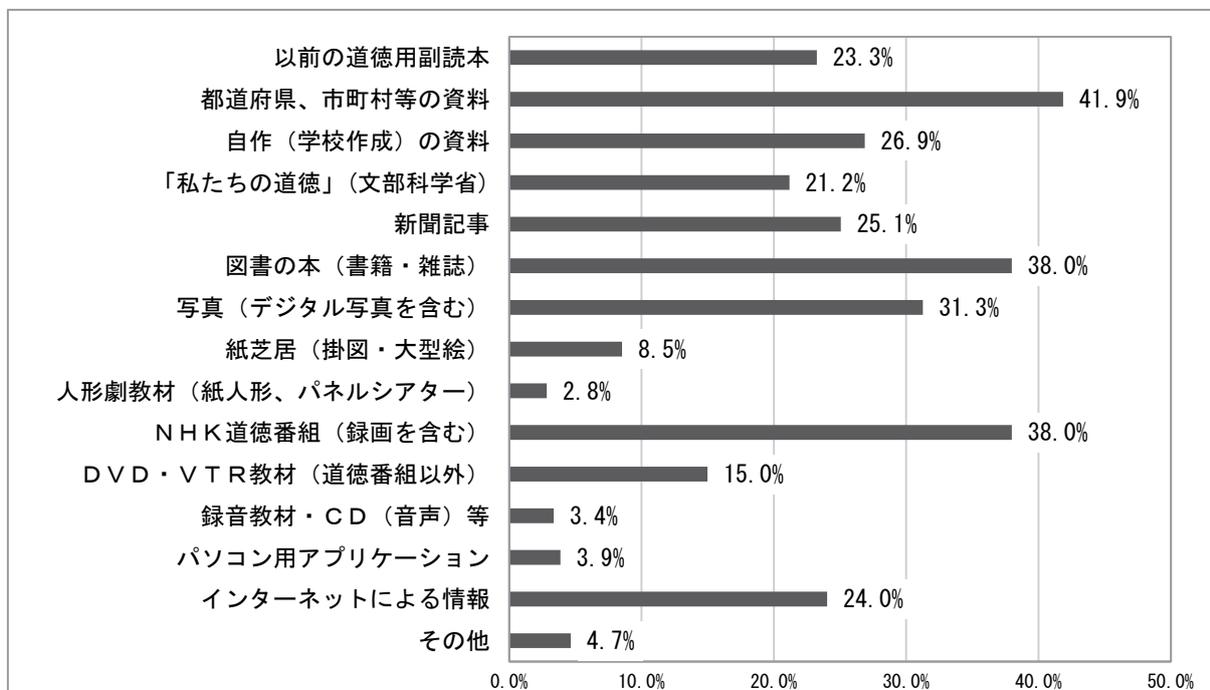


図3 1時間授業の中心教材の使用状況：小学校・回答者全体（ $n=387$, 複数回答）

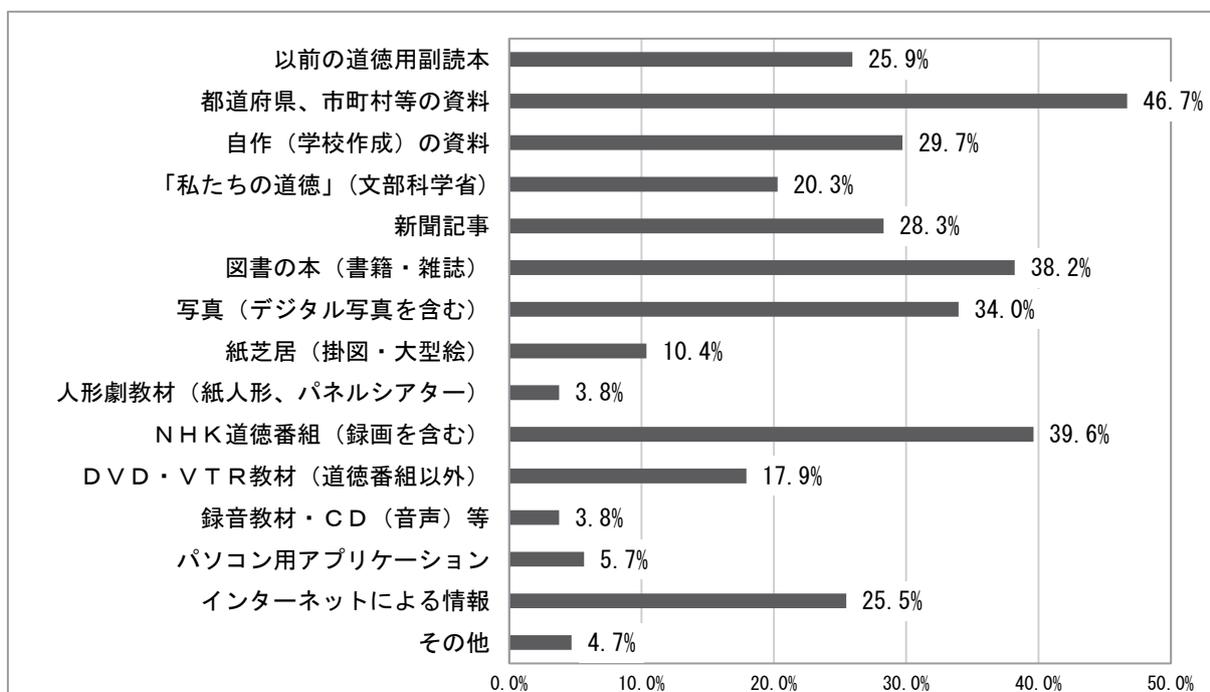


図4 1時間授業の中心教材の使用状況：小学校・推進教師 内数（ $n=212$, 複数回答）

小学校の方は、「都道府県、市町村等の資料」や「図書の本（書籍・雑誌）」、「NHK道徳番組（録画を含む）」などが多く使われている。

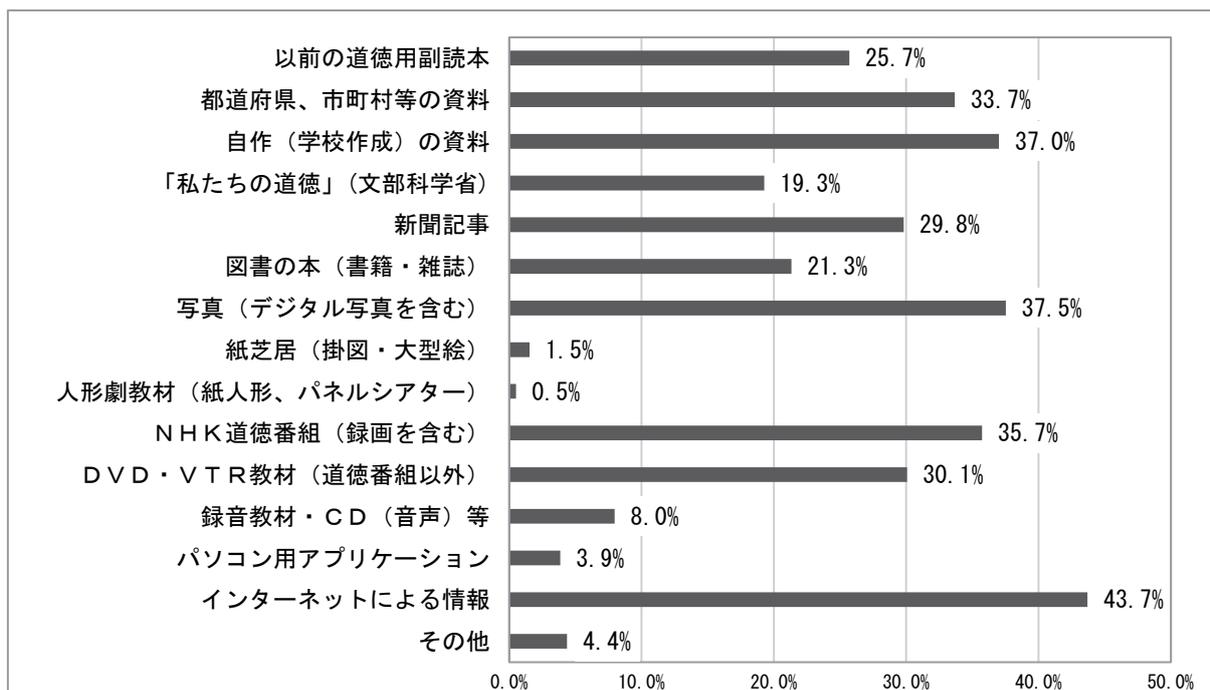


図 5 1時間授業の中心教材の使用状況：中学校・回答者全体（ $n=389$, 複数回答）

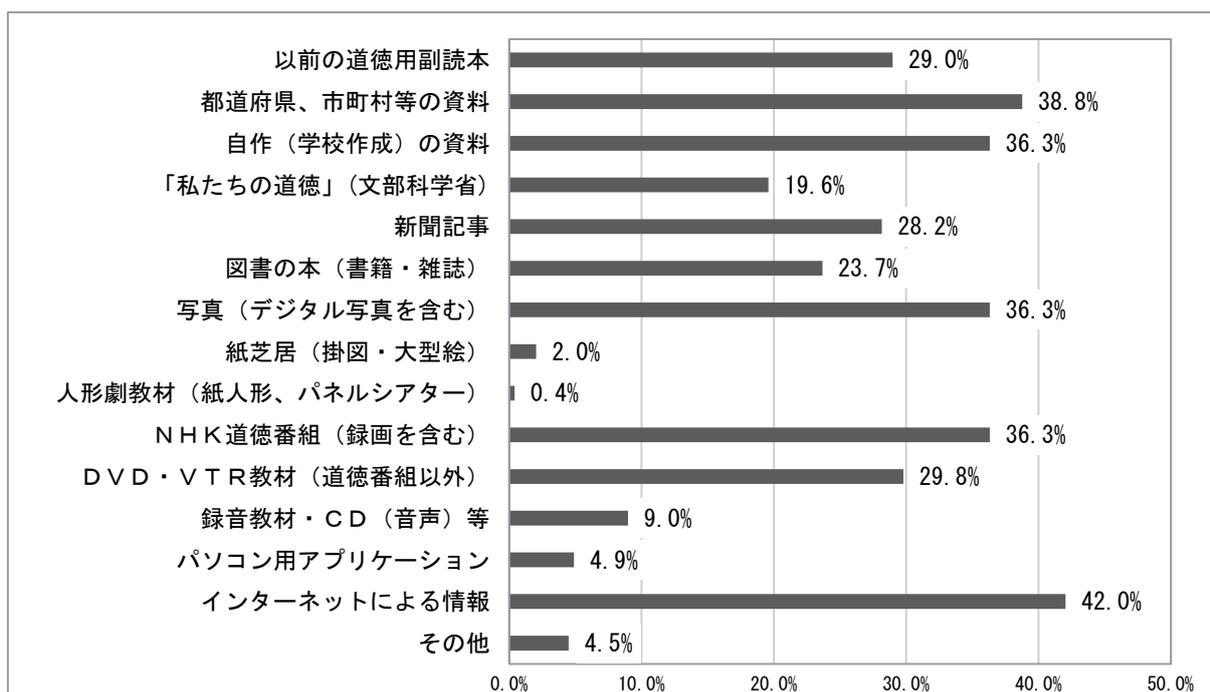


図 6 1時間授業の中心教材の使用状況：中学校・推進教師 内数（ $n=245$, 複数回答）

中学校の方は、「都道府県、市町村等の資料」「NHK道徳番組（録画を含む）」に加え、「自作（学校作成）の資料」や「写真（デジタル写真を含む）」、そして特に「インターネットによる情報」が多く使われている。

(2) 効果的だと思われた教材（お話）

①効果的だと思われた教材（お話）の頻度数一覧〔小学校〕

表 9 から表 11 では、小学校の学年段階別（低学年・中学年・高学年）に、道徳の授業に使用して効果的だと感じた教材（お話）の教材名を多いものから順に示した。回答数が 4 未満の教材名は除外している。また、同じ資料でも異なるタイトルが使用されている場合には、別々に表記している。

表 9 効果的だと思われた教材（お話）の頻度数一覧（小学校低学年）

90	はしのうえのおおかみ		
50	かぼちゃのつる		
26	きいろいベンチ		
24	くりのみ		
21	およげないリスさん	二わのことり	
10	ぐみの木と小とり		
7	おれたものさし		
6	ジャングルジム		
5	お月さまとコロ	大すきなフルーツポンチ	ひつじかいのこども
4	きつねとぶどう ハムスターの赤ちゃん	金のおの モムンとヘーテ	だめ

表 10 効果的だと思われた教材（お話）の頻度数一覧（小学校中学年）

27	お母さんのせいきゅう書		
25	ないた赤おに		
11	雨のバスでいりゅう所で		
8	絵はがきと切手		
7	きまりのない国 ブラッドレーのせいきゅう書	心と心のあくしゅ	ひきがえるとろば
6	新次のしょうぎ	まどガラスと魚	
5	いじりといじめ	花さき山	持ってあげる？食べてあげる？
4	金色の魚 どんどんばしのできごと	となりのせき 長なわ大会の新記録	ともだちや

表 11 効果的だと思われた教材（お話）の頻度数一覧（小学校高学年）

83	手品師		
40	ロレンゾの友達		
26	ブランコ乗りとピエロ		
14	うばわれた自由		
8	銀のしょく台	くずれ落ちた段ボール箱	すれちがい
6	折れたタワー	言葉のおくりもの	修学旅行の夜
5	命を見つめて	ここを走れば	ぼくの名前呼んで
4	命	森の絵	六年生の責任って？

②効果的だと思われた教材（お話）の頻度数一覧〔中学校〕

表 12 では、中学校の道徳の授業に使用して効果的だと感じた教材（お話）の教材名を多いものから順に示した。回答数が 5 未満の教材名は除外している。また、同じ資料でも異なるタイトルが使用されている場合には、別々に表記している。

表 12 効果的だと思われた教材（お話）の頻度数一覧（中学校）

65	二通の手紙		
21	足袋の季節		
18	銀色のシャープペンシル		
15	裏庭でのできごと		
14	みんなでとんだ！		
12	一冊のノート	トマトとメロン	
11	風に立つライオン わたしのせいじゃない	卒業文集最後の二行	リスペクト・アザース
9	カーテンの向こう	缶コーヒー	
8	違反摘発	桃太郎の鬼退治	
7	魚の涙	注文をまちがえる料理店	泣いた赤鬼
6	「いじり？」「いじめ？」 言葉の向こうに どうせ無理という言葉に負けない ひまわり 六千人の命のビザ	決断！骨髄バンク移植第一号 自分って何だろう 名乗り出なかった友 ぼくにもこんな「よいところ」がある	元さんと二通の手紙 テニス部の危機 バスと赤ちゃん 本当の私
5	明日、みんなで着よう がんばれおまえ 独りを慎む	あったほうがいい？ 自分だけあまりになってしまう ひび割れ壺	あなたならどうしますか 臓器ドナー

(3) 多く用いる指導方法や学習活動

図7から図10では、調査協力者が「多く用いる指導方法や学習活動」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

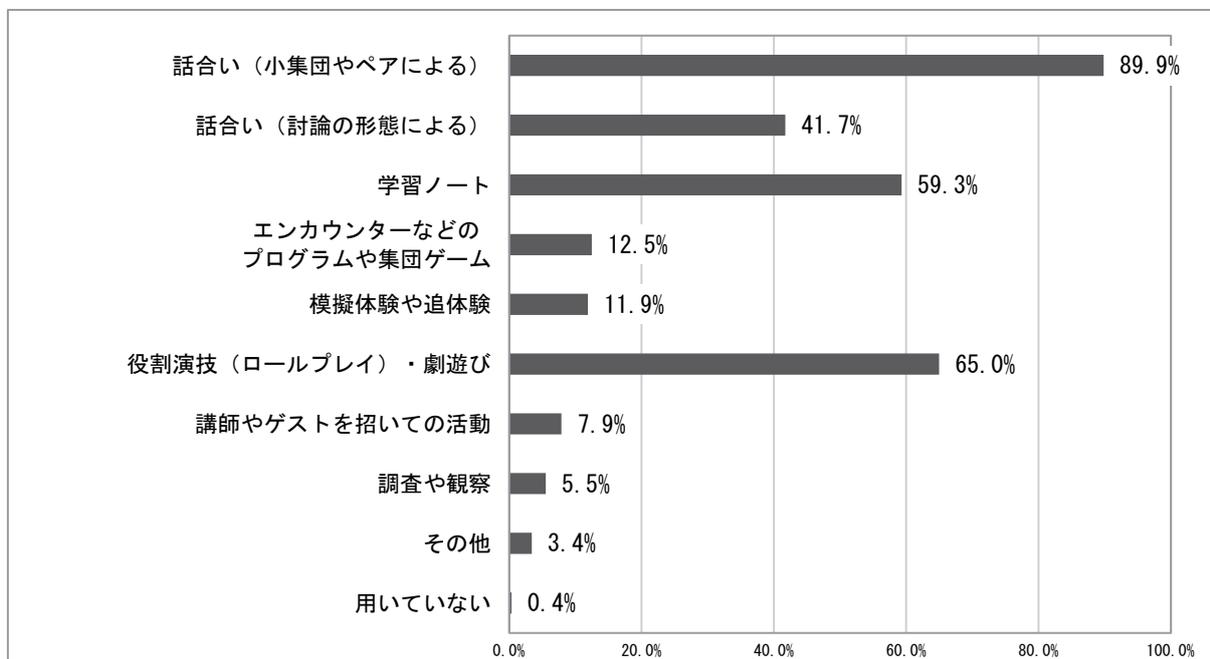


図7 多く用いる指導方法や学習活動：小学校・回答者全体（ $n=848$, 5つまで複数回答）

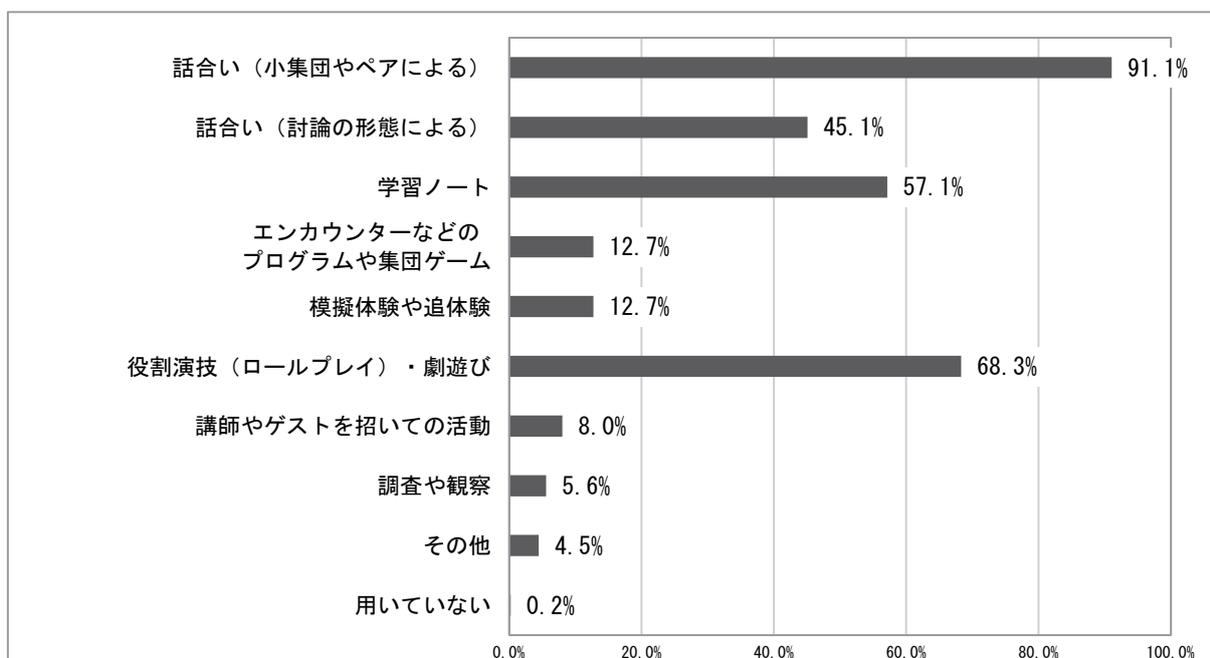


図8 多く用いる指導方法や学習活動：小学校・推進教師 内数（ $n=448$, 5つまで複数回答）

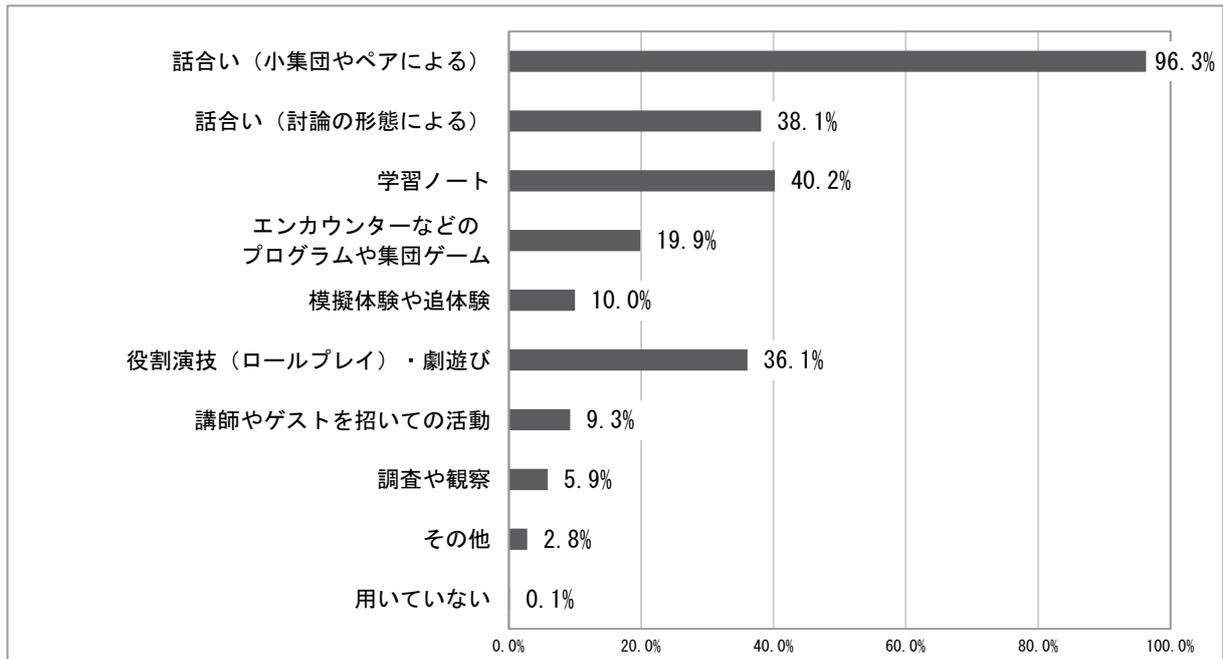


図 9 多く用いる指導方法や学習活動：中学校・回答者全体（ $n=679$, 5つまで複数回答）

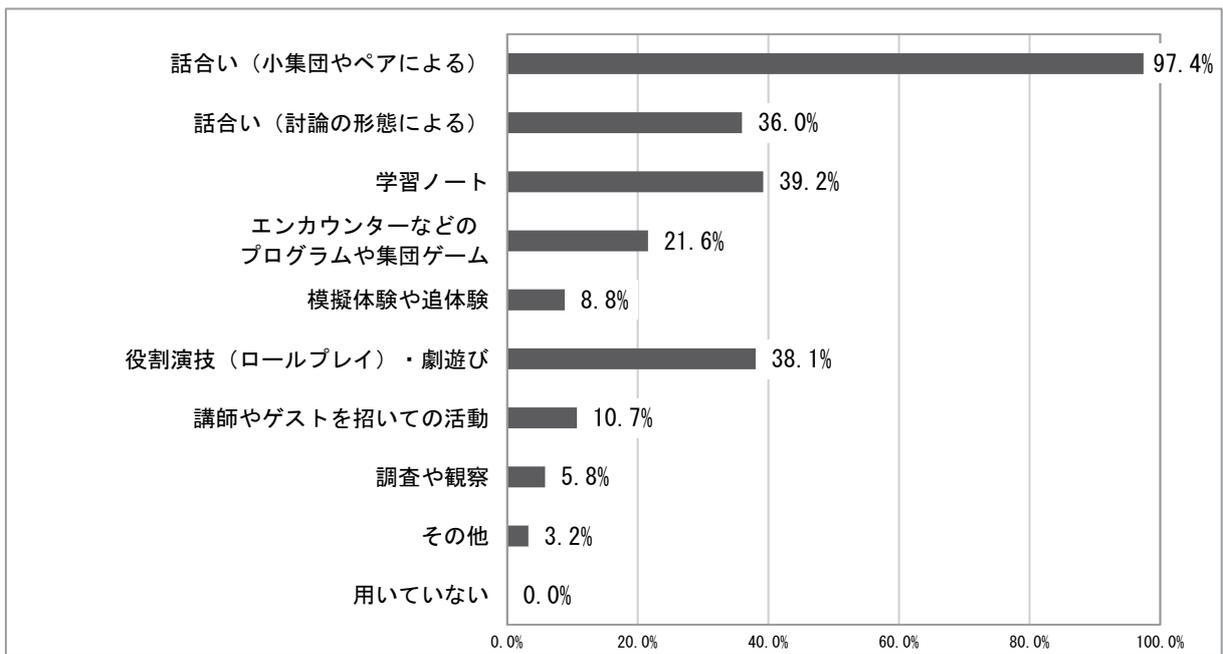


図 10 多く用いる指導方法や学習活動：中学校・推進教師 内数（ $n=431$, 5つまで複数回答）

小学校の教員がよく用いる指導方法や学習活動としては、「話し合い（小集団やペアでの活動）」や「役割演技（ロールプレイ）・劇遊び」が挙げられた。また、「学習ノート」の活用も広く見られた。中学校の教員がよく用いる指導方法や学習活動としては、「話し合い（小集団やペアでの活動）」が最も多く用いられ、「話し合い（討論の形態）」も併用されている。また、小学校ほど頻繁ではないものの、「学習ノート」や「役割演技（ロールプレイ）・劇遊び」も取り入れられている。

(4) 効果が高いと感じるICT機器のソフト名や方法

分析に先立ち、「効果が高いと感じるICT機器のソフト名や方法」に関する自由記述を分類するため、「ICT機器を生かした活動」コード表を作成した（表13）。

表13 「ICT機器を生かした活動」コード表

カテゴリー	含まれる内容の例
情報を集める	アンケート 質問の集約 意見の収集 意見の集計 実態調査 調べ学習
意見を表す	意見や考えの書き込み 意見を送信 意見の提出 意見の発表 考えの表出 意見共有 意見交流 意見の出し合い コメント 立場の共有 振り返りの共有 他の人の意見を知る
内面を可視化する	心情メーター ハート図 心情曲線 心情円 心のもさし ポジショニング スタンプ マッピング
情報を整理・分析する	意見の集約 振り返り ブレインストーミング テキストマイニング KJ法 グルーピング 意見の振り分け ダイヤモンドランキング クラゲチャート 思考ツール
情報を基に深める	考えの変容 意見の変容 多角的な視点の獲得 多様な価値観に触れる 思考を深める 議論の手がかり
情報を蓄積する	振り返りの蓄積 ポートフォリオ化 道徳の記録として 積み重ねでかけるシート 作成したものを保存
動画・音声を視聴する	動画の視聴 教材の読み聞かせ
資料を配布・提示する	資料の共有 スライド 導入の発問 課題を出す 絵本の提示
その他	役割カード 共同編集 遠隔交流授業 予習学習 問題作成と解き合い ソフト名のみなもの

①カテゴリー別回答数

学校段階別に「効果が高いと感じるICT機器のソフト名や方法」に関する自由記述を「ICT機器を生かした活動」コード（表13）に従い分類した結果を図11，図12に示した。なお，一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は，それぞれを分割して分類し，複数回カウントした。

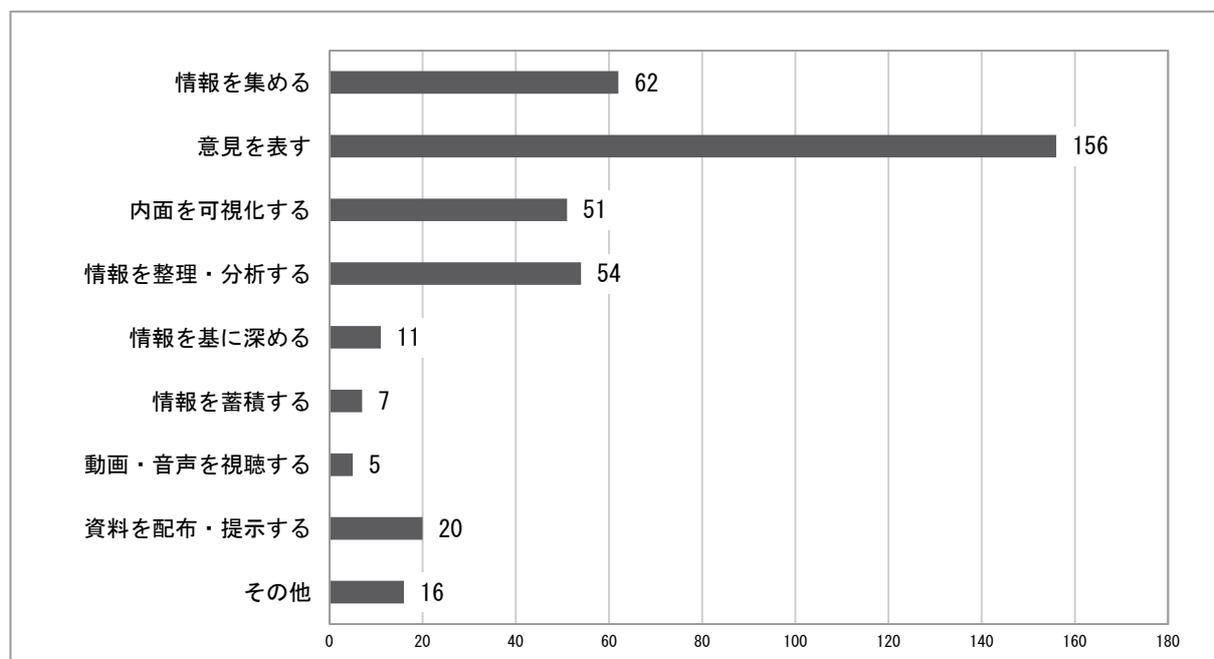


図11 小学校教師の「ICT機器を生かした活動」の自由記述を分類した結果（n=372）

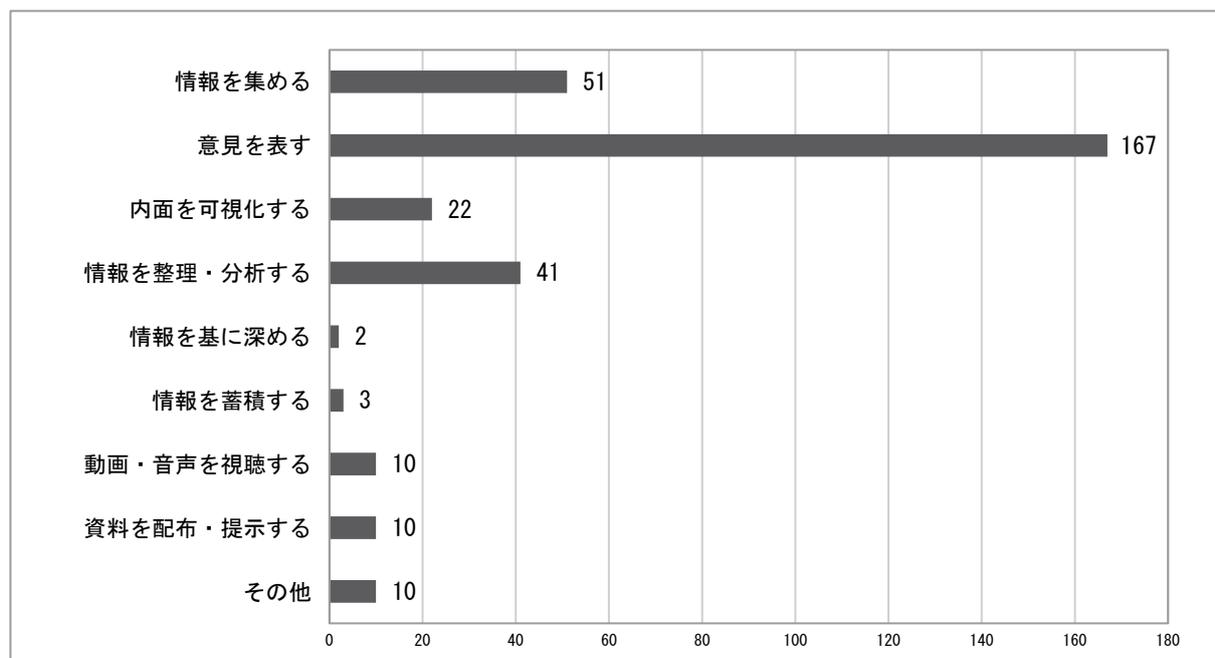


図12 中学校教師の「ICT機器を生かした活動」の自由記述を分類した結果（n=304）

②カテゴリー別回答例

学校段階別に、「効果が高いと感じるICT機器のソフト名や方法」に関する自由記述を「ICT機器を生かした活動」コード(表13)に従い分類した回答例を表14に示した。

表14 「ICT機器を生かした活動」に関するコード別の回答例

	小学校	中学校
情報を集める	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前にアンケートを取り、導入場面で提示し課題意識を持たせる。 ● アンケートをとり、すぐに提示。自分がどの立場で、友達はどの立場かがすぐにわかる。授業終盤でも同じアンケートをとることで、意見の変容とみとれる。 ● 動画の配信を利用し、主題につながる人物の紹介や活動を検索する。 ● 意見の集計や視覚化がすぐにでき、子どもたちも意見が交流できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート機能の活用により、考えを明らかにした上で交流する。 ● ディベート式の活動の際の調べ学習。 ● 動画検索:クラス全員が交通事故の危険性がわかる動画を検索→URLを投稿→教員が選定→授業で動画の共有。 ● 寄せ書き機能で「あなたが大切にしたいのは何か」を聞く。
意見を表す	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題に対する自分の考えを色分けしたカードで提出する。 ● タブレット端末を使ってワークシート提出させている。 ● 児童が発問に対して一斉に入力・閲覧できるもの。 ● コメントを使った意見の交流。 ● それぞれの考えを瞬時に共有できる活動。 ● 振り返りをスプレッドシートで書き、児童同士が共有する方法。 ● 発問に対しての考えを書くことで、一人一人の意見を全体で共有できる。 ● 立ち位置や考えを表出するのに使用。 ● 登場人物の葛藤場面でどちらの選択を自分なら選ぶか、全体で共有し、話し合った活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見を賛成反対で色分けをして提出をさせる方法。 ● 自分の意見と友達の意見を共有させる。 ● 色の異なるカードを用意して、提出させ、立場決定させる。一覧にすると色分けされていて分かりやすい。 ● 意見を書き込むことで、瞬時に多くの仲間の意見を知ることができ、意見を持ってない生徒も仲間の意見を参考にして意見を書くことができる。 ● 手軽に意見の提出が行え、全体での意見共有も行える。全体での発表が苦手な子にとっても取り組みやすい。 ● 班ごとにシートを作り、意見を共有する際に活用。全体での発表が苦手な生徒の意見もひろいやすいと感じる。 ● 全員の回答を表示でき、名前を表示しない選択も出来るので、クラスみんながどのように考えているのか、短時間で共有できて効果的であった。 ● 付箋機能を用いて自分の立ち位置を決めて話し合いを行う方法。 ● 共同編集でお互いの意見をじっくり読ませることが出来る。
内面を可視化する	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材文の主人公の気持ちを共感できるか、帯グラフで示し共有する。 ● 数直線で、自分の気持ちはどの辺りかを示す。 ● 二つの選択について、AかBかの0-100ではなく、30や60など、微妙な選択肢を視覚化できるようにした。 ● ハートメーターをつかって自分に合った%を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「心情円盤」を数直線上でクラス全員の位置と意見がわかる。 ● 生徒の考えをポジショニング上に自分で配置する方法。 ● スタンプ機能で曖昧な自分の考えを表現。 ● ポジショニングで、AかBか、のような質問のときに、みんなが、ABどちらにどれだけ近いかという気持ちの微妙な位置を共有する。

情報分析する 情報を整理・	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の意見を集約し、見合う場面で使いました。 ● アンケートをとり、子どもたちの学習前の意識と、学習後の考えを集約する。 ● 思考ツールクラゲチャートやYチャートを作成したり、カードを増やしたりしながら考えをつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 共有ノートを利用して、ブレインストーミングやKJ法。 ● シンキングツールを用いて、自分の考えを整理する。 ● 資料を読んだ感想等からキーワード化する。
情報を基に 深める	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自の考えを記入し、学級で共有して議論の手がかりとする。 ● シンキングツールを使って考えを整理、深化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 動画を撮って、役割演技を見ながら言動を確認し、話し合う。
蓄積する 情報を	<ul style="list-style-type: none"> ● 考えの変化を記録して残していく。 ● 振り返りを書かせて提出させ、ポートフォリオ化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ふり返りの提出。年間を通して、生徒の考えを残すことができる。(紙ベースだと紛失する生徒がいるため) ● 一人1枚積み重ねでかけるシートを作り、授業の最後に自分事として考えたことを記入しておく。
動画・音声を 視聴する	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル教科書による読み聞かせ。 ● 動画の一斉視聴。 ● 関連する動画を視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 映像など視覚に訴える場面で。 ● 生徒に伝えたいことや興味をもたせたいことについての動画を見せる。
資料を配布・ 提示する	<ul style="list-style-type: none"> ● 挿絵を大型テレビに映す。 ● 場面絵をスクリーンでうつしながら、範読をする。 ● デジタル教科書を電子黒板に表示させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真や動画を見せることができる。 ● 絵本などの教材の提示。 ● 資料を配布するのに時間をかけなくていい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題を作り、ときあう。 ● 予習学習。 ● 導入での意識付け。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他校との遠隔交流授業。 ● ホワイトボードの代わりにタブレットを使用した。 ● 役割演技の役割カード(登場人物の絵を表示)。

「効果が高いと感じるICT機器のソフト名や方法」に関する自由記述は、主に「意見を表す」に分類されるものが多く、小学校と中学校はいずれも約半数を占めていた。この結果は、一人一台タブレットの導入によって、他者の意見を短時間で共有しやすくなったことや、発表に苦手意識をもつ児童生徒にとって自分の考えを表現する機会が確保されることにつながり、意見を表現しやすくなったと考えられる。

小学校と中学校の間に差が見られたカテゴリーとしては、「内面を可視化する」であった。小学校では、中学校に比べて自分の内面を言語化することが難しい場合が多いと考えられる。そこで、ハート図やマッピング、ポジショニングなどの視覚的な手法を用いることで、漠然とした感情や意見を表現しやすくなったと推察される。

3 道徳の授業について感じていること

(1) 道徳の授業に対する印象

図 13 から図 16 では、調査協力者の「道徳の授業に対する印象」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

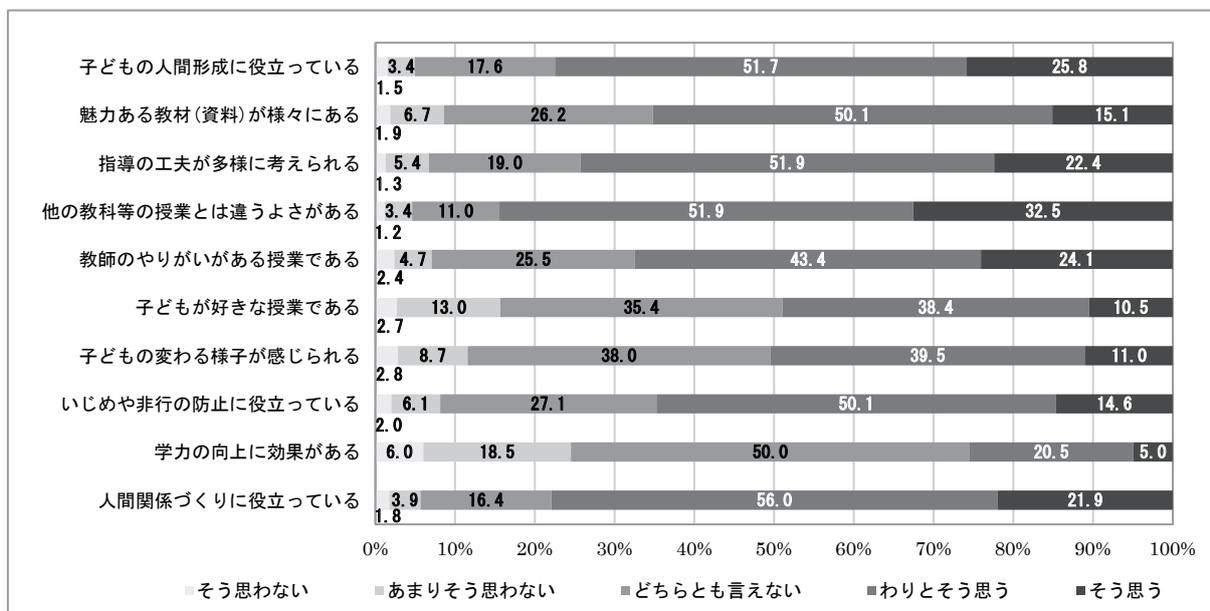


図 13 道徳の授業に対する印象：小学校・回答者全体（ $n=848$ ）

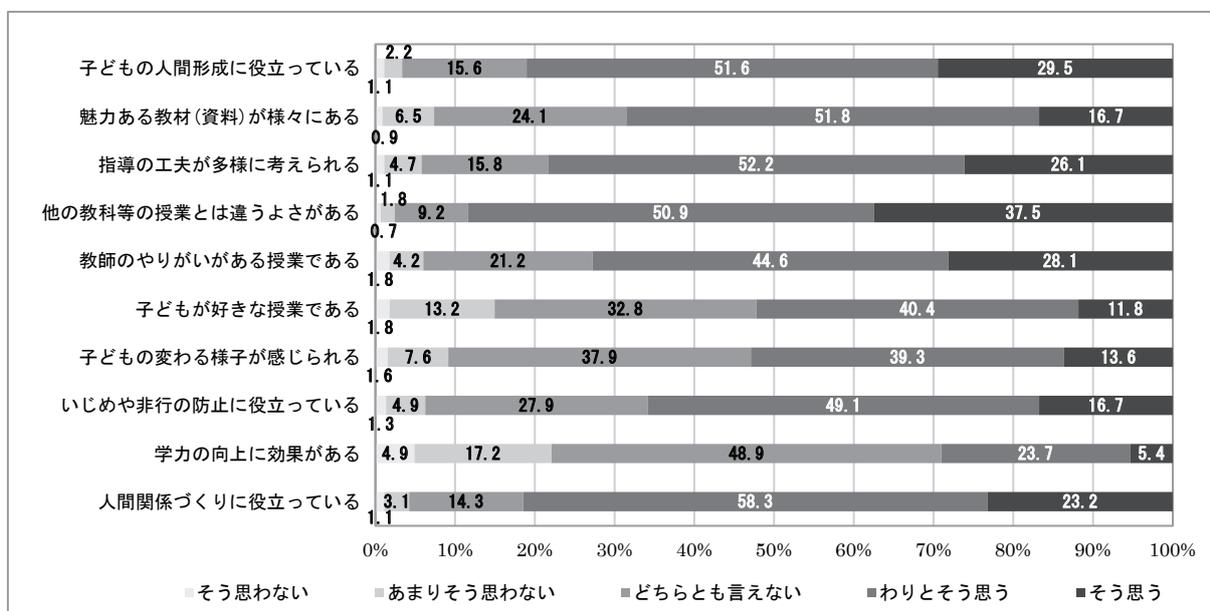


図 14 道徳の授業に対する印象：小学校・推進教師 内数（ $n=448$ ）

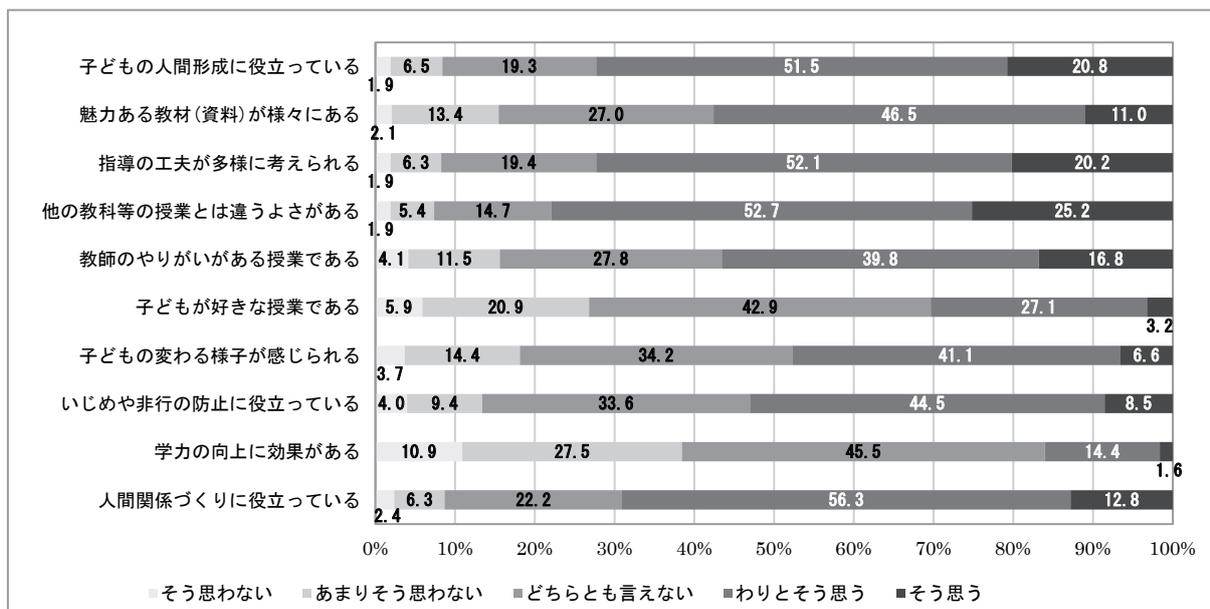


図 15 道徳の授業に対する印象：中学校・回答者全体（n=679）

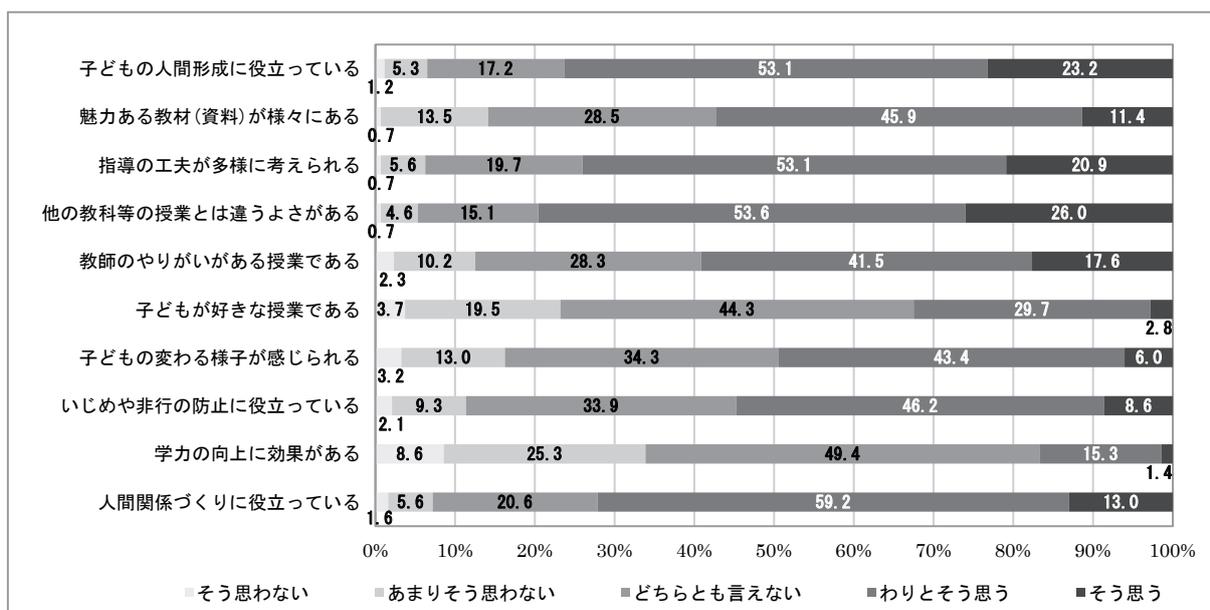


図 16 道徳の授業に対する印象：中学校・推進教師 内数（n=431）

小学校，中学校ともに，プラスの印象が強い項目としては「子どもの人間形成に役立っている」「指導の工夫が多様に考えられる」「他の教科等の授業とは違うよさがある」および「人間関係づくりに役立っている」であった。一方，マイナスの印象が強い項目としては「子どもが好きな授業である」，「子どもの変わる様子が感じられる」，そして「学力の向上に効果がある」が挙げられた。特に「子どもが好きな授業である」と「学力の向上に効果がある」の2項目において，小学校と比較すると中学校の方がマイナスの印象が強かった。

(2) 多様な指導のあり方に対する考え

図 17 から図 20 では、調査協力者の「多様な指導のあり方に対する考え」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

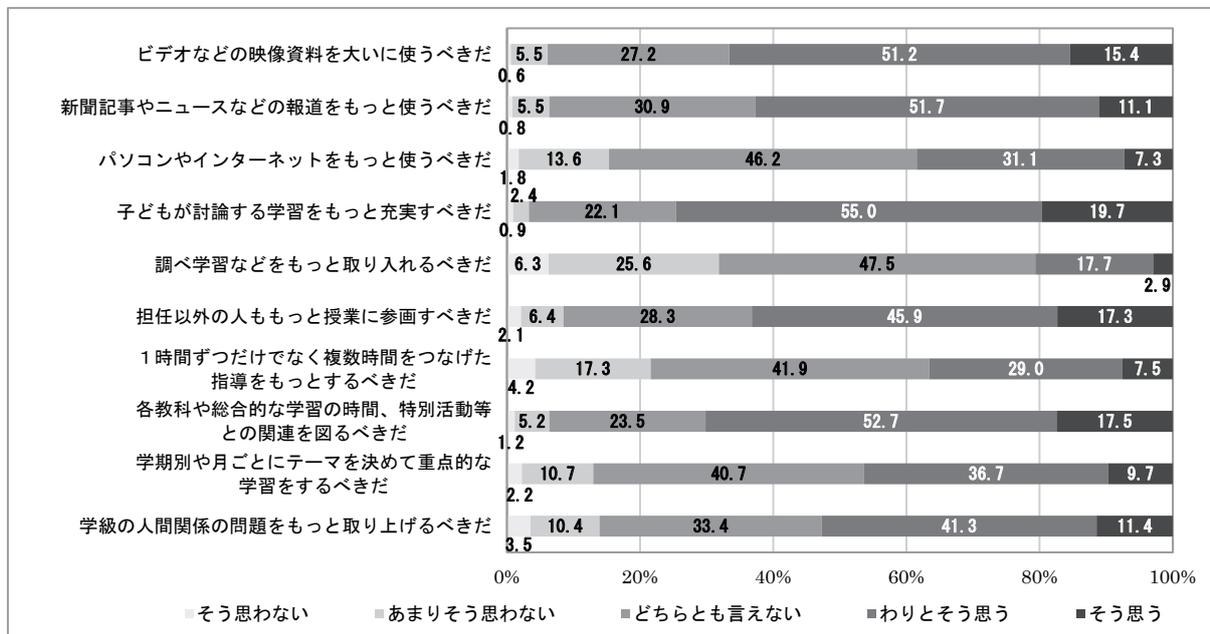


図 17 多様な指導のあり方に対する考え：小学校・回答者全体（n=848）

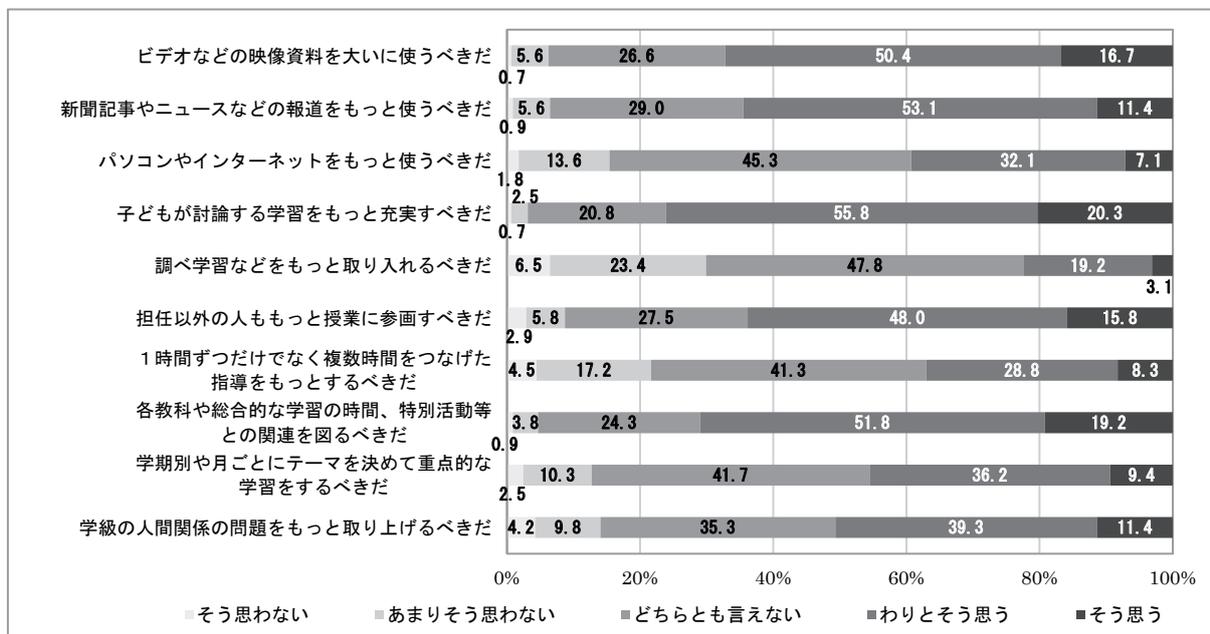


図 18 多様な指導のあり方に対する考え：小学校・推進教師 内数（n=448）

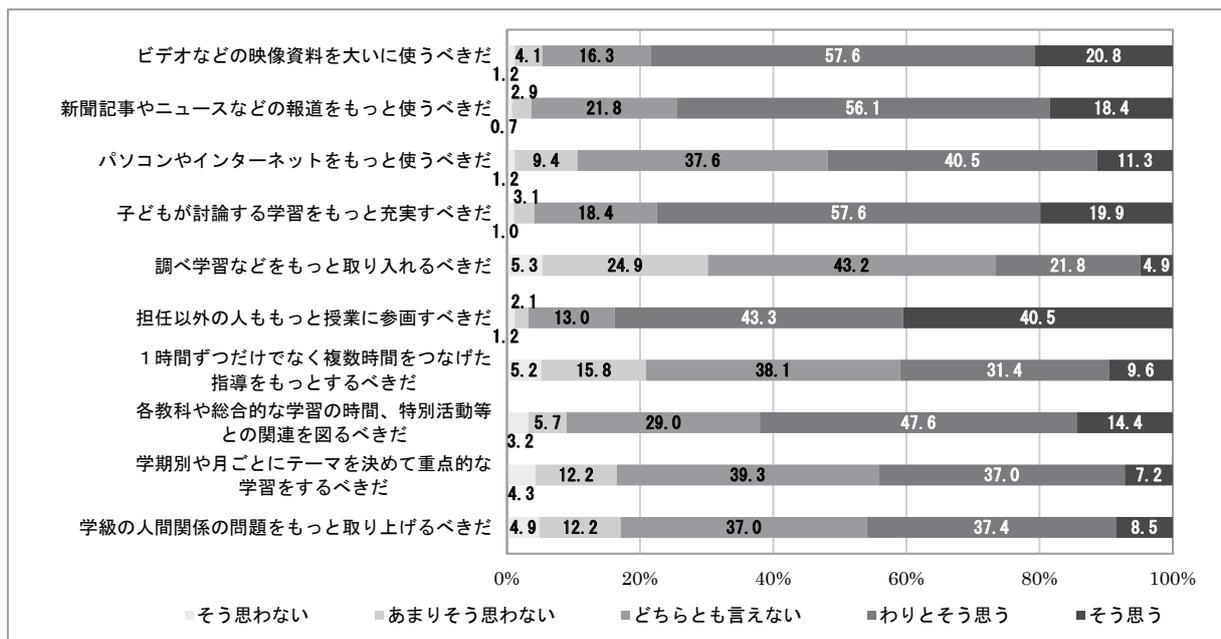


図 19 多様な指導のあり方に対する考え：中学校・回答者全体（n=679）

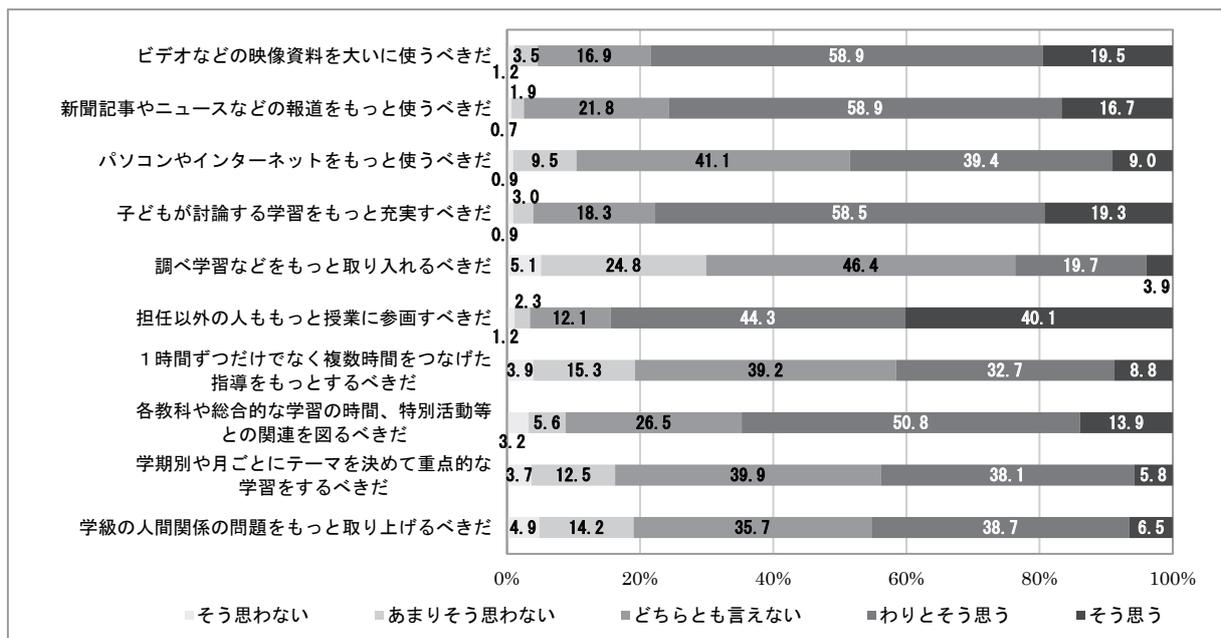


図 20 多様な指導のあり方に対する考え：中学校・推進教師 内数（n=431）

教員がより強く「そう思う」または「わりとそう思う」と考えている指導のあり方としては、「ビデオなどの映像資料を大いに使うべきだ」「新聞記事やニュースなどの報道をもっと使うべきだ」「子どもが討論する学習をもっと充実すべきだ」、および「担任以外の人をもっと授業に参画すべきだ」が挙げられた。一方、肯定的な回答が比較的弱かったのは「調べ学習などをもっと取り入れるべきだ」と「1時間ずつだけでなく複数時間をつなげた指導をもっとするべきだ」であった。また、小学校の教員よりも中学校の教員の方が、「担任以外の人をもっと授業に参画すべきだ」と相対的に強く考えている。

(3) 道徳の授業の充実についての意見

分析に先立ち、「道徳の授業の充実」に関する自由記述を分類するため、「道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査—道徳の時間への取組を中心として—」（2012）のコードを参考にして、新たに分類コード表を作成した（表 15）。

表 15 「道徳の授業の充実」に関する自由記述分類のコード表

カテゴリー	含まれる内容の例
道徳教材の充実	教科書内容の充実 身近な問題 魅力的な資料 興味関心の高い題材 自分事として考えられる モラルジレンマ 葛藤のある内容 討論できる教材 日常生活や学級で起こりそうな問題 時事問題(SNS, 報道) 子どもの価値観に近い例を出す 社会問題に触れる 様々なことに触れる 内容項目数の削減 教材選択の幅の拡大 教材の量の充実
教材・教具の充実	ICTを活用した教材 ビデオ DVD 動画 映像資料 心情円盤や意見カード デジタル教科書 指導用動画 ICT タブレット 教材や指導案、授業実践の共有 掲示物 データベース化 資料の蓄積
教材研究	教材の厳選 教材研究 教材の熟読
学習指導の工夫	討論 役割演技 小集団での話し合い活動 葛藤場面を作る 発問の工夫 板書の工夫 複数時間の構成 考え議論する道徳科
実態に合わせた指導	学級の問題を扱う 学級の実態に合わせた教材選択 授業計画
関連的指導の工夫	別業との関連 特別活動との関連 総合的な学習との関連 教科横断的 日常生活との関連 学校行事との関連 体験的な学習
多様な講師の活用	ゲストティーチャー 外部講師 地域の人
評価の在り方	ポートフォリオ 評価の廃止 評価化 評価の困難さ
学級経営の充実	学級経営の充実 話し合いができる雰囲気づくり 人間関係の構築 日々の生活指導 学級風土
計画の活用・工夫	学校行事に合わせた教材選択 柔軟なカリキュラム設定 年間指導計画 学校教育全体と関連付けた教育
授業時間の確保	授業の積み重ね 継続的な実施 時数の確保
教師の意識や構え	道徳授業の価値理解 道徳の授業を楽しむ 自分事として考える 子どもの発言の許容 言葉遣いよりよく生きる意識 考えの尊重 人権感覚や相手意識の向上
児童・生徒の構え	身近な人とかかわりに気づく 活発な生徒の発言 自分事としてとらえる
時間的ゆとり	教材研究の時間の確保 授業準備の時間 教員不足 働き方改革
研修・研究の充実	校内研究 校内研修 研究授業 授業研究 互見授業 研修の機会
情報提供の充実	授業例や効果的な教材の共有 資料のデータバンク 指導書の充実
家庭や地域連携	家庭や地域との連携や協力 道徳通信
全校体制での取組	ローテーション道徳 全校道徳 学年道徳 交換授業 担任以外や管理職による授業 全職員が関わる体制づくり
道徳の主担当教師	教科担当の配置 専門教師の育成
道徳の教科化など	教科化の影響 教科化の廃止
学校の雰囲気	職場の雰囲気 職員同士で授業について気軽に話し合える環境
そのほか	教材の位置づけ 生徒自身の思考力

①カテゴリー別回答数

学校段階別に「道徳の授業の充実」に関する自由記述をコード（表 15）に従い分類した結果を図 21, 図 22 に示した。なお、一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は、それぞれを分割して分類し、複数回カウントした。

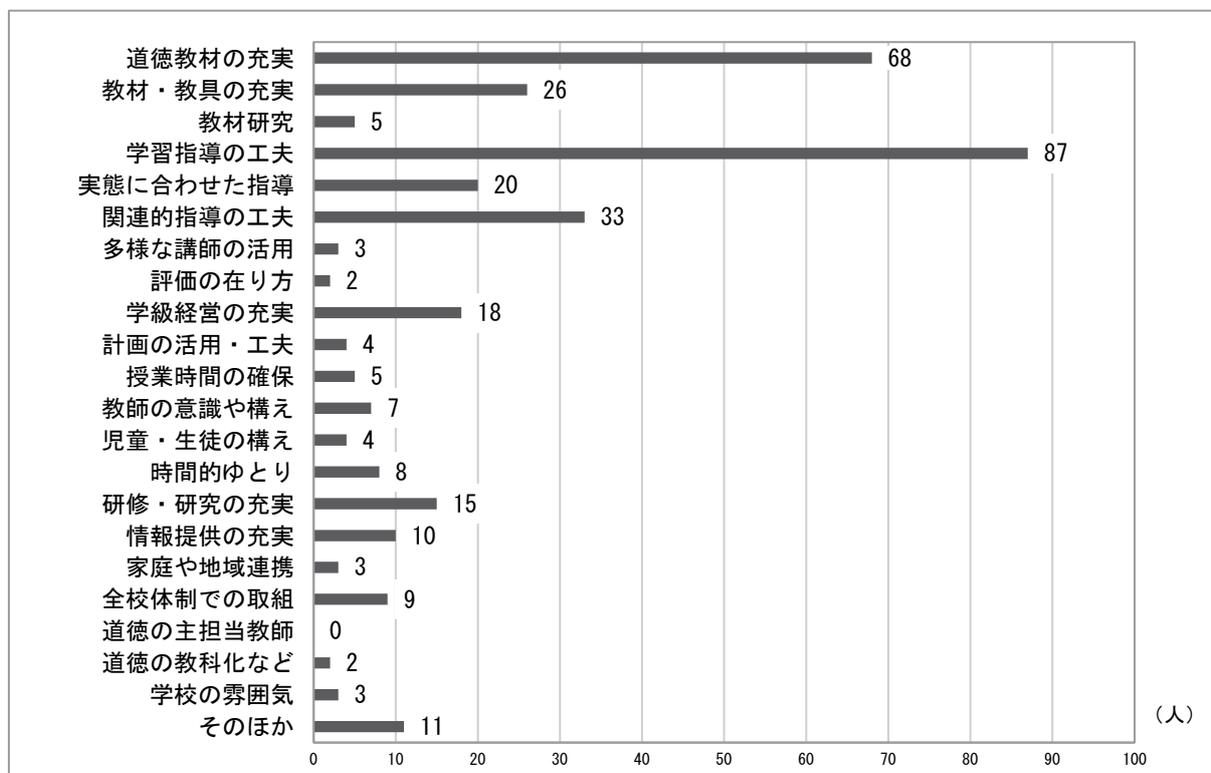


図 21 小学校教師の「道徳の授業の充実」の自由記述を分類した結果（ $n=320$ ）

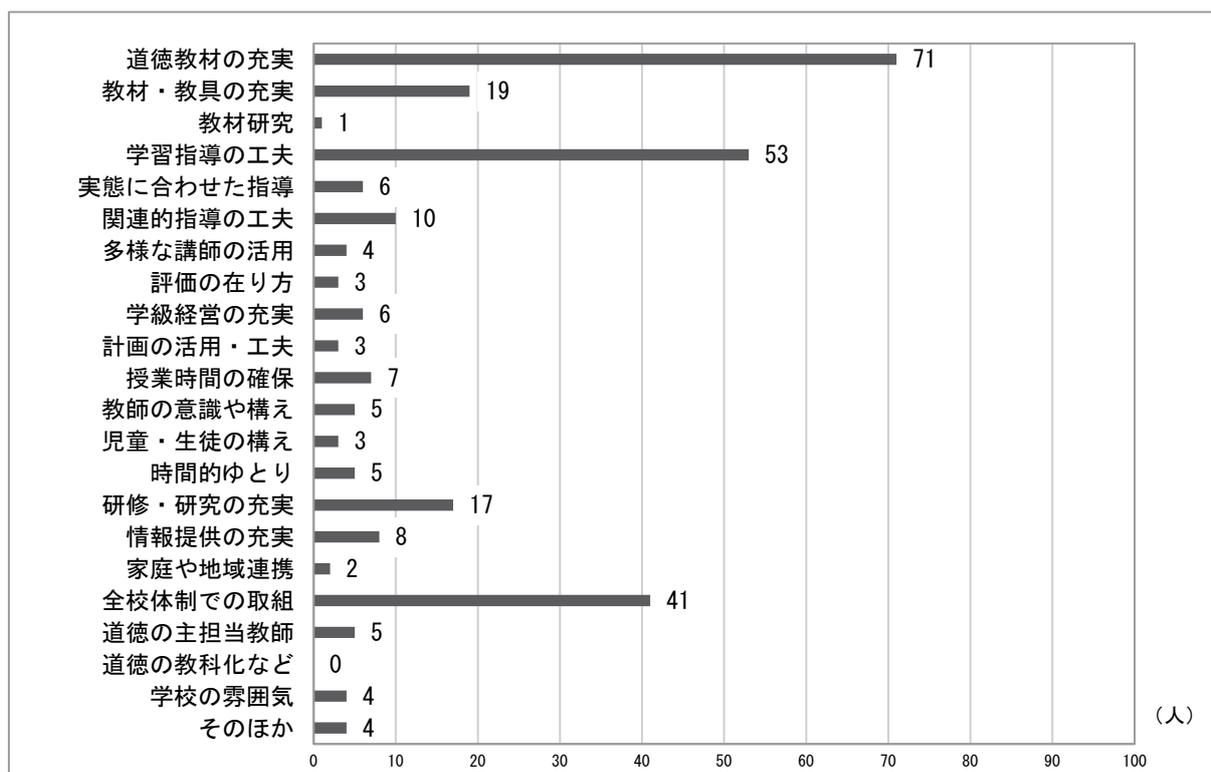


図 22 中学校教師の「道徳の授業の充実」の自由記述を分類した結果（ $n=248$ ）

②カテゴリー別回答例

学校段階別に、「道徳の授業の充実」に関する自由記述をコード（表 15）に従い分類した回答例を表 16 に示した。

表 16 「道徳の授業の充実」に関するコード別の回答例

	小学校	中学校
道徳教材の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●モラルジレンマのある教材。 ●葛藤を伴う教材の活用。 ●身近にある題材，共感が高まる題材を扱う。 ●自分事として考えられる教材だと，自分を重ね合わせて考えることができるのでは。 ●子どもたちが考えたくなる，自分と重ねたくなる教材。 ●教科書だけに頼らず，教師が感動したニュースや教材を使って魅力ある授業をする。 ●目の前の問題に対処する，ということより，様々なことにふれることが大切だと思います。 ●教材が学級の実態に合わない場合があるので，いくつかある中から選べるようにできるとよい。 ●教材（資料）が幅広く，また量も多い方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●タイムリーな問題やニュースを題材にできればいいと感じる。 ●モラルジレンマなど生徒が前のめりになって考えられて，オープンエンドな教材があると生徒も主体的に考えられる。 ●時事的な題材を取り扱う。 ●教科書の内容があまり生徒の実態にそぐわないとき，その代わりに使える副教材のようなものが多く示されていたらよいと思う。 ●生徒たちが自分ごととして捉えたり，共感できたりする身近な教材。 ●もっと多くの社会問題に触れ，多くの考えに触れ，自分の意見を醸成する機会が増えればと思う。 ●タイムリーな話題や，今の世代の子達の価値観に寄り添った教材や，例を出してあげることが重要だと感じました。 ●文章が短めなものの方が意欲的になる気がします。 ●教材の内容（ボリューム）が多く，議論する時間が短くなってしまっている。教材の量を減らし，その分議論の時間を増やせないだろうか。
教材・教具の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●DVDなどの映像を使うとわかりやすいし，集中もできる。 ●ICTを生かした教材や，教具がもっと充実し，自由に使えるようになるとよい。 ●ICT機器を積極的に使用していくべきであると思う。 ●教科書のデジタル教材に加え，板書の時に貼る挿絵等の紙ベース化，ギガタブでの資料（ワークシート等）の共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ビデオなどの映像資料をもっと使った方がいいと思います。 ●指導用動画の充実。 ●道徳の実践状況の共有。うまくいった活動，生徒の様子等をフォルダに保存していく。 ●ICTも活用し，もっと自由に自分の意見が述べられる工夫が必要だと感じている。
教材研究	<ul style="list-style-type: none"> ●教師が教材をよく読み，子ども達に何を考えさせたいかを考えた上で発問なども考え，授業にのぞむ。 ●教材研究を同僚と一緒にしたり，ICTを授業の中でどのように利用するのかを得意分野の先生と一緒に考えたりする時間を放課後に確保すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教材研究を複数で行う。授業内容を吟味して授業に臨む。

<p>学習指導の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小集団を使った話し合い活動を活発に行っていくこと。 ●板書の構造化，役割演技など多様な指導方法。 ●ペアやグループ等で，児童どうしが考えを伝え合う学習を取り入れる。 ●スプレッドシートを活用して相互に感想を伝え合える方法。 ●教材提示の工夫，子どもが「考えてみたい」「どうして?」と思えるような発問の工夫を行う。 ●内容に対して，じっくり考える時間を与えること，子どもたち同士で話し合う時間を十分に確保することなどが大切だと感じています。 ●教師が児童の考えを活かして，教師と児童で共に授業を創り上げ，児童の発言やノートに書かれたことを納得解としてまとめに反映していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小グループから学級全体で話し合いを深める授業展開。 ●子どもが考えようとする発問の意識や，現在どのように思っているかを取り上げ，深める授業展開。 ●自分たちの考えを基にして，コミュニケーションを図るようにしていく。 ●中心発問の早めの提示，補助発問の充実，役割演技の効果的な使用。 ●自分の考えを伝える授業だと思う。できるだけ，全員の考えを述べられるように工夫すべきだと思います。
<p>実態に合わせた指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●クラスの課題と似た道徳の教材を用いての授業。 ●クラスや学年の実態，課題に応じたテーマを取り上げて授業を行う。 ●校内の行事や学級内の人間関係の様子に合わせて行う必要があると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての内容項目を実施することに縛られることなく，その学校，その学級の現状を踏まえて重点的に実施することができれば良いと思う。 ●学級や学年の様子に合わせて教材を選ぶことがとても大切だと思います。
<p>関連的指導の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●総合的な学習や特別活動との関連。 ●児童の実態から重点項目を設定し，教科・領域と関連付けながら指導をしていく。 ●道徳の授業だけでなく，他教科等との関連を図ることを大切にする。 ●教科書以外の学級に即した体験的な学習は残りやすいようです。 ●日常生活と関連付けて考えられるよう，手立てを講じる。 ●身近な事柄や地域の問題を活用し，子ども一人一人が自分との関係に気付いたり，自分の経験と重ね合わせたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の教育活動との関連を持たせた授業の計画をし，展開をしていくこと。 ●道徳の授業のみで完結せず，教科横断的に単元を組み，視野を広げた学びにする。 ●行事や時期に応じたテーマで考える道徳。 ●旬なニュース，内容を中心に授業を作る。 ●人権学習との連携，学校行事との連携。
<p>多様な講師の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭や地域と連携を図り，ゲストティーチャーやアンケートなどを授業に活用する。 ●学校外の人材を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外部講師や地域の人，企業等の協力を得るのも良いと思う。 ●担任以外の授業。（ゲストティーチャー）

<p>評価の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●授業で意図的に扱う難しさもありますが、考える観点を明確にし、振り返る材料としてはいいと思います。ただ、評価するのはとても難しく、安易に表現してよいものなのか悩むことがあります。 ●日々の教育活動で得た道徳的価値を道徳の時間に補ったり、深め発展させたりするためにも、ポートフォリオによる児童の見取りが大切であるように思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●評価を行わない。 ●評価化など聞こえはいいですが実践は現場に投げられています。もう少し柔軟に取り組みせてもらえた方が負担感は無くなるのではないのでしょうか。
<p>学級経営の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学級経営を充実させる。 ●多様な考えを認め合えるような雰囲気作りに努めたい。 ●人の意見に傾聴したり、認めたり、自分の意見を臆せず言える学級経営づくりを授業のなかでも行う。 ●自分が反対意見を持つ時にも、しっかり発言でき、それに対して話合いができる雰囲気があれば、いろいろな考え方ができ、意欲的に取り組めると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●お互いが意見を言いやすい支持的風土がまずは大切だと考えます。皆で意見を伝えあい、お互いを認めることが必要だと思います。（全員参加） ●話合いができる学級づくりがまずは大事だと思う。 ●クラスの人間関係が構築された中で授業を進めていくことがより効果的であると感じる。
<p>計画の活用・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科の年間指導計画との連携が見られる計画表の作成。 ●各学年で、カリキュラムを作成し持続可能な道徳教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級の現状に合わせて、柔軟にカリキュラムを設定する。
<p>授業時間の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書を確実に週に一度、計画に沿って行っていく。その習慣を学校全体で築いていく。 ●期を逃さずタイムリーな指導ができるよう、柔軟な時間の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳の授業を毎週決まった時間割の中で実施することを全学級、全校できちんと実施すること。 ●週の授業時数を削減し、道徳授業を考える時間の確保。 ●他の教科に振り替えたり、行事のために潰したりしないこと。これを絶対条件としてしまうと、余計に苦手意識でいっぱいになってしまう人もいるので、弾力的に実施できるようにすること。
<p>教師の意識や構え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教師が子どもたちのどんな発言も許容できるかどうか。 ●一時間一時間を大切に取る。 ●教師自身が人間としてよりよく生きようと教師という仕事・授業に臨むこと。 ●日頃の学級経営において、教師の言葉使いに気をつけることが大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まず教師自身が楽しめること。 ●教師も生徒も自分事として考えていくこと。
<p>児童・生徒の構え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な人との関わりに気づく。お互いの気持ちのずれに気づく。 ●子ども一人一人の考えを尊重していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活発的な生徒の発言がもっとあれば充実すると思う。

時間的ゆとり	<ul style="list-style-type: none"> ●教材研究，授業準備の時間をもっと確保できるようにする。 ●実態を把握し，教材研究と教師間で話し合う時間の確保とゆとり，授業後教師が振り返る時間。 ●職員同士が実践を気軽に振り返られる時間があればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教材研究の時間の確保。 ●道徳の授業準備の時間を増やし，質を高めること。
研修・研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●学校全体で規模が小さくとも公開授業及び校内研修を充実させる。 ●校内での研修や授業研究会で指導方法や教材，評価の方法などについて一緒に研修する時間を多くする。 ●互見授業の実施とそれに向ける教員側の前向きな意識改善。 ●複数人で授業研究，検討する時間を確保できれば，道徳の楽しさに気づく機会の一つになると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳の授業を参観しあうこと。授業像が見えないと，不安で取り組む意欲もわからない人もいるのではないかと思います。 ●授業を見合う会を設定し，一人一人が授業を行う・参観する機会を持つ。 ●校内研などで取り上げ，皆が話したり共有できたりする場を増やす。 ●研究授業含め研修の機会などが学校全体で作れると良い。
情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●資料のデータバンクがあると助かります。 ●授業の発問や切り返しについての例をまとめたもの，導入や終末に活用できる新聞，詩，絵本などの資料集，映像集などがあるとすぐに授業に取り組めてよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いい資料を共有する仕組みの構築。 ●やってみてよかった教材や指導案の共有があるといいと思います。 ●授業づくりにおけるアイデアやICTの活用法の例。
家庭や地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭の協力や関心度が上がることにより，子どもの活動が認められていけば，更に主体的に考えようとするのではないかと思います。 ●学校で重点項目を保護者に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●難しいかもしれないが，家庭との連携をもっと図りたい。学校が，「しつけ」を担うことが増え，道徳もそれに近いような部分もある。家庭にも道徳の授業について知ってもらい，両面から生徒の成長を図って行けたらと考えている。学級通信などで道徳の様子を伝えているが，もっとできることがあるはず。 ●家庭との連携をもっと図りたい。 ●家庭を巻き込んでの授業。
全校体制での取組	<ul style="list-style-type: none"> ●管理者による道徳授業。 ●学年にて交換授業を行う。 ●今年度より，学年内でローテーション授業を行っていますが，子どもにとっては先生が代わる新鮮さ，教員にとっては教材研究が深まるよさがあり，とても充実しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ローテーション授業をして，教員の指導力を高めたり，生徒を複数の眼で評価したりすることが大切。 ●学年内で，授業をする先生をローテーションにし，新鮮味を持ち，生徒が学べるようにする。 ●職員の熱量も違うため，担任以外も道徳の授業に関わっていくことが大切だと思う。 ●担任に一任しない。 ●複数教員での指導案の検討，相談する体制を整える必要があると思う。
道徳の主担当教師		<ul style="list-style-type: none"> ●道徳専任教師をつける。 ●道徳専門の教科担当をつける。 ●道徳専門の先生を育成すべき。中学校では，教科担任制なのに評価が必要な道徳だけ，免状がいらぬのかが問題。

道徳の教科化など	<ul style="list-style-type: none"> ●教科化されたことが大きいと思います。 ●道徳の教科化をやめる。 	
学校の雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> ●特に年数が少ない先生は道徳の授業で悩むことが多いと思うので、道徳の授業の話を職員室等で積極的にしていくべきだと思う。 ●教材解釈について、職員室で気軽に話せる雰囲気が大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員室で気軽に道徳の授業の話ができる環境があると道徳教育が充実するなあと考えています。 ●「道徳」が全職員の教科の垣根を超えた共通言語として、道徳の授業づくりなどについての会話ができる職場の雰囲気づくり。
そのほか	<ul style="list-style-type: none"> ●必ず教科書通りの教材を用いる必要があるせいで、道徳が教訓を教え込むものになりがちです。 ●「みんな」が何を指しているかにもよりますが、教員を指しているとすれば、もっと気軽に道徳の授業を参観できるようにすればいいと思います。そのためには、もっと填補でクラスに入ってもらえる教員を増やして欲しいです。特に、小学校では、教員の数が足りません。(私自身が小学校も中学校も経験した上での考えです。) 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書を廃止する、或いは編集委員会が作成した文章を掲載しないようにしてほしい。 ●普段の生活指導が道徳と考えるので、道徳の授業自体が必要なかわかりません。 ●生徒自身の思考力。

「道徳の授業の充実」に関する意見をカテゴリー別に分類した結果、全体として「道徳教材の充実」と「学習指導の工夫」の2つのカテゴリーに関する意見が多く寄せられた。道徳授業の充実を図るためには、身近な題材や子どもたちが共感しやすい内容を取り入れるなど、内容の充実を図ることが重要である。また、教材の内容を幅広く取り扱い、教材や文章の量についても適切に検討する必要がある。また、話合いや自分の考えを伝える活動など、子どもたちが主体的に参加できる活動を取り入れることや、板書や発問の仕方など、授業展開に工夫を加えることが重要であると考えられる。

小学校と中学校をそれぞれ見ると、小学校では「道徳教材の充実」と「学習指導の工夫」に関する意見が多く見られ、次いで「関連的指導の工夫」に関する意見が多かった。一方、中学校では「道徳教材の充実」「学習指導の工夫」「全校体制での取組」の順で意見の頻度が高かった。「全校体制での取組」に関する意見の頻度に大きな違いが見られたのは、小学校と中学校の指導体制に違いがあるためであると考えられる。なお、カテゴリー別の回答内容については、小学校と中学校の間に大きな違いは見られなかった。

4 道徳の授業の特別教科化による変化

(1-1) 道徳の時間の指導経験の有無

表 17 および図 23, 図 24 では, 調査協力者の「道徳の時間の指導経験の有無」に関して, 学校段階別に, 小学校段階および中学校段階の人数, 割合を示した。また, そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

表 17 道徳の時間の指導経験の有無

	小学校段階				中学校段階			
	回答者全体		推進教師 (内数)		回答者全体		推進教師 (内数)	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
以前の指導経験がある	534	63.0	292	34.4	373	54.9	265	39.0
以前の指導経験がない	314	37.0	156	18.4	306	45.1	166	24.4
合計	848	100	448	52.8	679	100	431	63.5

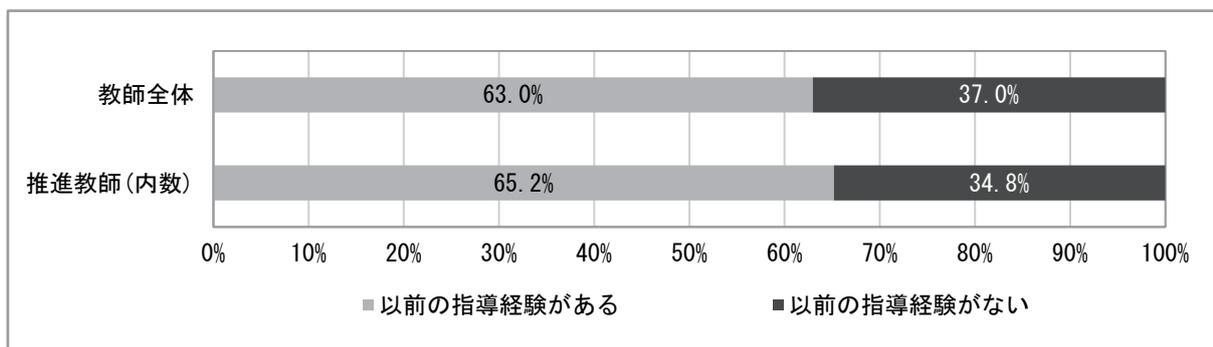


図 23 道徳の時間の指導経験の有無：小学校・回答者全体 (n=848, 推進教師 内数 n=448)

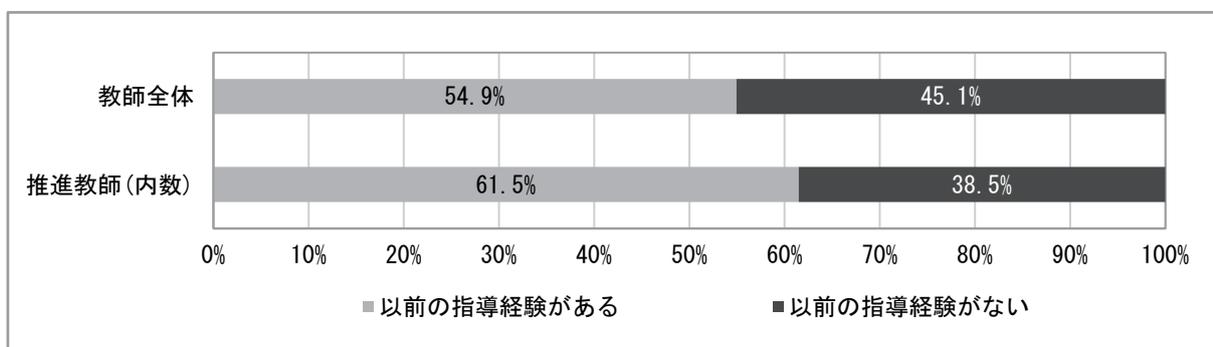


図 24 道徳の時間の指導経験の有無：中学校・回答者全体 (n=679, 推進教師 内数 n=431)

(1-2) 道徳の時間が「特別の教科」である道徳科になって変わったこと

図 25 から図 28 では、上記「①経験がある」と選択した調査協力者が感じた「道徳の時間が「特別の教科」である道徳科になって変わったこと」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

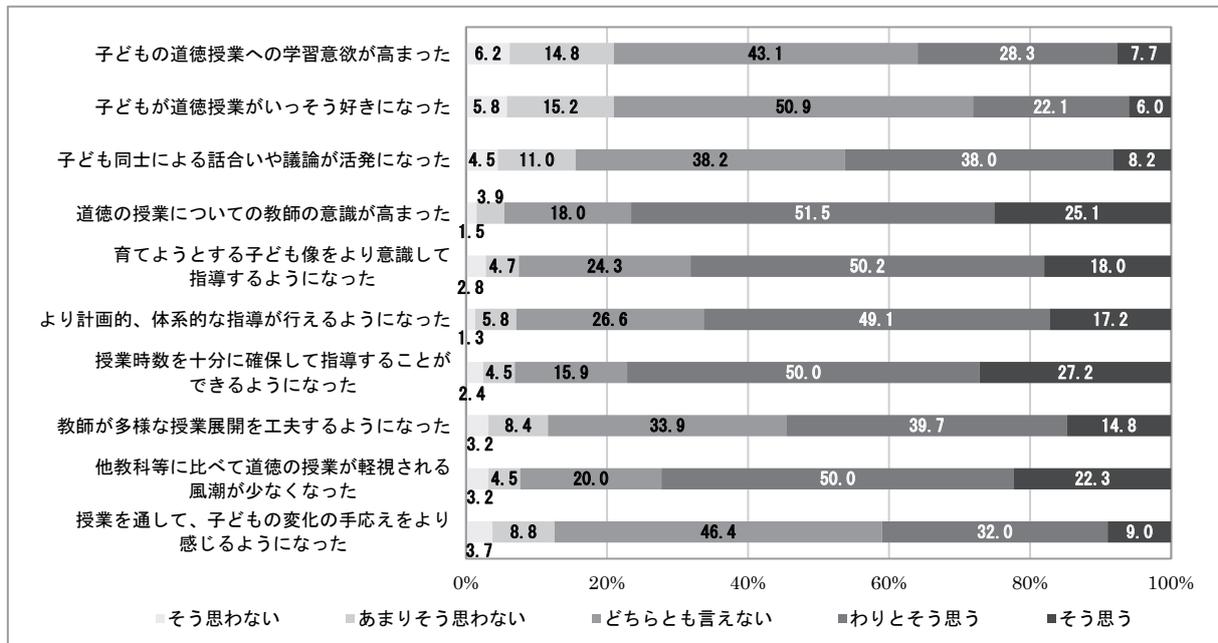


図 25 道徳の時間が道徳科になって変わったこと：小学校・回答者全体（ $n=534$ ）

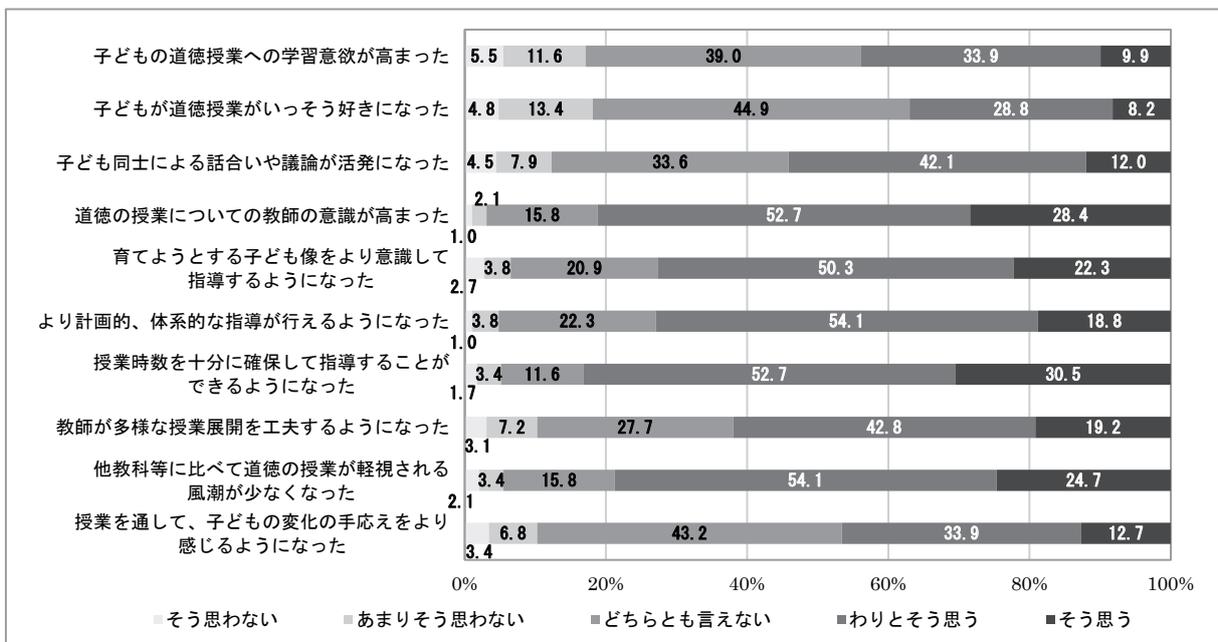


図 26 道徳の時間が道徳科になって変わったこと：小学校・推進教師 内数（ $n=292$ ）

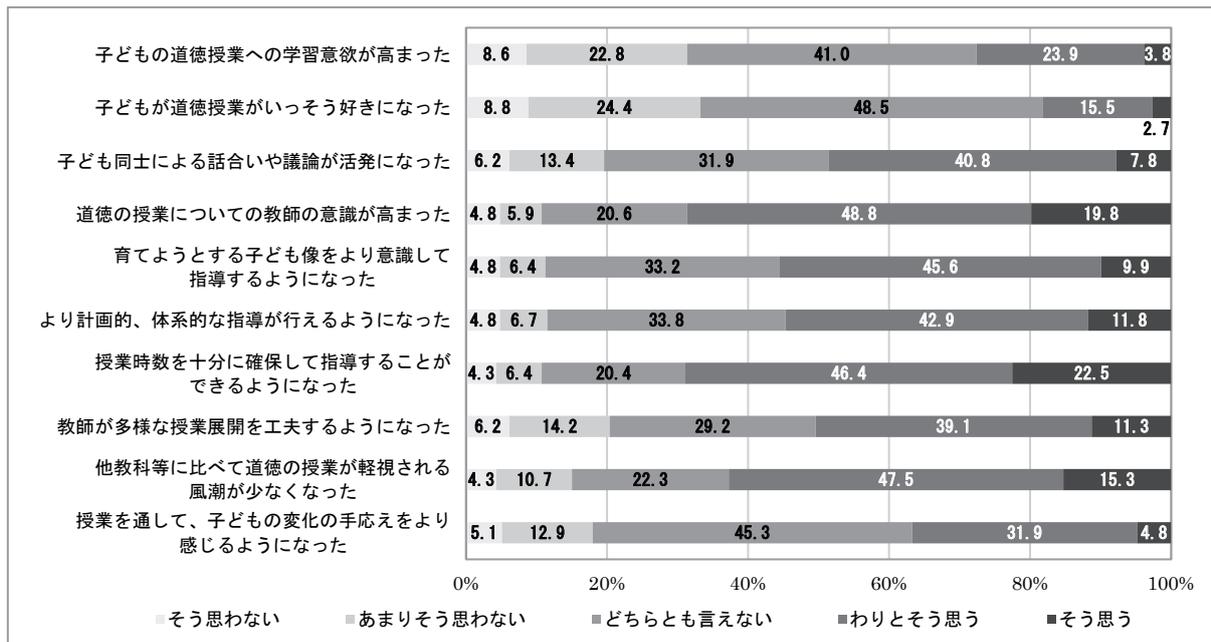


図 27 道徳の時間が道徳科になって変わったこと：中学校・回答者全体（n=373）

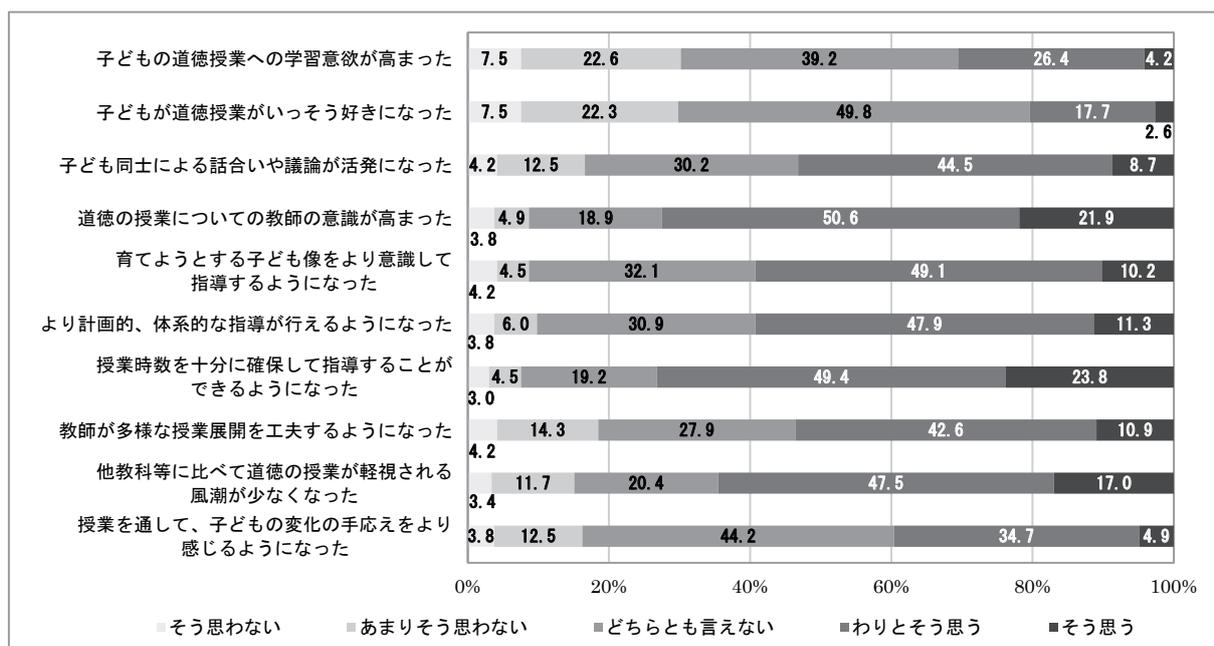


図 28 道徳の時間が道徳科になって変わったこと：中学校・推進教師 内数（n=265）

小学校、中学校ともに教員が強く変化を意識した項目としては、「道徳の授業についての教師の意識が高まった」「授業時数を十分に確保して指導することができるようになった」「他教科等比べて道徳の授業が軽視される風潮が少なくなった」であった。一方、相対的に強く感じていないとされた項目としては「子どもの道徳授業への学習意欲が高まった」と「子どもが道徳授業がいっそう好きになった」であった。特に中学校の教員は、この2項目において小学校の教員よりもマイナスの意見をもつ割合がやや高かった。

(2) 道徳の授業の特別教科化に対する考え

分析に先立ち、「道徳の授業の特別教科化に対する考え」に関する自由記述を分類するためのコードを作成した(表18)。なお、肯定的な意見については「+」、否定的な意見については「-」、中立的な意見については「±」として分類した。

表 18 「道徳の授業の特別教科化に対する考え」自由記述分類のコード表

カテゴリー	符号	含まれる内容の例
教科書・教材の充実	+	教科書の選択肢 道徳的価値をバランスよく取り扱える 教科書を無視しない
	±	教科書を使う義務感の増加
	-	質が悪い 懐疑的 価値観の押し付けや教え込み 教科書に縛られる オリジナル教材が使えない クラスの実態に合っていない
教材研究の充実	+	教材研究の充実 教材研究の意識の向上 教材研究の共有 教材研究の時間確保
	±	教材研究の時間が必要
	-	教材選びの難しさ 教材研究の時間不足
授業の充実	+	指導の工夫 活発な話し合い 柔軟性 平等な指導 質的確保 量的確保
	±	議論の意識 将来に向けての授業
	-	授業内容の変化 こなす授業 進め方が手探り 学級の実態に応じた指導が不可能
指導内容の充実	+	学習内容やねらい、道徳的価値の明確化 内容項目の網羅
	±	
	-	内容項目の多さ 内容の精選
関連的指導の工夫	+	他教科でも活かそうとする意識
	±	他教科にも道徳は含まれる 教師の働きかけの必要性
	-	
研修・研究の充実	+	研修や研究の充実 勉強会や相談 道徳の研究が可能 研究が盛ん
	±	
	-	道徳の研修不足 教師の勉強できる環境が不十分
教師の意識	+	教員の意識の向上 若い教員の道徳への興味 大切に扱う 道徳について交流しやすくなった 子どもの変化をみとる
	±	やらなくてはいけないものにはなったがやりたいものにはなっていない
	-	軽視している教員が減らない 重要性の理解が乏しい 教師の意識の差
児童・生徒の意識	+	授業が当たり前を楽しみに 生徒が道徳の授業を大切に 子どもの関心の向上 週一の学習が当たり前
	±	言わんとすることがわかる
	-	子どもの意識に大きな変化はない 形式的に答える子ども

保護者の意識	+	保護者の評価への抵抗は小さくなった 保護者が授業の時間を大切に
	±	
	-	
児童・生徒の変化・変容	+	子どもの人間形成に役立つ 他の教育活動での子どもの変容 他教科でも発表の仕方を意識 道徳が好きな生徒の増加
	±	
	-	児童の変容が見られない 子どもに変化なし
評価の受け止め	+	評価を意識するように 信頼性・妥当性のある評価 評価が文章であることは良い 保護者理解が深まる
	±	評価を付けるように 通知表に所見を載せるように
	-	評価が難しい 評価が大変 評価が曖昧 評価方法に学校差 評価に疑問 評価は不要
負担感	+	負担が軽減 準備の負担が減った
	±	
	-	負担が大きい 負担の増加 学級担任の負担
時数の確保	+	時数の確保 授業を欠かさずやる
	±	時数を気にする
	-	時数確保の難しさ
計画的な実施	+	計画的になる 計画通りの実施 学年道徳の実施 学年ごとに統一して授業を行う
	±	
	-	形骸化 こなすことが目的 やればよいという授業
指導体制の充実	+	ローテーション道徳への負担が減った
	±	専門教員が必要
	-	
教科としての位置づけ	+	教科の位置づけが高い 教科として確立 適当に流さなくなった
	±	
	-	道徳の授業を優先させすぎている
教科化の受け止め	+	よいとおもう 意義がある 良さがある
	±	
	-	良くなったとは言えない やめた方がいい 一部の人のために変えないでほしい
変化がないこと	±	変わらない 変化なし 以前と変わらない 自分は変わったが全体としては変わっていない
その他	±	深まりのある思考 自分を振り返る 学級経営につながる

①カテゴリー別回答数

学校段階別に「道徳の授業の特別教科化に対する考え」に関する自由記述をコード（表18）に従い分類した結果を表19に示した。なお、一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は、それぞれを分割して分類し、複数回カウントした。

表 19 「道徳の授業の特別教科化に対する考え」の自由記述を分類した結果（ $n=392$ ）

	小学校段階 ($n=219$)			中学校段階 ($n=173$)		
	+	±	-	+	±	-
教科書・教材の充実	4	0	13	3	2	13
教材研究の充実	3	5	1	4	0	1
授業の充実	14	2	7	14	1	11
指導内容の充実	9	0	0	6	0	2
関連的指導の工夫	2	2	0	0	0	0
研修・研究の充実	3	0	1	6	0	2
教師の意識	44	4	10	30	0	6
児童・生徒の意識	5	1	3	4	0	0
保護者の意識	1	0	0	1	0	0
児童・生徒の変化・変容	3	0	2	3	4	1
評価の受け止め	8	4	39	5	2	17
負担感	0	0	3	3	0	8
時数の確保	16	0	0	22	2	1
計画的な実施	9	0	4	6	0	2
指導体制の充実	0	0	0	1	4	0
教科としての位置づけ	2	0	0	1	0	1
教科化の受け止め	8	0	4	0	0	1
変化がないこと	-	15	-	-	5	-
その他	-	3	-	-	7	-

②カテゴリー別回答例

学校段階別に、「道徳の授業の特別教科化に対する考え」に関する自由記述をコード（表18）に従い分類した回答例を表20に示した。

表20 「道徳の授業の特別教科化に対する考え」コード別の回答例

		小学校	中学校
教科書・教材の充実	+	<ul style="list-style-type: none"> ●以前の道徳と比べると、教科書（教材）の選択肢が広がった。 ●教科書があることで、年間で扱う道徳的価値においてバランスよく取り扱えるようになったと思う。 ●一人ひとりに毎年教科書がもらえるのはよい。（以前は学校の副読本を使い回していた。） 	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳の教科書やノートがあるのはありがたい。 ●教科書を無視した指導はなくなりました。
	±		<ul style="list-style-type: none"> ●いい意味でも悪い意味でも教科書を使って授業する人がほとんどになった。 ●教科書を用いて行わなければいけない義務感が強くなったこと。
	-	<ul style="list-style-type: none"> ●教科化によって、より視点の狭い教材が増えました。教材の良さが半減してしまい、分かりきった結末になったり先人のすごさが伝わらないものが多くみられます。道徳をきちんとやることには大賛成ですが、優れた教材を使えるような配慮が欲しいです。 ●教科書を使う必要が増えた。 ●副教材が使いにくくなった。 ●教科書を使うことで内容が画一的になったように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書があるのはよいが、扱いづらい話が多い。 ●教科書が使いにくい。（読み取りに時間を要する。魅力的に感じる教材が少ない。） ●年間指導計画に沿って授業を行うが、その教材がクラスの生徒に合っていないことがある。順番を変更して指導したいときがある。 ●教材の入れ替えが難しくなった。
教材研究の充実	+	<ul style="list-style-type: none"> ●どの教員もより教材研究するようになった。 ●毎時間どのような授業の構成で授業を行っていくかについての教材研究の時間が以前より増したと感じる。 ●教科書があることで、文科省のアーカイブや全国の研究会などで研修することができるのでより充実した教材研究ができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学年職員で教材研究を共有することで、より充実した授業を行うことができた。 ●教材研究の時間が増えた。 ●教師が道徳の授業に向けて教材研究の意識が高まってきたように感じる。 ●特別変わったことはないが、教材を選ぶという時間が減った。
	±	<ul style="list-style-type: none"> ●授業時数ばかりを気にしてきちんと教材研究をせず授業を行い、こなすことが目的となってしまっている方もいると思います。そのようなことを防ぐためにも教材研究の時間の確保が必要だと思います。 	
	-	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書が決まったことにより、よりよい教材を選びにくくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科化となったものの、教材研究に十分な時間はかけることができていない。

授業の充実	+	<ul style="list-style-type: none"> ● 考え議論する道徳科の授業への関心が高まり、授業の質や量的確保につながった。 ● 子どもの関心が高まった。また、教科書があることにより、効果的な指導ができるようになった。 ● 評価をつける為、教師の立場ではよりねらいを意識して授業をするようになったが、子どもの意識に大きな変化はないように感じる。保護者の「道徳を評価すること」への抵抗感はだいぶ小さくなってきたように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● だれもが教科書を使用して平等に授業ができるようになった。 ● 教科書があることで、計画的、まとめりや見通し、統一性をもって授業が出来ている。 ● 子どもたちと人間としての生き方を一緒に考え合える時間が確保されて良かったと思う。 ● 以前に比べて、生徒同士の話し合い活動を取り入れる場面が増えてきていると思います。
	±	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の心の変容をみとれる、そして児童自身がそれを感じられるノート作りをしたいと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 短時間で子どもの変容を感じることも、将来に向けて変わるであろうきっかけになればと思い授業をしています。
	-	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書を使用しなければならず、実態にあった道徳が行いにくい時が増えた。 ● 授業時間の確保がされるようになったが、教科書にあてる時間を考えると、学級や子どもの身近にある課題について考える時間をつくるのが難しくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業化されたことで担任や授業者の裁量がなくなり、学級の実情を鑑みた道徳に関わる活動ができなくなった。 ● 評価が念頭に置かれるため指導に柔軟性が無くなったように感じる ● 内容項目に沿って指導できるが、それぞれの教師の持ち味が出しにくくなったと思う。
指導内容の充実	+	<ul style="list-style-type: none"> ● 価値についてより明確に理解し、せまることができるようになった。 ● 教師が追求したい道徳的価値について明確になり、それに向かう発問や問い返しにより話し合いが活発になり深く考えることができる授業が多くなった。 ● 全ての項目について網羅することを意識するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な指導方針がよりはっきりしたように感じます。 ● 年間の計画が明確に立てられ、学習内容が明確になったことで、授業に対するハードルが下がった。 ● 成績をつけることを意識して授業を行うようになったため、その単元で生徒に身につけさせたい力や考えてほしいことが明確になりました。 ● 必ず全ての価値項目を扱うようになった。
	±		
	-		<ul style="list-style-type: none"> ● 内容項目が多い。系統的に分けてもよいと感じる。
関連的指導の工夫	+	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の授業の役割が大きく変わったとは思わないが、道徳を他の教科や生活全体の中で活かそうという意識は高まったように思う。 ● 他教科や他の活動と道徳の授業をつないで指導したりすることが多くなった。 	
	±	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の学習は、道徳以外の学習にも含まれること。 ● 実際場面で、児童が学んだことを活かし、生活ができるように教師がさらに働きかけることが必要。 	
	-		

研修・研究の充実	+	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳推進教師の研修があったり、校内研究で道徳になったりし、評価のことや授業の組み立てなどゼロから学ぶことができたのはとても大きな機会になった。研修に行けばベテランの先生方の講演を聞くことができ、学ぶ機会が多かったのがよかった。なんだかんだで盛り上がり、よく話題に上がっていたのを覚えています。 ● 道徳の所見も書くようになり、教師が授業内容について研究しようとするようになったこと。 ● 日本全体や自治体、個人での研究が蓄積されていくので嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科になったことで、道徳について研究を行う機会が増えた。 ● 教科化によって、より道徳の研究をするようになった。 ● 研修の機会も増え、より効果的な授業のつくり方についても考えられるようになりました。
	±		
	-	<ul style="list-style-type: none"> ● 久しぶりの担任で、道徳科の研修が不足していることを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科化したのが、教師が勉強できる環境の整備がまだまだ不十分である。指導案があるだけではなく、真髓やスキルや話術を学べる動画等が必要である。 ● 時数の確保はされるようになったが、指導方法や内容についての検討や研修が不十分。
教師の意識	+	<ul style="list-style-type: none"> ● 以前も現在も児童の道徳授業についての様子の変化はあまり感じないが、教師側の意識は高まったと感じている。 ● 「道徳の授業を軽視する」ということはなくなったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは教師の意識が高まったことがよかったことだと感じる。 ● 以前よりも先生方が道徳の授業に取り組むようになった。 ● 計画的に授業を行うようになり、生徒の変化もより注意深く観察しようという意識に変わりました。 ● 主として、教員側の自覚が変化したと思う。(授業者が授業をしやすくなった。評価や目的を明確に授業を行えるようになった。) ● 道徳科の授業を軽視することがなくなりました。
	±	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の意識も、「やらなくてはいけないもの」にはなったが「やりたいもの」にはまだ変容していない。 ● 子どもたちも教師毎週 1 時間学習するのが当たり前だと感じている。 	
	-	<ul style="list-style-type: none"> ● 移行したことを意識する教師とそうでない教師で年間 35 時間きっちり授業を行うか、道徳の授業に違う内容のことをする(配布物、学級で起きたトラブルの話し合いなど)などの差が大きくなった。 ● 移行してもなお、道徳を軽視する風潮は変わらないことが残念。 ● 未だに意識の変わらない教員がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の意識の差を埋めていく必要がある。 ● 担任がやればよいという風潮は変わらない。 ● 未だに軽視する教員が絶えない。

児童・生徒の意識	+	<ul style="list-style-type: none"> ●教師の道徳科に向かう意識や姿勢が変化し、1時間1時間をしっかりと取り組むようになった。それにより、子ども達の道徳科に取り組む姿勢も変わったと感じる。 ●児童や教職員は道徳という学習に対して、以前よりも意識して取り組んでいるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳の大切さを生徒も教師も認識している。 ●教科書があることで、教師にとっても生徒にとっても道徳の授業が当たり前に楽しみになったと思う。
	±	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちも教師毎週1時間学習するのが当たり前だと感じている。 	
	-	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもや教師の意識はあまり変わっていない。 ●小学校の高学年になると、教材に対してどのようにこたえればよいのかわかっているのに、形式的にこたえる子どもも増えてくると感じる。 	
保護者の意識	+	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者の「道徳を評価すること」への抵抗感はいま小さくなってきたように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者が道徳の時間を大切に考えてくださり、生徒もそれが伝わっていることが分かった。
	±		
	-		
児童・生徒の変化・変容	+	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳の授業が要となって、他の教育活動の子どもたちの変容に繋がっている。 ●子どもの人間形成に大いに役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳が、好きという生徒が増えた。安心して授業を受ける様子が見られる。 ●道徳以外の授業でも発表の仕方など意識できるようになっている。
	±		
	-	<ul style="list-style-type: none"> ●教師の意識は変化したけど、子どもの意識を変えるところまでは至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳を教科化したところで、あまり子どもに変化があったようには感じられない。
評価の受け止め	+	<ul style="list-style-type: none"> ●評価があるので、一人一人の心の成長や伸びを把握しやすくなった。 ●評価が加わったことにより、教師の説明責任が果たせている。 ●評価の方法が文章表記で、ABCなど数値化されていないのはいいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●評価を書くので子どもの意見をより丁寧に後から振り返るようになった。 ●評価もあるので、記録や生徒への啓発も行うようになった。
	±	<ul style="list-style-type: none"> ●通知表に所見を載せることになったことが大きな違いです。 ●評価を開示するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒一人一人に文章による評価を行うことになりました。授業の在り方や内容そのものが大きく変化したとは思いません。というか、大きく変化させていません。
	-	<ul style="list-style-type: none"> ●所見を書く必要があり、負担感が増した。 ●評価が難しい。 ●通知表に書く頻度は学校によって様々で、また、評価についてどのような表現で伝えるかについて非常に神経を使います。 ●評価をするものではない。 ●ワークシート等返却するので、通知表への所見はいらないと思う。 ●文章で評価することになったけど、道徳の授業だけで児童の人間性に影響を与えることは難しいため、評価の必要性については疑問である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●評価に対する負担が大きい。 ●所見入力教師の負担になっている。 ●評価するのが大変である。 ●評価の方法が学校間で違うため、異動先で戸惑うこともある。 ●道徳の評価は内面的な事もあるのでそれ自体を良い・悪いで評価するのは好ましくない。 ●評価の必要性を感じない。変容が見て取れる生徒はごく一部に思う。

負担感	+		<ul style="list-style-type: none"> ●準備をゼロから始めない分、負担感は減った。資料があるので、授業への工夫が考えられた。 ●担任以外も授業を行い、協力することで、負担軽減になり、やり易くなった。
	±		
	-	<ul style="list-style-type: none"> ●記録をきちんと残さなければならないなど、やらなければならないことが増えた。成果は上がってはいないと思います。増えたのは負担のみです。 ●指導要録や通知表への評価欄ができたことで、教員の負担が増えた。 ●文章で記録に残すのは、ただの負担増で、マイナスにしかない。(通知票や要録。) 	<ul style="list-style-type: none"> ●依然として担任の負担が大きいと思う。 ●現場の負担が増した。 ●多忙を極める中勤務時間外に準備する項目がひとつ増えたこと。
時数の確保	+	<ul style="list-style-type: none"> ●35時間、確実に行うことがいい。 ●確実に週1時間確保できるようになった。 ●授業時数が十分に確保できるようになったことが良かった。 ●以前は、道徳の授業を別の授業の時間に当てることがあったが、道徳科に移行してからは、基本的に週1時間授業を行わなければならないという思いを、多くの教師が持つようになったと感じています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業を欠かさずやるようになった。 ●学校として授業時間をしっかりと確保してもらえようになったのは大きいです。 ●教員が道徳の授業を学活などに変更することが少なくなったように思います。 ●道徳を他の授業に振り返ることが少なくなったのは良い。
	±		
	-		<ul style="list-style-type: none"> ●どうしても35時間の確保は難しい。あまりそこを強調しないでほしい。先生方は充分ある時間の中で授業を行っている。
計画的な実施	+	<ul style="list-style-type: none"> ●各項目を等しく指導するようになった。 ●時数を意識することで、計画性が増した。 ●35時間分の教材を考え、計画することが楽しい。 ●初めは少し抵抗があったが、より体系的に指導を行えるようになったので、一定の効果はあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●しっかりと計画を立てるようになった。 ●各学年で、統一して道徳に取り組む意識ができていくように思う。 ●特別に大きな変化はないように感じますが、「どう評価するか」を意識しながら、計画を立てるようになったと思います。
	±		
	-	<ul style="list-style-type: none"> ●授業時数ばかりを気にしてきちんと教材研究をせず授業を行い、こなすことが目的となってしまっている方もいると思います。 ●毎時間、「こなす授業」にはなったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●義務的に授業を行う先生も多くなった。 ●教科化される時には、たくさん勉強しましたが、やはり時間が経つと形骸化しているように思います。しかし、授業として確保されてしまったと思っているかたもやらざるを得ないので、道徳の炎を絶やさないようにしないとけないと自分自身ではそう思っています。

指導体制の充実	+		<ul style="list-style-type: none"> ● 学年全員でローテーションで道徳を回すことに拒否反応はなくなった。
	±		<ul style="list-style-type: none"> ● 「特別の教科」となっているので、専門の教師が必要であると感じる。 ● 担任以外も授業を行えるようにした方が良い。 ● 道徳専門の教員があったほうが良い。
	-		
教科としての位置づけ	+	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科としての位置づけが高くなった。 ● 教科として確立したと思う。やって当たり前になった。正直なところ、以前は他教科の授業時数に充てることもあったので。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適当に学年で流さなくなった。学年全員でローテーションで道徳を回すことに拒否反応はなくなった
	±		
	-		<ul style="list-style-type: none"> ● 授業時間の確保が難しい中、道徳の優先度が高く教科の学習の時間が確保されないことは無くしてもらいたい。他の教科と同等にすべき。優先させ過ぎている。
教科化の受け止め	+	<ul style="list-style-type: none"> ● よいとおもう。 ● 成績をつけるようになり、とても不安だったが、やってみれば、良いように変化できたと思う。以前は、軽視されがちだった。道徳は毎週きちんとやるのが何より大事だと思う。 ● 道徳科に移行したことはとても良かったと思いますが、職員全員がその意義を理解して取り組んでいるかは…。 	
	±		
	-	<ul style="list-style-type: none"> ● やめた方が子どもたちの心が多様で豊かになる。 ● 以前から、まじめに道徳に取り組む学校、取り組む先生方は道徳の時間をないがしろにせず、行ってきた。一部の教員のために、カリキュラムを大きく変えるのは、現場としてはやめてほしい。 ● 道徳が心の学習であるならば教科には適さないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳は教科ではないと思っています。教科であれば専門に勉強し免許を取得した教師を配置することを望みます。道徳の授業が嫌なわけではなく、教科としての扱いに戸惑いがあります。
変化がないこと		<ul style="list-style-type: none"> ● 指導していることはそんなに変わっていないと思います。 ● 道徳が、特別な教科であることも、道徳がすぐに子どもを変えるものではないことも、以前から変わらないと思います。 ● 以前と比べてとても変わったか、といわれるとあまり変化はないように思います。教科化となっても、道徳の授業を軽んじている方もいらっしゃるなど感じることはあります。 ● 教科になる前から児童の実態に合わせた授業実践を心がけていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 変わらない。 ● 学校現場では特に大きな変化がないように感じる。 ● 自分自身は推進教員としてこれをしなければ、あれをしなければと色々考えるようにはなったが、学校全体としてはあまり変化は見られない。評価をしなければいけないという負担感がある。

その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分を振り返る。 ● 非認知能力について知る機会が増えた。 ● 学級経営につながっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科化したか否かよりも、学校全体として「道徳」にどのように取り組むかの方が大切であり、体系を整備しないと変化は少ないと感じる。 ● 系統的に考えることで、より深まりのある思考ができるようになると思う。 ● 担任の負担は増えたが、せざるを得ない、当たり前に道徳ができるモードになった。 ● 地区や学校によって道徳への取り組みに差があるように感じる。 ● 特別だからといって無理に授業研や掲示物を作る必要はないと思う。
-----	--	---

「道徳の授業の特別教科化に対する考え」に関する意見をカテゴリー別に分類した結果、肯定的な意見は、小学校、中学校ともに「教師の意識」に関するものが多く見られた。このことから、道徳の教科化により教師の道徳教育に対する意識が高まり、道徳の授業に取り組む姿勢に変化が生じたことがわかる。一方、否定的な意見については、小学校、中学校ともに「評価の受け止め」に関するものが多数を占めていた。教科化によって評価が明確に位置付けられるようになったことは前向きに捉えられているが、「評価」が心の変容を測る抽象的なものであり、評価方法がまだ十分には確立していない点が負担となっている懸念などが示された。

また、「教科書・教材の充実」に関する意見では、教科化によって道徳的価値をバランスよく扱えるようになったという利点がある一方で、年間指導計画に基づいて道徳を行うようになった結果、子どもたちの実態に即した教材を扱いにくくなったり、教科書使用の義務感が授業内容の画一化を招いたりするなど、教科書や教材の柔軟性がなくなったという意見が多く見られた。「指導体制の充実」については、中学校では複数の意見が寄せられた一方で、小学校ではこの点に関する意見は見られなかった。これは、中学校が教科担任制を採用しているため、道徳授業についても分業して取り組もうとする意識が高く、ローテーション道徳の実施や、道徳を専門とする教員が必要であるという意見が多く見られたのに対し、小学校では原則としてすべての教科を学級担任が担当するため、指導体制に関する意見が少なく、この違いが生じたと考えられる。

5 重視したい道徳の内容項目

図 29 から図 32 では、調査協力者の「重視したい道徳の内容項目」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

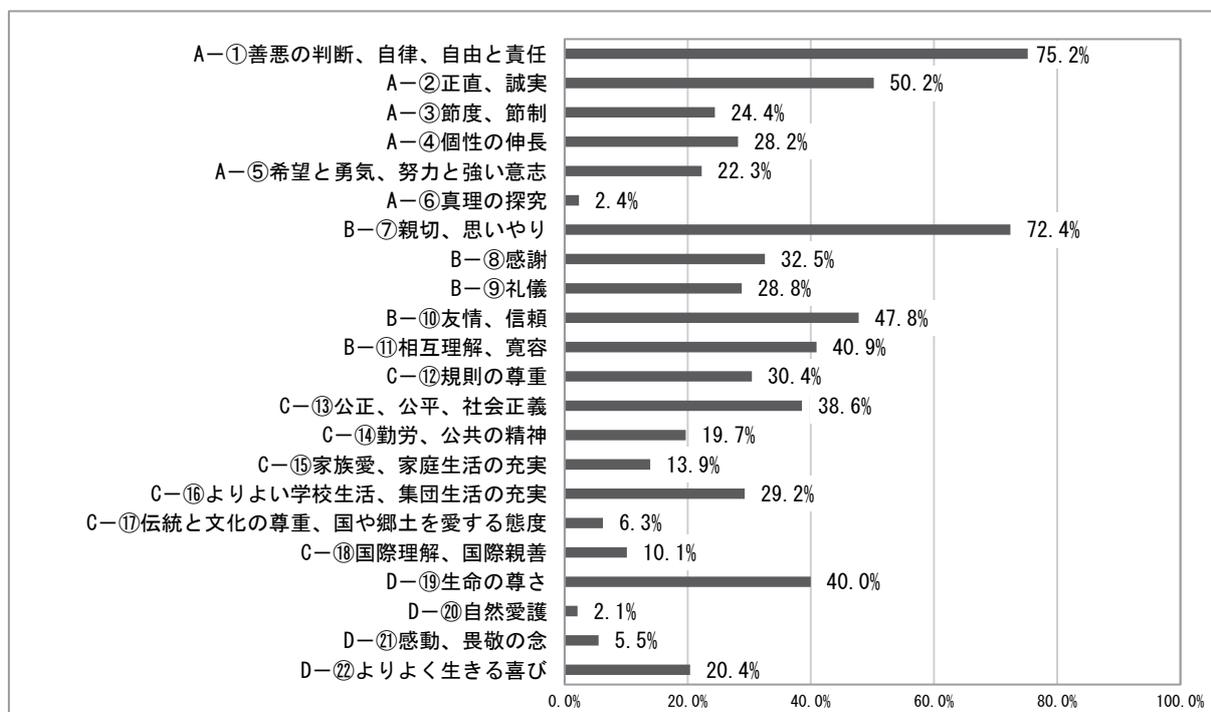


図 29 重視したい道徳の内容項目：小学校・回答者全体（ $n=848$ ）

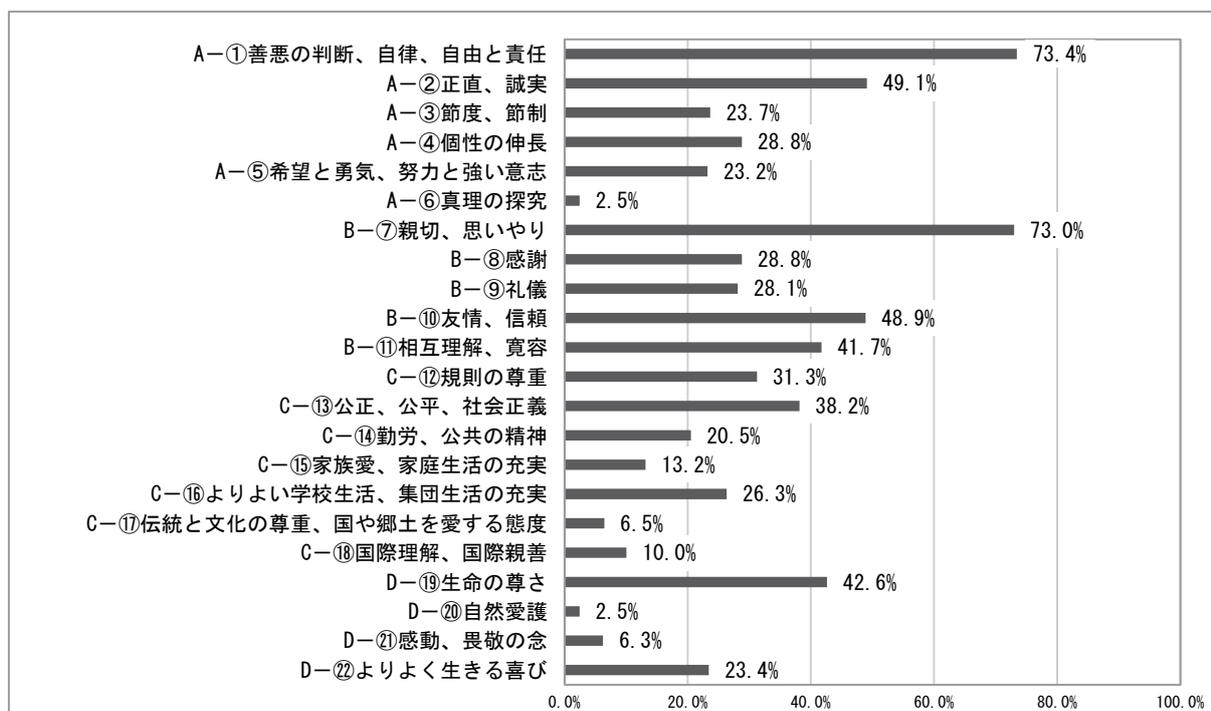


図 30 重視したい道徳の内容項目：小学校・推進教師 内数（ $n=448$ ）

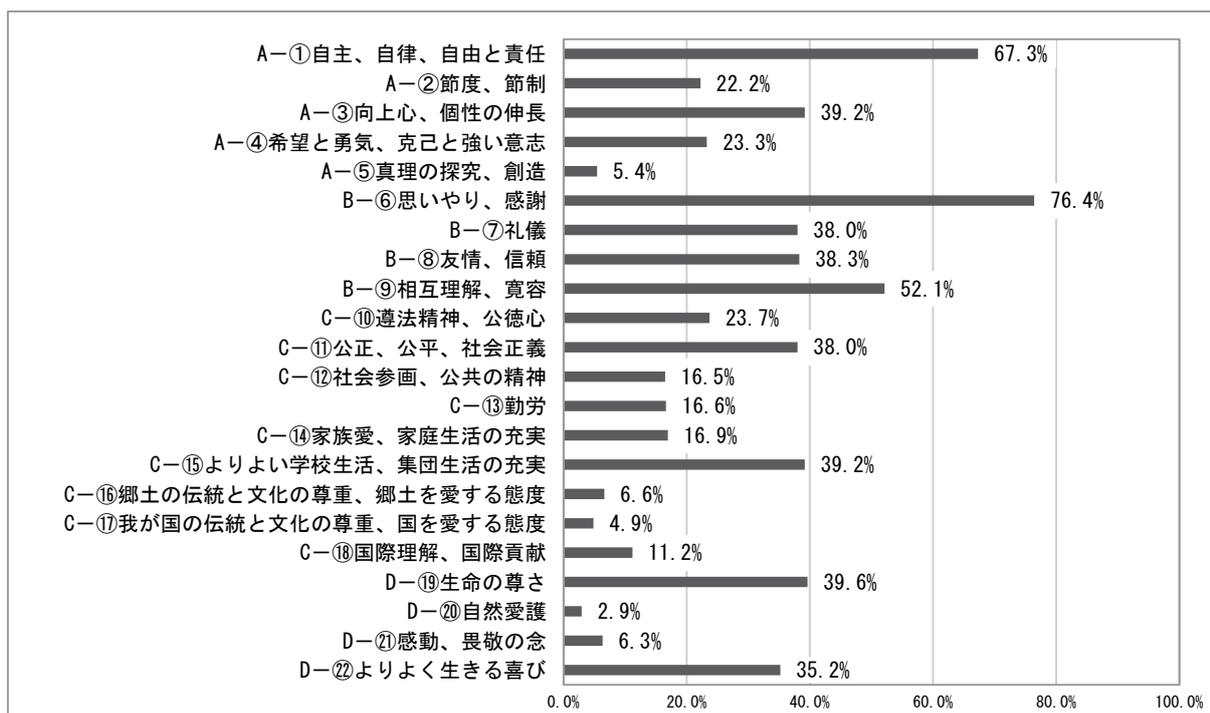


図 31 重視したい道德の内容項目：中学校・回答者全体（ $n=679$ ）

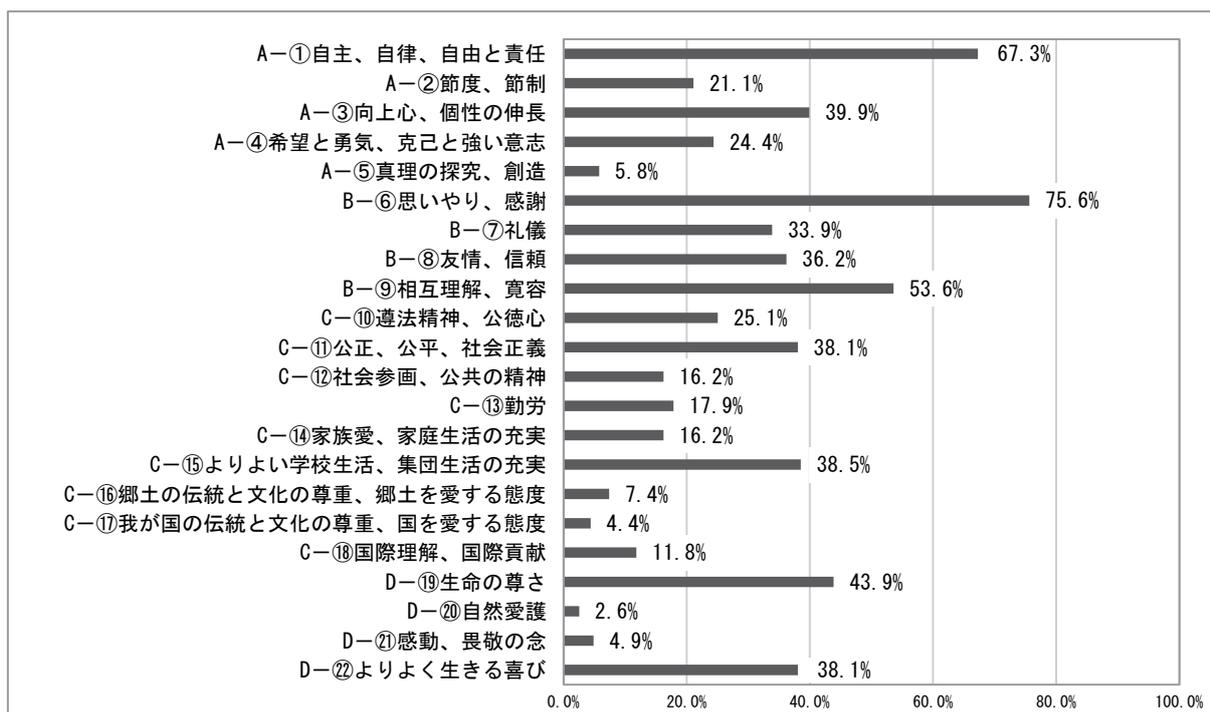


図 32 重視したい道德の内容項目：中学校・推進教師 内数（ $n=431$ ）

小学校教員が特に「重視したい道德の内容項目」は、「A-①善悪の判断、自律、自由と責任」「B-⑦親切、思いやり」および「A-②正直、誠実」の順であった。一方、中学校教員が特に「重視したい道德の内容項目」は、「B-⑥思いやり、感謝」「A-①自主、自律、自由と責任」および「B-⑨相互理解、寛容」であった。なお、小学校、中学校ともに「D-⑳自然愛護」については、重視したいと考える教員の割合が低かった。

6 道徳科の授業の充実に対する考え

(1) 重視したい道徳科の質的改善の視点

図 33 から図 36 では、調査協力者の「重視したい道徳科の質的改善の視点」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

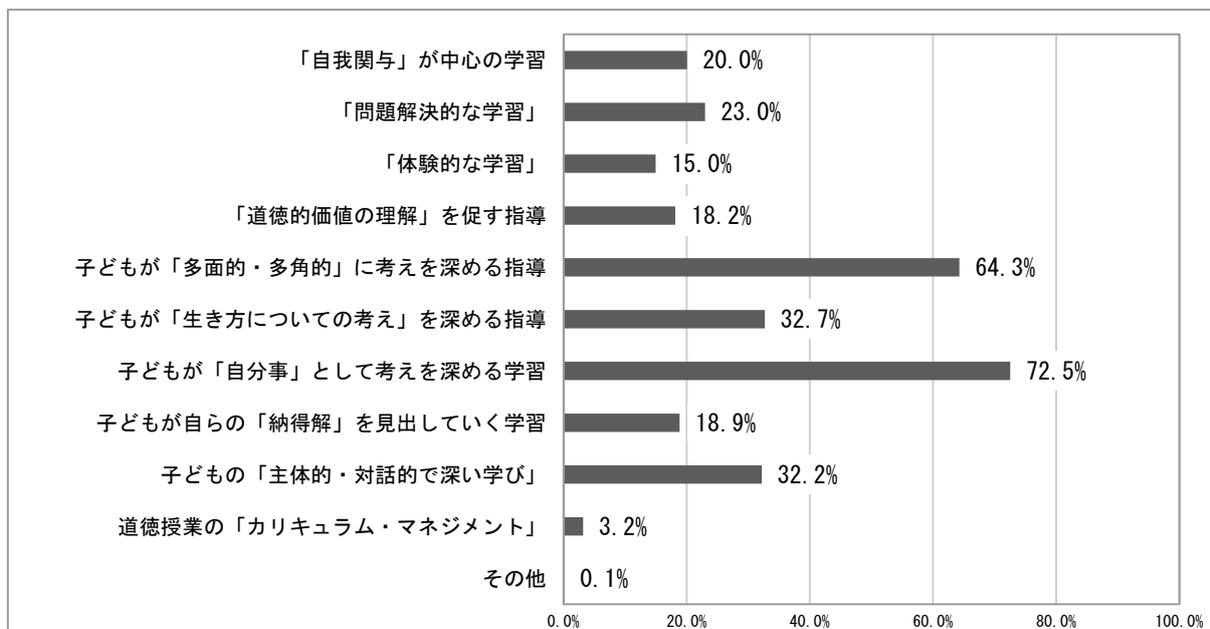


図 33 重視したい道徳科の質的改善の視点：小学校・回答者全体（ $n=848$ ）

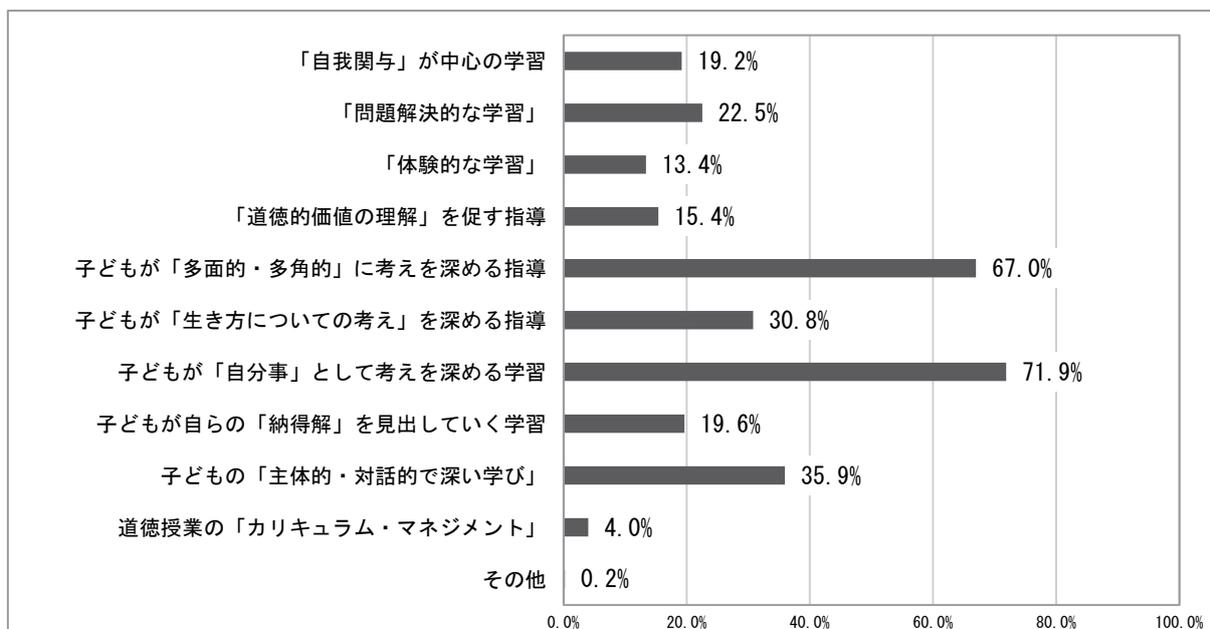


図 34 重視したい道徳科の質的改善の視点：小学校・推進教師 内数（ $n=448$ ）

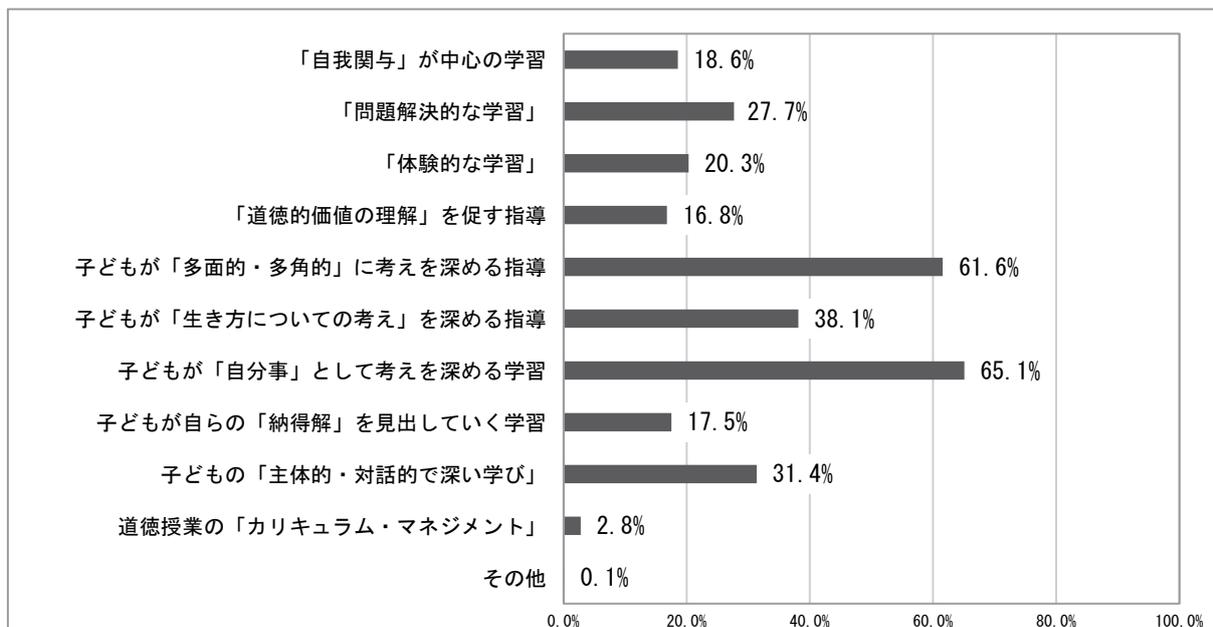


図 35 重視したい道徳科の質的改善の視点：中学校・回答者全体（ $n=679$ ）

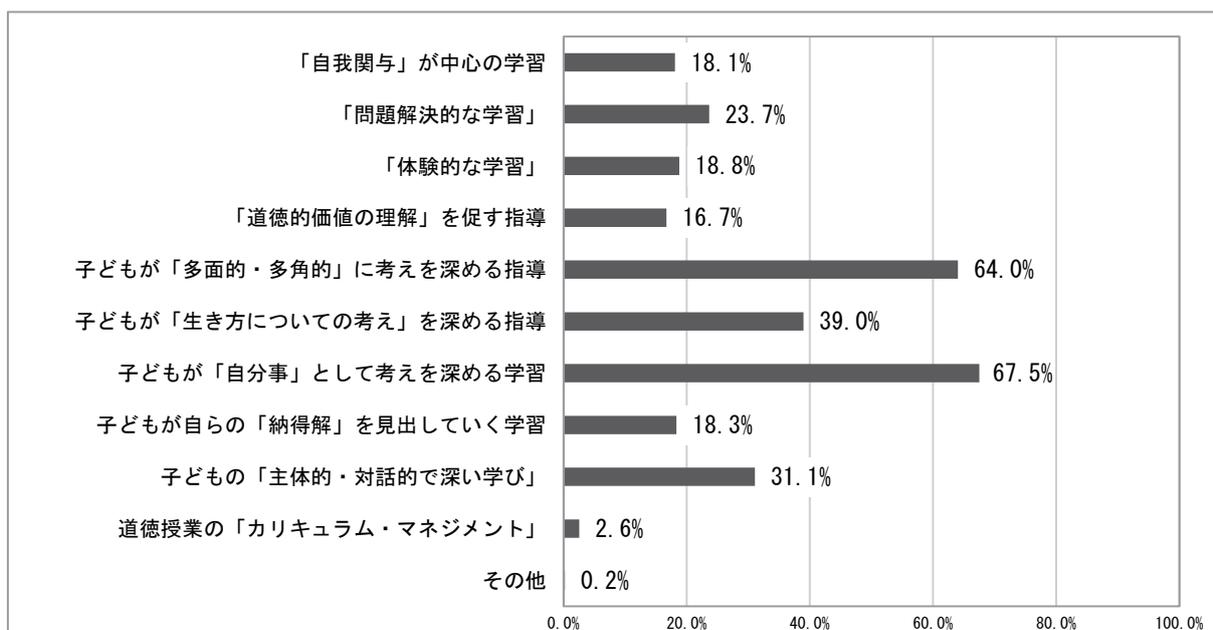


図 36 重視したい道徳科の質的改善の視点：中学校・推進教師 内数（ $n=431$ ）

小学校，中学校教員ともに道徳科の質的改善の視点の中で特に重視したい項目は「子どもが「多面的・多角的」に考えを深める指導」と「子どもが「自分事」として考えを深める学習」など，キーワードとなっているものが強く意識されている。一方，やや少ないのは「体験的な学習」，「子どもが自らの「納得解」を見出していく学習」，および「道徳授業の「カリキュラム・マネジメント」」といった項目であった。小学校と中学校に大きな違いはなかったが，「子どもが「自分事」として考えを深める学習」に関しては，小学校の教員が相対的に重視している。一方，「問題解決的な学習」と「体験的な学習」に関しては，中学校の教員が相対的に重視していることがわかる。

(2) 重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題

図 37 から図 40 では、調査協力者の「重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。また、そのうち推進教師の人数および割合を内数として示した。

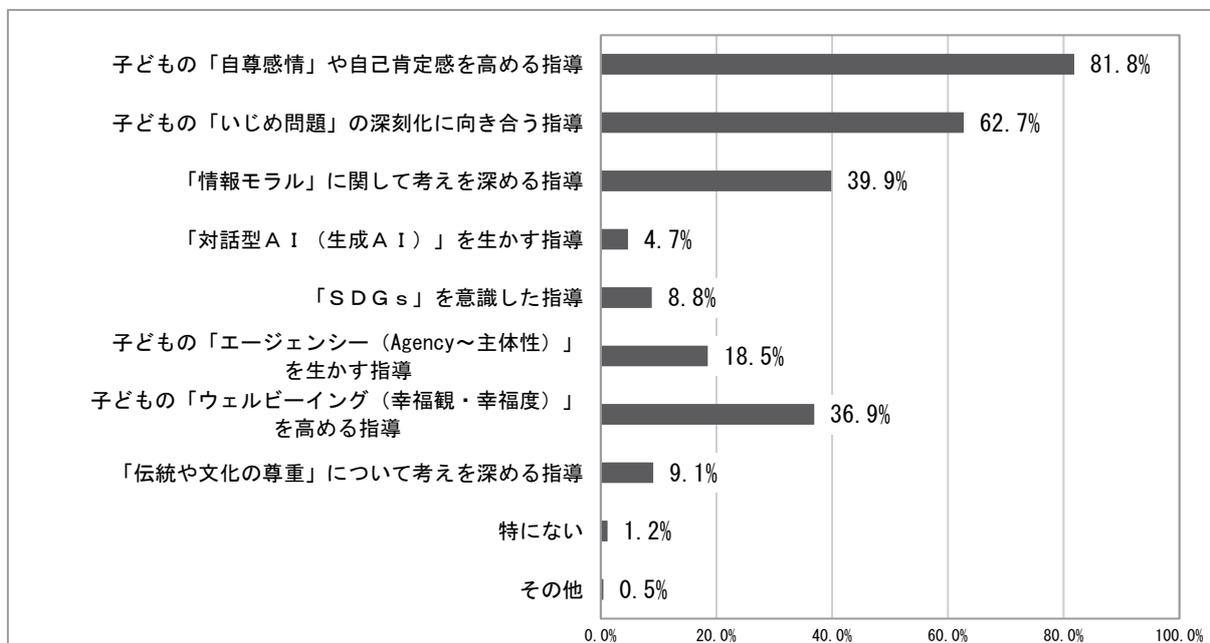


図 37 重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題：
小学校・回答者全体（ $n=848$ ）

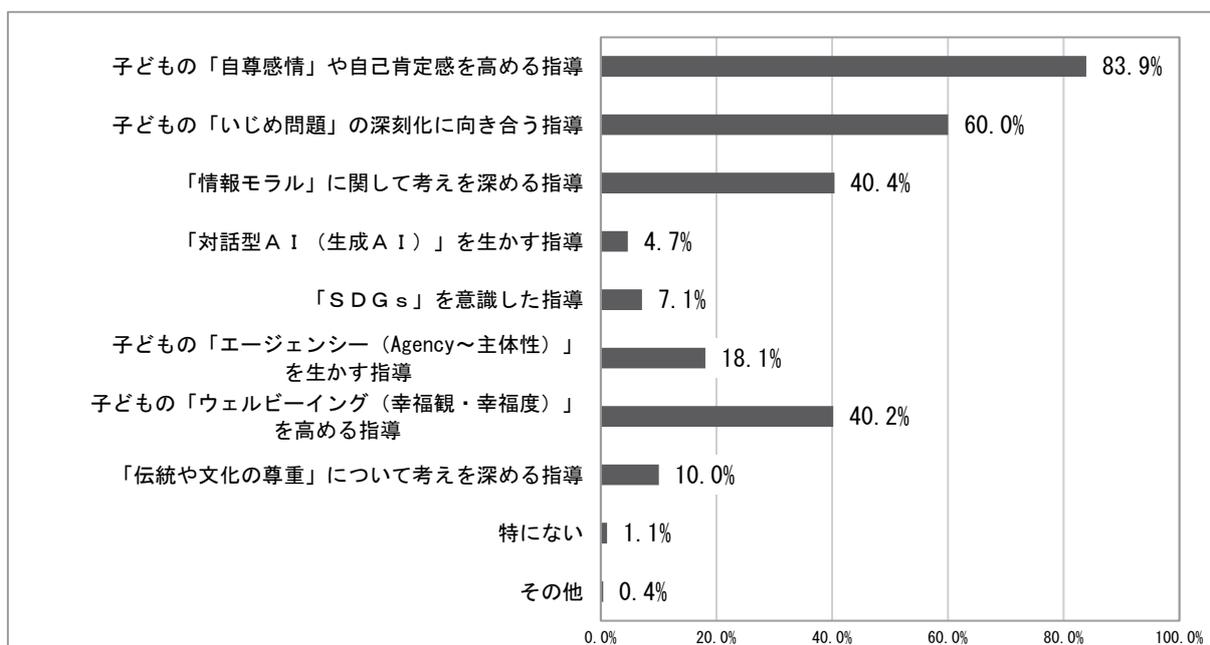


図 38 重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題：
小学校・推進教師 内数（ $n=448$ ）

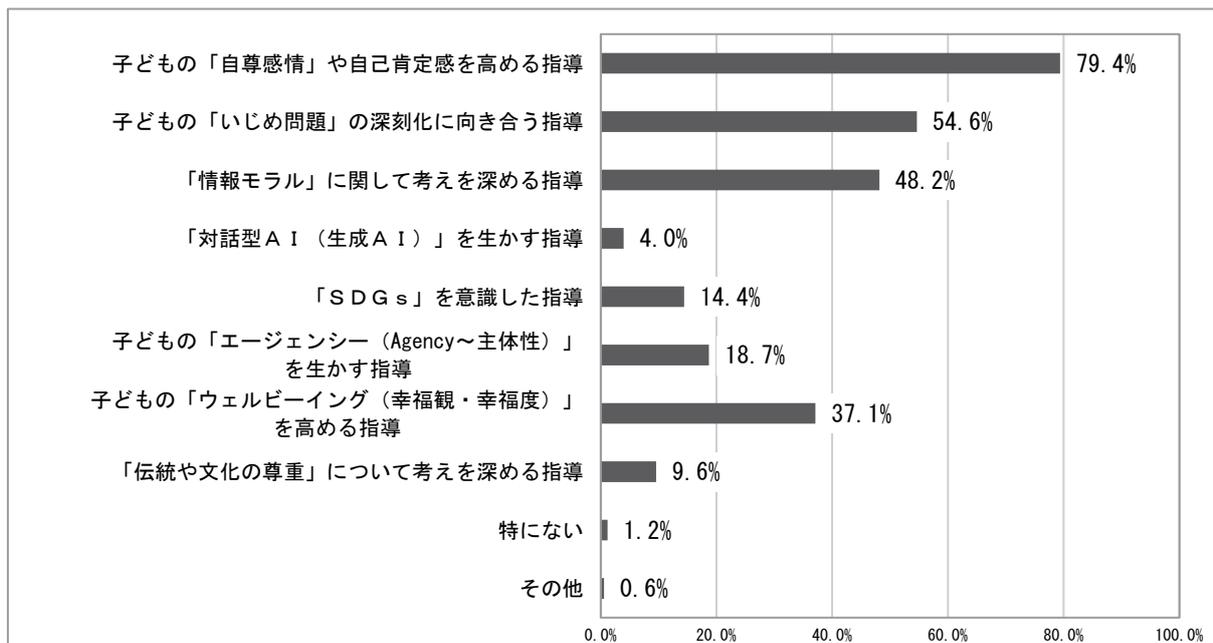


図 39 重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題：
中学校・回答者全体（ $n=679$ ）

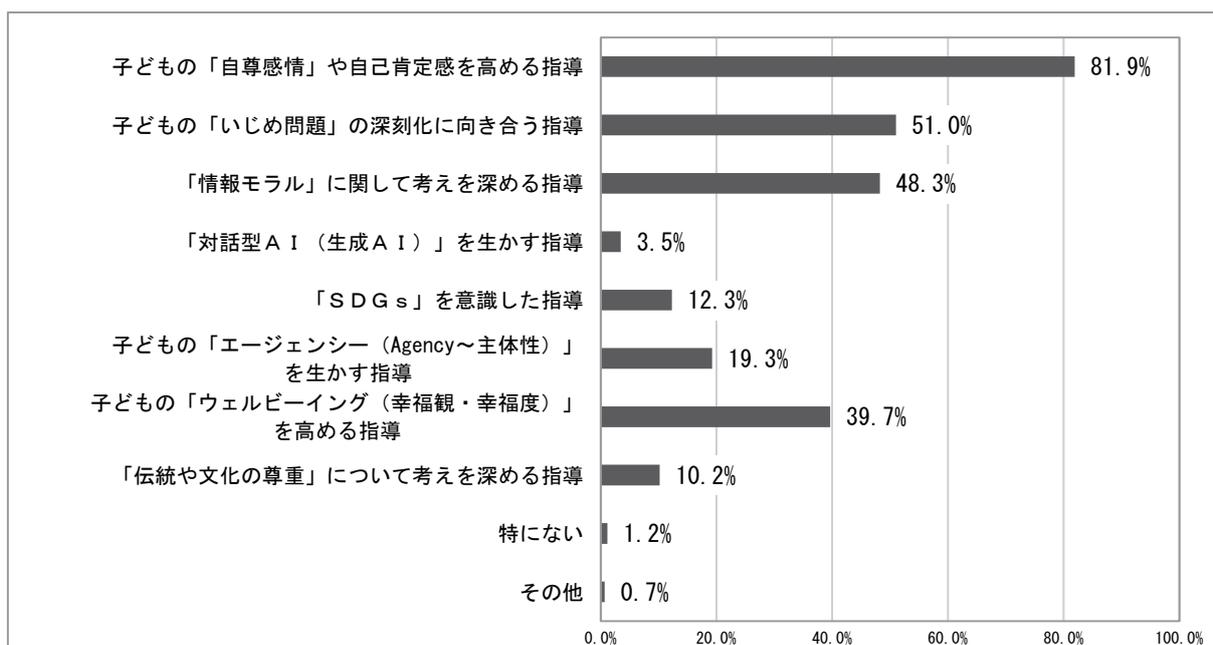


図 40 重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題：
中学校・推進教師 内数（ $n=431$ ）

小学校、中学校ともに、教員が今、特に「重視したい社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題」としては、「子どもの「自尊感情」や自己肯定感を高める指導」が挙げられた。「子どもの「いじめ問題」の深刻化に向き合う指導」や「「情報モラル」に関して考えを深める指導」、また「子どもの「ウェルビーイング（幸福観・幸福度）」を高める指導」への意識も相対的に強かった。一方で、それほど意識が高くないのは、近年急速に発展し進化している「対話型A I（生成A I）を生かす指導」や、「「SDGs」を意識した指導」、さらに「「伝統や文化の尊重」について考えを深める指導」であった。

7 道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え

分析に先立ち、「道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え」に関する自由記述を分類するためのコードを作成した（表 21）。

表 21 「道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え」自由記述分類のコード表

カテゴリー	キーワード
教科書・教材の扱い	内容の精選 魅力ある教材 道徳ノート 映像教材の充実 教科書は不要
教材・教具の充実	教材教具の充実 掲示物
ICTの活用	ICT機器 ICTの活用
教材研究の充実	教材研究 授業を吟味 授業案を考え創り上げる
学習指導の工夫	体験型の授業 対話型の授業 納得解まで導き出せる授業 発問の工夫 話し合いの充実 自分事としてとらえられるように 教材提示 一方的な指導にならないように 子ども主体の授業
実態に合わせた指導	子どもたちの現状に合わせた 生徒実態と関連 学級の実態 学校の実態 社会の実態
関連的指導の工夫	別業 特別活動 他教科との関連
教師の意識や構え	教員の道徳への意識 教師の苦手意識 教師の関心 教師が楽しむ 生徒とともに考え成長する 指導力の向上
児童・生徒の意識や構え	自分のことを大切に思う 子どもも楽しむ 幼・小の時期の充実
価値観の育成	態度の育成 価値観を身に着けさせる 自尊心を高める 多角的で多面的な見方 物事をとらえる力
多様な教師の参画	担任だけでなく複数の教員で指導する 担任に押し付けない 副担任の授業 他学年担任の授業 教科担任制
道徳専科の配置	道徳専任教師 道徳指導支援員 道徳専科
多様な講師の活用	ゲストティーチャー 一般の方の講師 外部の方々の来校による授業 地域の方の授業
評価の扱い	評価の仕方 評価の研究 評価の在り方 評価の必要性
学級経営・生徒指導の充実	日ごろの教員の声かけ 生徒のつながりの活性化 認め合う学級風土 雰囲気づくり 環境づくり 日ごろの学校生活 学習したことが生かされる生活場面 実践場面
負担の軽減	負担が大きい 物理的・精神的ゆとりが欲しい 負担が軽減できる仕組み
計画の活用・工夫	カリキュラム・マネジメント 学校独自の指導計画 全教育活動
時数の取扱い	週一回の確実な授業 授業時数の確保 授業の積み重ね 週1から週2に1単元2時間で
時間の確保	教師の時間的な余裕 教材研究時間の確保 授業準備期間のゆとり
協働性の向上	同僚性 職員室で道徳の話ができる雰囲気 環境整備 教員の配置定数の増加
業務の精選	業務の精選 事務作業を減らす 多忙化を軽減する 労働環境を改善 ゆとりのある働き方
研修・研究の充実	研修の機会 授業の参観 校内研究 互見授業 教員の育成 実践力を高める場
情報の提供と共有	指導案 指導書の改良 多様な指導法の具体例 授業実践の情報共有 データバンク アーカイブ
保護者との連携	保護者とともに話し合う 保護者の授業への参画 保護者の関心
全校体制での取組	協力体制 全校道徳授業
資格の設置	道徳マイスター 道徳の免許
教科化の受け止め	教科化をやめるべき 教科化したことによる成果
その他	教員免許法の見直し 高校でも道徳を 教員養成段階での経験 世論形成

①カテゴリー別回答数

学校段階別に「道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え」に関する自由記述をコード（表 21）に従い分類した結果を図 41，図 42 に示した。なお，一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は，それぞれを分割して分類し，複数回カウントした。

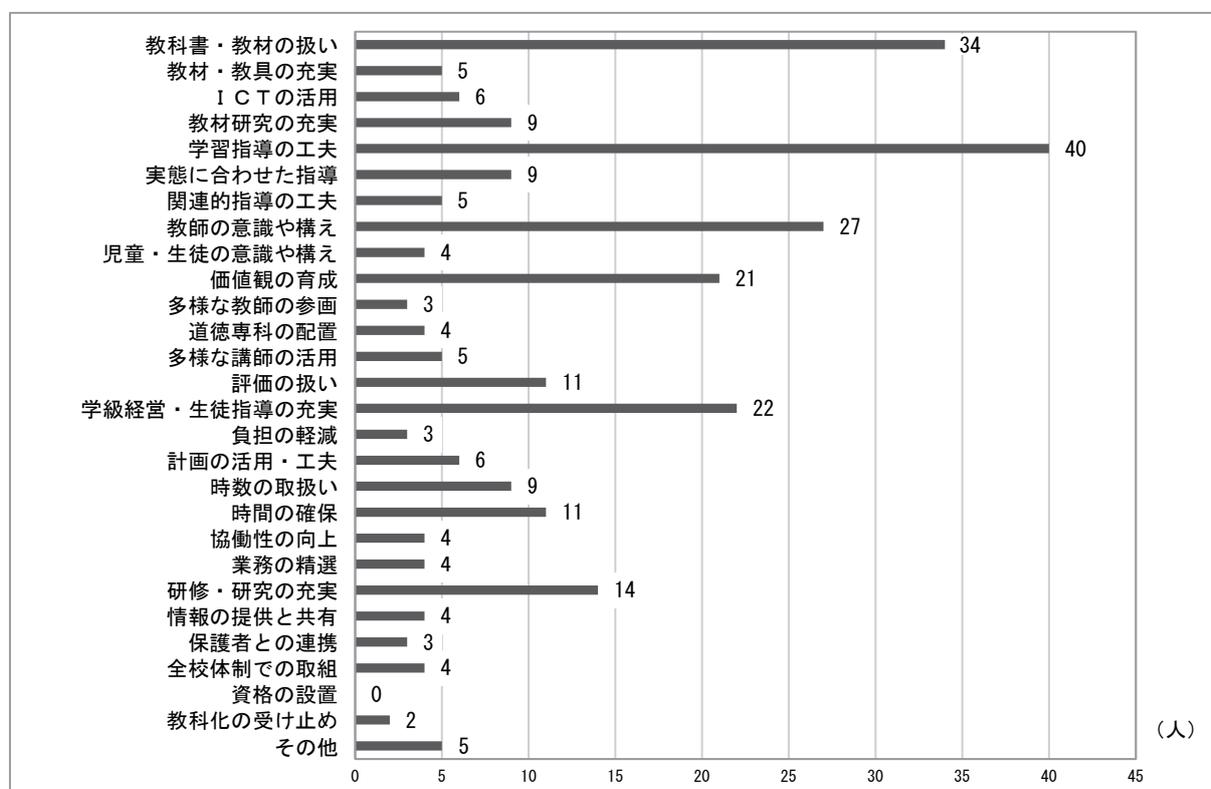


図 41 小学校教師の「道徳教育や道徳科指導の一層充実」の自由記述分類結果（ $n=235$ ）

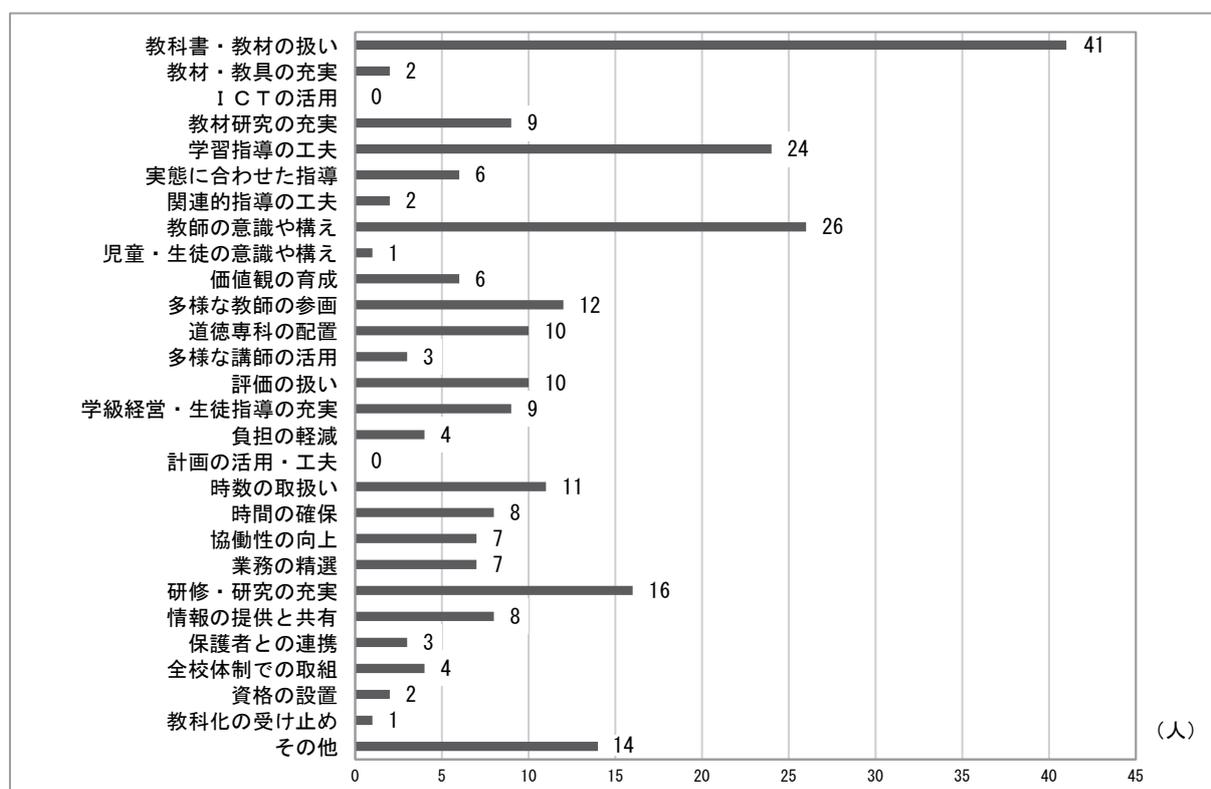


図 42 中学校教師の「道徳教育や道徳科指導の一層充実」の自由記述分類結果（ $n=222$ ）

②カテゴリー別回答例

学校段階別に、「道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え」に関する自由記述をコード（表 21）に従い分類した回答例を表 22 に示した。

表 22 「道徳教育や道徳科の指導の一層充実に対する考え」に関するコード別の回答例

	小学校	中学校
教科書・教材の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもが迷い、議論する内容。 ●高学年の教材は答えが1つでない方がよい。 ●魅力ある教材を扱うこと。子どもの心に残るような感動的な教材、興味深い教材、生活指導的要素の強くない教材が増えるといいと思う。 ●外国との交流が増えたり国際化したりしている中で、国際理解に関する項目の扱いがあまりないので、考えて欲しいと思います。映像の資料の充実、身近な情報を活かした授業ができると、より深まると思います。 ●子どもの実態に沿った教材を用いて授業を行うべきだと思います。 ●考えを深めるために、わかりやすい教材、イメージしやすい提示の仕方などをより充実されたいと思います。 ●子ども新聞はとても参考になる記事が多いので、各学校に紙媒体でもいいし、電子媒体でもいいから、子ども新聞を提供して欲しい。 ●教科書はいらない。綴り方など、自己との対話や自己理解を通して道徳は深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もっと授業がしやすい教科書にしてほしい。 ●道徳の教科書についているノートや指導案が、生徒の深い思考につながるものになっていないため、そこを改善し、自分ごととして考えられるものにするべきだと思います。 ●教科書に載っている教材の精選。教科書を使いにくい項目がある（伝統文化や畏敬の念など）。 ●著名人などの実体験をもとにした教材を積極的に活用する。 ●道徳の内容項目と生徒実態に連動した読み物資料などの教材の選定映像による教材を増やす。 ●現代社会に即した道徳教材を新たに取り入れていくべき。 ●アニメや動画で実例として紹介できる教材があると、生徒が理解しやすくなると思う。 ●異性という言葉など、ジェンダーに関わる言葉に配慮する。 ●教科書を廃止する。教科書を使うとしても、価値項目と内容が大きく乖離した文章を掲載しないようにする。
教材・教具の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●学年が複数クラスある場合には、教材の共有や共同開発、交流などが必要だと感じる。 ●発問の方や板書で使えるツールを全教職員が見れる状態にする。問題意識がないと朱書きの通りになってしまうだけになっている人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教師が喋りすぎずに生徒達の中で考えるのが中心の授業と教科書だけでなく映像教材などを活用しその時の生徒にあった内容を授業すること。 ●互見授業や副担任他学年担任の授業、教材の共有、全校道徳授業など。
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●ICTを活用した思考ツール。 ●児童同士の活発で道徳的価値にせまる話し合いができる授業づくりができるために、話し合いの場を設定し、問い返しをしたりする。ICTの活用の仕方も研究したい。 	
教材研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●教師一人一人がしっかり教材研究を行い、授業にのぞむこと。 ●授業の質を上げるために教員の教材研究。 ●教科書の教材はとてもよく練られているものが多い。子どもが将来出会うであろうできごとを教材の中で体験していくことができるので、指導法を考えると同時に、指導者が何度も読み込むことが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業作りのスタートとして、必ず内容項目を読み直し、その授業について絞り込むという整理作業を行うこと。問い返しや切り返しに重点を置いた授業力の向上を図ること。 ●普段の授業も研究授業等と同等の教材研究を行う必要があると考えています。 ●より良い教材の研究が大切だと思います。 ●道徳教育の充実のためには、教員の教材研究を充実させ、指導方法等の工夫をしていくことが必要だと思います。

<p>学習指導の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師と児童生徒が体験型，対話型の授業を通し，共に自ら考え納得解を見いだす授業を行っていくことが大切だと思う。 ● 児童同士の活発で道徳的価値にせまる話合いができる授業づくりができるために，話合いの場を設定し，問い返しをしたりする。ICTの活用の仕方も研究したい。 ● 話合いの充実。自他の考えを，許容する心。 ● クラスの子どもが自分事として捉え，考えることが出来る学習。 ● 自分の生き方の主体は，自分であると気付ける指導 ● よりよい生き方に向けて，多面的・多角的な見方・考え方を伝え合える時間にする。 ● 教科書以外の教材を使った魅力ある授業作り。 ● 型にはまった授業にならないこと。 ● リレーションづくりやリラックスの場にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発問の工夫。 ● 生徒との対話をもとに進めたい。 ● 子どもたちの道徳的実践力，道徳的判断力が高まるのであれば，それぞれの先生方の実践力をもとに，もう少し自由度のある取組をさせて頂きたい。 ● 生徒主体の授業にできればと思っています。 ● 道徳的課題について「自分事として」捉えていくこと。そのために，教材の提示や特別活動を生かした指導を工夫していきたい。 ● 最適解で終わらず納得解まで導き出せる授業に出来たら良いと思います。 ● 生徒に「こんな答えを書けばいいんですよね」というような正解を書かせるような授業ではなくて，葛藤や話合いの中から考えたことを表現できるような授業づくり。 ● 教師の価値観を押し付けるのではなく，生徒たちから考えや意見が出てきたり，「分からない」で終わったりすることが重要だと考えます。 ● 補充，深化，統合を意識した指導。
<p>実態に合わせた指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師による教材理解と児童実態を関連させた授業づくりの意識。 ● 各校の実態に応じて，教材を扱う時期や教科横断的な指導が行えるように見通しをもつこと。 ● 子どもに考えさせたい材料は，子どもの身近な生活の中にたくさんある。それらを取り上げ，考えさせることで，学習することの意味付けが大きくなると考える。 ● より現代の社会問題に寄り添った内容を取り上げて，現代社会で正しく生きる為のモラルを学ぶ必要があると思う。(情報モラル，ジェンダーに関すること等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な問題を考えさせたい。 ● 年間計画や価値にとらわれすぎず，子どもたちの現状に合わせた課題を選んで指導したほうが，子どもにとっても意味のある授業になるのではないかと思う時があります。 ● どの学級も同じ授業(全く同じ指導案)ということがないよう，各学級の生徒の実態に応じた授業研究の時間をしっかりとかけてしていくことだと思います。 ● 成長の過程で，身につけたい内容に合致させていきたいです。
<p>関連的指導の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● そのつながりのある教材や他教科など，指導例に詳しく書いていただけたら若年の先生も教材研究がしやすいと思われれます。 ● 他教科との関連，日常生活にもどす ● 生活場面や他教科での交流活動など，道徳以外の場面でも生かせるような指導を自分含め考えていくことが大切だと思います。 ● 別業の活用についてもっといい方法を知りたい。活用までいっている学校は少ないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳をやったからといっていじめに関する事件等が起こらなくなるわけではないと思う。道徳教育の視点から特別活動の重要性をもっと前面に出してほしい。 ● 道徳的課題について「自分事として」捉えていくこと。そのために，教材の提示や特別活動を生かした指導を工夫していきたい。

<p>教師の意識や構え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の意識改善。 ● 押し付けではない道徳感。いろんな考えがあるという選択肢をあげることが大事だと思います。 ● 子どもの空気を読んだ発言に頼らない授業。 ● 日々の授業を頑張ること以外にありません。 ● 最低限の仕事ではなく、多忙であっても、子どもたちのために頑張りたいという気持ちをもった教員が増えるのが1番重要だと思います。 ● 教師の指導力・授業力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の授業に真剣に取り組もうとする教師の意識（多忙で道徳まで手が回らない先生方が多い）。 ● 教員が道徳の授業を楽しむ。 ● どの内容項目も胸に響く内容だから、どれも生徒と共に考え、教師も成長したい。 ● 生徒の考えを否定せず受容すること、いろんな考え方を知ることが大切。 ● 道徳の授業において、なるべくやらない方向で考える教員がいるため、教材研究に時間をとる教員はすくない。また、「働き方改革」という言葉を免罪符として使い、道徳の意義を考えない教員も多い。 ● 学校や先生方によって、取組に差があるように感じます。先生方の負担にならない程度に、みんなで取り組めるような意識改革が行うことができると感じます。 ● 内容項目の理解。
<p>児童・生徒の意識や構え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分のことを大切に思うこと。友達のこと大切に思える。人ごとに思わない。 ● 自分自身の生き方を考えること。 ● 道徳の学習を子どもも先生も楽しむこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼・小の時期の充実が大切であると感じます。
<p>価値観の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自尊感情を高め、他者の考えを尊重する態度の育成 ● 価値観を身につけさせることが大切だと思います。 ● 他者理解と道徳的価値の理解、自己理解をすすめることが大切だと思います。 ● 児童の成長には多くの課題があるが、自尊心を高めることで自制心なども高まると考える。道徳でも自尊心を高める活動に重点を置き、授業を行いたい。 ● 理想ばかりを求めるのではなく、現実社会で起きていることを教え、対応していく力や立ち居振る舞い方を考えさせていくことが大事ではないかと思っています。 ● 正解を見つけるのではなく、道徳の授業を通して、多面的・多角的な見方や考え方で物事を捉える力をつけるべきだと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題解決を図りながらも、解決できないものもあるということに気付かせることも大切だと思います。 ● ふるさとや郷土愛を高めていく。 ● 多角的・多面的な見方で広く考えられること。
<p>多様な教師の参画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 担任だけでなく、クラスや学年を超えて授業を行うと良い。 ● 学級担任以外の先生が授業を一つの教材をすることができると良い。 ● 小学校の教科担任制をもっと真剣に進める。中学校のように採用の段階から教科指導する教員を配置できるようにするなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 担任に関わらず多くの教師が指導にあたる学校体制。 ● 担任だけに押し付けない。 ● 担任のみの授業実践でなく、多くの教師が授業に関わること。 ● 教科担任制にする。 ● 道徳を教科化するのであれば専門家を教科担任としておくことも検討して欲しい。他教科と実践の中で深い学びを準備する時間はない。

<p>道徳専科の配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳専科を入れるとよい。 ● 教材を用意するのが大変です。1時間のためにたくさんの印刷物や掲示物を用意する必要があります。専任の講師や教科担任制を活用したいです。 ● 道徳専門の先生がいてくれると、勉強になると思います。全ての授業というわけではなく、それぞれの学年のいくつかの授業をしていただくと質も上がると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳専任教師の配置。 ● 道徳専科を設けること。 ● 専任の教員を配置してほしい。 ● 道徳専科を配置し、専門家が授業をする。 ● 教科化したのであればその専門家が授業を実施すべき。
<p>多様な講師の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校内外の多くの人と関わる体験をさせる機会を与えることが大事ではないかと思う。 ● もっと気軽にゲストティーチャーを呼べる環境であってほしい。 ● 道徳の授業を、他の学級に出向いて、いろいろな先生やゲストとして地域の方に行ってもらうことで、児童がたくさんのお会いから生まれる感性を磨き、感じる心を育てていければと思う。人が人に感動することから心に響く授業となると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時折、道徳性を養うための外部の方々の来校による授業などを行いたいと思うこともある。生徒への効果も含め、実際が伴った授業も考えたいところである。 ● 一般の方を講師として招き、生徒に対して人間関係形成やその他一般社会に必要な能力について話してもらう。
<p>評価の扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● どんな意見でも言っていると、多面的な考えを求めているのに、教科かされて、通知表等で文章で評価を公表するのに抵抗がある。 ● 心の変化を評価することをやめてほしい。道徳科としての評価ではなく、総合所見として、教師が通知表なり、指導要録などに明記すべきだと思う。 ● 授業を通して児童を評価するのが難しい。 ● 評価の仕方についてどうしていけばいいか具体的な方法を知りたい。 ● 評価の仕方についてもっと考えていきたい。 ● 他教科と同様に評価をすること。教材をよりシンプルなものにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価は必要ないと思う。 ● 評価の必要性を再検討してほしい。 ● 具体的な活動と結びつけた到達度（ボランティア活動やSDGs実現に向けた研究活動）を評価につなげると生徒も道徳心の向上を意識して取り組むことができるはずである。 ● 評価をできる限り、統一してほしい。
<p>学級経営・生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 認め合う学級風土が重要。 ● 道徳は、単体ではなく、日々の学級の生活や学級経営に絡めて行って行くよさを伝えて行くこと。 ● 自分事として捉え、授業後にも学習したことが活かされること子ども達が、学びの必然性、必要感を感じるように、日頃の道徳教育と道徳科の授業をシームレスにして、指導していきたい。そのための工夫や手立てを考えていきたい。 ● 授業だけでなく、その後の生活の中での道徳的価値への理解の高まりや、実践意欲などをしっかりとみとること。 ● 道徳科も大切ですが、同じぐらい特別活動への関わりも重要だと考えます。どちらも関わらせながら学級経営していくことが必要だと普段の子どもとの関わりから最近深く感じます。 ● 弱い心や失敗を周りがもっと認めてあげること。 ● 教科書に準拠した授業ではなく、日々の生活の中から教材を見出す先生方のセンサーのようなものを高めていく必要があると思います。生活の中から教材を見出すためには、学校の中の学びをより体験的なものに変化させていく必要があると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学級経営で誰でも意見が言える雰囲気や、積極的に授業に参加したいと思える授業展開を行うこと。 ● 日々の生徒理解、生徒指導。 ● 生徒同士のつながりの活性化と自己肯定感の向上。 ● 授業と日常生活を結びつけていくこと。 ● 思いやりや感謝の気持ち、規範意識等、日頃の学校生活と関連させながら学ばせたい。 ● 道徳の授業に限らず、子どもの道徳心に関わる場面で気軽に気楽に会話を重ねられる環境こそが道徳の充実には必要だと思います。

<p>負担の軽減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の負担が大きい。 ● 担任の負担を減らす。教科指導の時間をへらし、道徳に向かう物理的、精神的ゆとりが欲しい。 ● 半分でも、教員の負担が軽減できる仕組みがあると教員の気持ちも前向きになり、児童との満足感も自信になり、道徳の価値観も上がると思います。是非指導書だけでなく、教員が気軽に活用できるシステムが増えていくことを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価や授業準備など教員の負担が大きい。 ● 基本的に担任がやるので、負担が大きい。分散すべきと考える。
<p>計画の活用・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校全体で、「重点指導内容」「カリキュラム・マネジメントの必要性」を共有し、これからも取り組んでいきたい。 ● 各学校の教育活動と関連付けた学校独自の指導計画があってもよいのでは。 ● 全教育活動の中で行われる道徳教育（カリキュラム・マネジメント）。 	
<p>時数の取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● どの学級でも、確実に週一回の道徳科が行えるようにしていく。 ● しっかり準備をして、月に一回程で、深みのある授業を行いたい。 ● 年間 35 時間という言葉が、現場の先生には重くのしかかっている。学校行事等もあるため、内容項目 22 個に対して、年間 25 時間ぐらいにできないものかと考えている。そのためには、道徳で学んだことを、他の活動に活かせるようなカリマネをしっかりと組む方策を、文科省や教育委員会には求めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 無理なく継続できる道徳の授業の積み重ね。 ● 学校によってですが、道徳の時間は行事の反省の時間や、準備に費やされ、少なくなってしまう場合があるかと思っています。十分に授業時数を確保することが大切だと思います。 ● 一単元 1 時間での進路ではなく、もう少し考える時間を確保するために、一単元 2 時間でやれるようになると、今より多くの生徒が道徳的価値やこれからの自分のあり方を、もっと真剣に考えられるのではないかと思う。 ● 週 1 から週 2 にする。 ● 道徳の授業時間を柔軟にできればと思いますが、カリキュラム上難しいと思います。
<p>時間の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● あまりに多忙であり、ゆっくりと道徳教育に向き合う時間がとりにくい現実があり、放課後のゆとり時間に時間確保が必要。 ● 教師の時間的な余裕。児童の実践場の確保。 ● 放課後に教材研究の時間をしっかりと確保するような、働き方改革をより一層改善するべきだと思います。 ● 教材研究をする時間の確保ができるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳教育に力を入れることのできる教師の時間の余裕。 ● 他教科と同じように授業研究、教材研究を一人一人の教員が行う時間の確保（働き方改革）。 ● 研修および教材研究の時間の確保。
<p>協働性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳教育や道徳科の指導への敷居が高い。おそらく、「道徳の指導はこうあるべきだ。」という思い込みや、教え込みがあるため、多様な指導や教材を認められない雰囲気があることで、面倒臭い印象が拭えないからだ。もっと手軽にできることや、他の授業とそんなに変わりはないということアピールしたい。 ● 職員の増員による、教材研究時間の確保。 ● 道徳科に関して、校内で勉強会を開いたり、授業について話したりする環境を整えていったほうが良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 同僚性。教材について議論や討論できる時間や人間関係が保たれていないなかで、子どもへの還元は難しいと思います。教科として道徳が設置されたことを考えると、各地区で巡回の道徳指導教員を配当するなど道徳を専門としている方に授業を見ていただいたり相談できたりする環境があると良いと思います。 ● 普段から職員室で道徳の話が気軽にできる雰囲気があれば、年代を超えて道徳について活発な話合いができると思います。 ● 教師が互いに学び会える環境。

業務の精選	<ul style="list-style-type: none"> ● なんでも学校任せではなく、行政のレベルで働き方の改革をしていかないと、今精一杯努力している学校現場にこれ以上求められても、授業の質は上がらない。 ● 放課後に教材研究の時間をしっかり確保するような、働き方改革をより一層改善するべきだと思います。 ● 道徳だけに限らず、担任業務の中で教材研究の割合が非常に少なく、思いはあっても十分にできない現状がある。分掌の仕事、出張、提出物など過重な事務作業の業務を減らすことが必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の教材研究のためのゆとりを生むため、他の業務の精選を行うこと。現場に新たに求められることは増え続け、その代わりに削減されるものが示されない。 ● すべての教員が道徳科を担当するために研修の機会を増やせるようなゆとりのある働き方。 ● まずは労働環境を改善し、教科外で専門性も乏しく軽視されがちな道徳の授業にきちんと向き合えるだけの時間と労力の確保が必要。
研修・研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践力を高める場を設定したい。 ● 校内で互いの授業を参観し合い、話し合ったり情報交換を行ったりしていくことで、個々の指導力の充実に図っていくことができると考える。 ● 校内研究でテーマに挙げて取り組む。 ● 道徳科に関して、校内で勉強会を開いたり、授業について話したりする環境を整えていったほうが良いと思う。 ● 道徳的価値の捉え方は普遍的なものであるが、そこを理解していないで授業をしてしまう人がいるので、道徳的価値を深める研修の充実をお願いしたい。 ● 道徳授業地区公開講座をもっと充実させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修の充実。道徳担当の教師以外にももっと研修を受けてもらえたら授業への意欲や考えが変わると思う。 ● 教員の考え方や指導力が向上できるような研修、体制が大切だと思います。 ● 互いの授業を見合い、意見を交わし、研修していくこと。 ● 互見授業や副担任他学年担任の授業、教材の共有、全校道徳授業など。 ● 研修の充実（ICTの活用も含めた授業実践の工夫、特別に支援を要する生徒に対する道徳教育など）。
情報の提供と共有	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師用教科書の動画が使いやすい。もっと多くの単元でより使いやすい工夫をしてほしい。算数科のデジタル教科書などはかなり進化している。道徳科も一層の工夫をしていただけたら、現場で指導しやすいと思う。 ● よりよい読み物教材の精選と指導書の改良。 ● 様々な先生方が行った授業で、これはというものを集めたデータベースが欲しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導案の共有。 ● 効果的な指導法やICTの活用などが共有できると嬉しい。 ● 各学年における全内容項目のおすすめの授業をアーカイブでいつでも動画で見られるようなサイトがあると、研修が深まると思う。 ● 色々な学校の実践が蓄積されると良いと思います。
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の授業への参画。 ● 子どもの道徳教育のためには、基本となる親や保護者の道徳性も重要だと考える。 ● 道徳性アンケートの実施。（本人の自己評価と保護者が我が子についてする評価。家庭の道徳力の意識向上にもつながる。） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者にも関心をもってもらうことが必要だと感じる。 ● 保護者とともに話し合うような機会もあればよいと思う。
全校体制での取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 校内である程度の共通理解（授業の進め方や評価など）をすること。 ● 指導の仕方に偏りが出やすい教科だと思います。学校全体として道徳の指導の仕方を共通理解して取り組んでいく必要があると思います。 ● 各校で、工夫できるよう1つでも取り組みを行うと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材研究と協力体制。 ● 指導方法が一般の教員にまで浸透していないので、授業が改善されないところが厳しい。道徳の授業に長けた教員の授業を参観するなど、全校体制で取り組むことが重要。 ● 互見授業や副担任他学年担任の授業、教材の共有、全校道徳授業など。

資格の設置		<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳は指導に主観が入りやすい。一定のレベルを維持するために道徳マイスターのような資格があれば、教師側も自身を持って指導にあたるかもしれない。 ● 道徳の免許を取らせる。
教科化の受け止め	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科化を辞めるべき。 ● 道徳が教科化したことによる成果。以前との子どもたちの比較など。道徳の存在意義にも関わると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別な教科となり、授業時数や指導内容も制限されるような感じがするが、指導者側の自由な発想や独自の教材などの活用も認めてもらいたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員養成段階から、道徳科についてももう少し模擬授業等で体験しておけると、まず実習に出て困り感が減るのではないかと。実習で道徳の授業が上手いかずマイナスな印象を抱かせてしまうのはもったいないと感じている。 ● 道徳の内容項目（価値）はたくさんあるが、人格形成の根幹となる価値はせいぜい3つ程度だと思ふ。あれこれ多様な内容項目を学ばせるのも良いが、本当に大切なものを限定し、育てていくことも大切なのではないかと。 ● 道徳の研究をされているグループはたくさんあるが、そのトップの人たちの中に派閥のような意識を持ち、指導法等に対して排他的な発言をされる方がいるのはとても残念で、それぞれの良いところを認め活かすようになってほしいと感じる時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳という教科名が儒教的な思想を連想させる。他のネーミングがあればいいとは思ふ。 ● 内容項目に「国際平和」などの項目を入れてはどうかと思います。また、自分たちで社会を動かせる経験をさせられたらと思います。 ● 道徳科に関する情報発信と世論形成。 ● 高校でも道徳があればいい。 ● 教員免許法を変える。大学での、道徳教育に関する単位が少なすぎる。

調査結果の全体的な傾向として、「教科書・教材の扱い」と「学習指導の工夫」に関連する内容が多く見受けられ、次いで「教師の意識や構え」に関連する内容が多かった。このことから、道徳教育や道徳科の充実には、教科書や教材内容の精選と充実、話し合い活動や魅力ある授業づくりなど、学習面での工夫が求められることがわかる。また、道徳科に対する教師の意識を高め、取組の差を縮小させることが重要であることも示唆されている。

小学校と中学校の違いに関して、「道徳専科の配置」では、小学校よりも中学校の方が多くの回答が得られた。また、「資格の設置」に関しては、小学校では回答がなく、中学校で一定数の回答が見られた。このことから、教科担任制である中学校では、専科の配置や資格の設置を期待する教員がいることや、小学校でも一定数の専科教師の配置を望む教員がいることが明らかになった。

問7の категорияについては、問3・問4とおおむね類似していたが、問7特有の categoryとして「価値観の育成」が挙げられた。道徳の授業において価値観を育成することが、道徳教育や指導の一層の充実のために重要であることが示され、特に小学校ではこの点に重きが置かれていることがわかる。小学校段階での多面的・多角的な見方や自尊心、他者の考えを尊重する態度の育成が重要視されていることがわかる。

■ 調査票 ■

道徳教育に関するアンケート調査

《オンラインでの実施内容のご紹介》

〔ご回答に際してのお願い〕

本アンケートは、道徳教育と「特別の教科」である道徳科に関する先生方のお考えなどを広く把握し、これからの方向を探るとともに、各学校、各先生にも役に立てていただきたいと考えて企画いたしました。お忙しい中、大変恐縮ですが、下記により、ご協力を何とぞよろしくお願いいたします。

1 ご回答をお願いしたい先生：

◇なるべく、次の先生がご回答くださいますようお願いいたします。

① 道徳教育推進教師、道徳主任、道徳教育を主に担当する先生…… 1名

② 学級担任（①で回答した先生を除く）… 可能ならば、1名～最大6名

◇上記の②については、可能ならば、複数の先生がお答えください。

できるだけ複数の学年で最大6名の先生、（例えば、各学年1名ずつ、中学校の場合は2名ずつ6名）までご回答いただけると助かります。

ただし、学校の事情や規模などによって、人数が少なくてもかまいません。

2 ご回答方法：

◇右のQRコードからアクセスしていただき、オンライン上でご回答ください。

◇パソコンで回答される場合は、アンケートフォームの最初のページにも示している、以下のリンク先をオンライン上でコピーするなどしてご活用ください。

<https://forms.gle/FejRpamkYJShadGj8>

（フォームの最初のページにあります）

◇なお、本用紙は内容の全体像が分かるように参考として同封しているものです。本用紙ではご回答の返送をされないでください。

◇ご回答はすべて無記名で行い、結果も全体集計を行うため、学校や個人等が特定されることは全くありません。



アンケートフォーム
アクセス用QRコード

3 ご回答期限：

◇校務がとりわけ重なる時期となり大変恐れ入りますが、集計作業上、以下のなるべく第1次の期日を目途にご回答いただけましたら助かります。

第1次 ご回答期限 令和5年12月27日（水）

第2次 ご回答期限 令和6年1月31日（水）

上記より遅れる場合でも若干は大丈夫ですので、どうぞご送信ください。

4 ご連絡事項：

◇お問い合わせは、下記担当まで、なるべくメールにてお願いいたします。

◇集計結果は、別途、校長先生宛の依頼状に掲載しましたQRコードからご送付先をお伝えいただいた全ての学校にお送りさせていただく予定です。

2023（令和5）年11月30日



調査主体：国立大学法人 東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構
上廣道徳・倫理教育研究開発推進室

道徳調査チーム（担当：永田 繁雄・範 蘭心）

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

Tel:042-329-7783 Mail:kokoro@u-gakugei.ac.jp

問1 あなた自身と、現在勤務している学校の様子などについてお教えてください。

(1) あなたが現在勤務する学校種と、担任する学年は何ですか。

【学校種】

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 小学校 | <input type="radio"/> 義務教育諸学校 |
| <input type="radio"/> 中学校 | <input type="radio"/> 中等教育学校 |

※特別支援学校につきましては、別の機会に行わせていただく予定です。

【担任する学年】

- | | |
|-------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 第1学年 | <input type="checkbox"/> 第4学年（小学校） |
| <input type="checkbox"/> 第2学年 | <input type="checkbox"/> 第5学年（小学校） |
| <input type="checkbox"/> 第3学年 | <input type="checkbox"/> 第6学年（小学校） |
| | <input type="checkbox"/> 学級担任以外 |

※現在、複式学級で複数の学級を担当している場合は、該当するそれぞれの学年の全てに○をつけてください。

(2) あなたの学校は、次のどの地域にありますか。

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 東海 |
| <input type="radio"/> 東北 | <input type="radio"/> 近畿 |
| <input type="radio"/> 関東 | <input type="radio"/> 中国 |
| <input type="radio"/> 甲信越 | <input type="radio"/> 四国 |
| <input type="radio"/> 北陸 | <input type="radio"/> 九州・沖縄 |

(3) あなたの年齢は満でいくつですか。

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| <input type="radio"/> 20～29歳 | <input type="radio"/> 40～49歳 |
| <input type="radio"/> 30～39歳 | <input type="radio"/> 50～59歳 |
| | <input type="radio"/> 60歳以上 |

(4) あなたは、現在、道徳教育推進教師（道徳主任）など、学校における道徳教育や道徳科の指導を推進する分掌を担当していますか。

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 担当している | <input type="radio"/> 担当していない |
|------------------------------|-------------------------------|

(5) あなたは、今まで、道徳の研究授業（校内研究・公開研究等）を行ったことがありますか。今までの実施回数についてお答えください。保護者や地域住民対象の授業参観や授業公開については、ここに含めません。

- 特に実施したことはない
- 1回、実施したことがある
- 2回～3回、実施したことがある
- 4回以上、実施したことがある……〔 〕回 ※およその回数でかまいません

(6) 小学校の場合、最も関心の強い教科または領域を1つだけお答えください。
中学校の場合、担当する教科（複数の場合は主なもの1つだけ）をお答えください。

- | | | |
|---------------------------------|---|----------------|
| <input type="radio"/> 国語 | <input type="radio"/> 体育・保健体育 | |
| <input type="radio"/> 社会 | <input type="radio"/> 家庭、技術・家庭 | |
| <input type="radio"/> 算数、数学 | <input type="radio"/> 外国語（小学校は外国語活動を含む） | |
| <input type="radio"/> 理科 | <input type="radio"/> 道徳 | |
| <input type="radio"/> 生活（小学校のみ） | <input type="radio"/> 総合的な学習の時間 | } 小学校のみ
選択可 |
| <input type="radio"/> 音楽 | <input type="radio"/> 特別活動 | |
| <input type="radio"/> 図画工作、美術 | | |

■問3 あなたの今までの教師経験から道徳の授業について感じていることをお教えてください。

(1) 道徳の授業について、あなたはどんな印象を持っていますか。

あてはまるものを1つずつ選んでください。

	そ う 思わない	あまりそ う 思わない	どちらとも 言えない	わりと そう思う	そう思う
① 子どもの人間形成に役立っている	○	○	○	○	○
② 魅力ある教材(資料)が様々にある	○	○	○	○	○
③ 指導の工夫が多様に考えられる	○	○	○	○	○
④ 他の教科等の授業とは違うよさがある	○	○	○	○	○
⑤ 教師のやりがいがある授業である	○	○	○	○	○
⑥ 子どもが好きな授業である	○	○	○	○	○
⑦ 子どもが変わる様子が感じられる	○	○	○	○	○
⑧ いじめや非行の防止に役立っている	○	○	○	○	○
⑨ 学力の向上に効果がある	○	○	○	○	○
⑩ 人間関係づくりに役立っている	○	○	○	○	○

(2) 道徳の授業の充実にかかわって、次のことについてどのように考えますか。

あてはまるものを1つずつ選んでください。

	そ う 思わない	あまりそ う 思わない	どちらとも 言えない	わりと そう思う	そう思う
① ビデオなどの映像資料を大いに使うべきだ	○	○	○	○	○
② 新聞記事やニュースなどの報道をもっと使うべきだ	○	○	○	○	○
③ パソコンやインターネットをもっと使うべきだ	○	○	○	○	○
④ 子どもが討論する学習をもっと充実すべきだ	○	○	○	○	○
⑤ 調べ学習などをもっと取り入れるべきだ	○	○	○	○	○
⑥ 担任以外の人をもっと授業に参画すべきだ	○	○	○	○	○
⑦ 1時間ずつだけでなく複数時間をつなげた指導をもっとするべきだ	○	○	○	○	○
⑧ 各教科や総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図るべきだ	○	○	○	○	○
⑨ 学期別や月ごとにテーマを決めて重点的な学習をするべきだ	○	○	○	○	○
⑩ 学級の人間関係の問題をもっと取り上げるべきだ	○	○	○	○	○

(3) このようにしていけば、道徳の授業が一層充実する、みんなが一層意欲的に取り組むようになるといったお考えがありましたら簡潔にお教えてください。上記と内容が重なってもかまいません。

■問4 小学校では平成30年度より、中学校では平成31（令和元）年度より、それまでの「道徳の時間」が、教科書使用の「道徳科」として全面実施となり、5年～6年間が経ちました。そこで、この「問4」については、以前の「道徳の時間」の指導経験のある先生（おおむね教師経験が5または6年以上の先生）がお答えください。以前の道徳の時間の指導経験がない先生は、以下の（★）で「経験がない」と回答し、お答えはご不要です。

（★）あなたは、以前の道徳教科書を使用しない頃の指導を経験していますか。

経験がある
 経験がない

（1）「1 経験がある」と答えた先生にうかがいます。道徳の時間が「特別の教科」である道徳科になってどのように変わりましたか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

	そ う 思 わ な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も 言 え な い	わ り と そ う 思 う	そ う 思 う
① 子どもの道徳授業への学習意欲が高まった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
② 子どもが道徳授業がっそう好きになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
③ 子ども同士による話し合いや議論が活発になった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
④ 道徳の授業についての教師の意識が高まった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑤ 育てようとする子ども像をより意識して指導するようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑥ より計画的、体系的な指導が行えるようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑦ 授業時数を十分に確保して指導することができるようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑧ 教師が多様な授業展開を工夫するようになった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑨ 他教科等に比べて道徳の授業が軽視される風潮が少なくなった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩ 授業を通して、子どもの変化の手応えをより感じるようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

（2）以前の道徳の時間が「特別の教科」である道徳科となって数年が経ちました。そこで、道徳の時間が「特別の教科」である道徳科に移行した（変わったこと）について、あなたのご意見があればお聞かせください。

■問5 道徳の内容（内容項目）について重視したいことをお教えてください。

(★) 学校種によって選択肢が変わりますので、ご自身の学校種を選んでください。

小学校

中学校

※義務教育学校、中等教育学校につきましては、現在担当する学校段階をお選びください。

以下は、現在の学習指導要領に示す道徳の内容のうち、小学校高学年と中学校の内容についてキーワードで示したものです。これらの22の内容項目の中で、あなた自身が、いま、特に重視したいと考える内容はどれですか。特に重視したいと考えるものを、あなたの勤務する学校段階（学校種）において、7つまで選んでください。

※ご自身の学校種のみお答えください。小学校段階は、高学年の内容項目で代表しています。

-
- A 主として自分自身に関すること
 B 主として人との関わりに関すること
 C 主として集団や社会との関わりに関すること
 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
-

小学校キーワード（番号は高学年）

- A-① 善悪の判断、自律、自由と責任
- A-② 正直、誠実
- A-③ 節度、節制
- A-④ 個性の伸長
- A-⑤ 希望と勇気、努力と強い意志
- A-⑥ 真理の探究
- B-⑦ 親切、思いやり
- B-⑧ 感謝
- B-⑨ 礼儀
- B-⑩ 友情、信頼
- B-⑪ 相互理解、寛容
- C-⑫ 規則の尊重
- C-⑬ 公正、公平、社会正義
- C-⑭ 勤労、公共の精神
- C-⑮ 家族愛、家庭生活の充実
- C-⑯ よりよい学校生活、集団生活の充実
- C-⑰ 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
- C-⑱ 国際理解、国際親善
- D-⑲ 生命の尊さ
- D-⑳ 自然愛護
- D-㉑ 感動、畏敬の念
- D-㉒ よりよく生きる喜び

中学校キーワード

- A-① 自主、自律、自由と責任
- A-② 節度、節制
- A-③ 向上心、個性の伸長
- A-④ 希望と勇気、克己と強い意志
- A-⑤ 真理の探究、創造
- B-⑥ 思いやり、感謝
- B-⑦ 礼儀
- B-⑧ 友情、信頼
- B-⑨ 相互理解、寛容
- C-⑩ 遵法精神、公德心
- C-⑪ 公正、公平、社会正義
- C-⑫ 社会参画、公共の精神
- C-⑬ 勤労
- C-⑭ 家族愛、家庭生活の充実
- C-⑮ よりよい学校生活、集団生活の充実
- C-⑯ 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
- C-⑰ 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
- C-⑱ 国際理解、国際貢献
- D-⑲ 生命の尊さ
- D-⑳ 自然愛護
- D-㉑ 感動、畏敬の念
- D-㉒ よりよく生きる喜び

■問6 毎週取り組んでいる「特別の教科」である道徳科の授業について、その充実を図る視点から、あなたのお考えをお聞かせください。

(1) 道徳科では、「考え、議論する」授業をつくり出すために、その質的改善の視点が次のような言葉で指摘されています。これらの中でも、今、あなたが特に重視したいことはどのようなことですか。特に重視したい考え方を3つ選んでください。

- 「自我関与」が中心の学習
- 「問題解決的な学習」
- 「体験的な学習」
- 「道徳的価値の理解」を促す指導
- 子どもが「多面的・多角的」に考えを深める指導
- 子どもが「生き方についての考え」を深める指導
- 子どもが「自分事」として考えを深める学習
- 子どもが自らの「納得解」を見出していく学習
- 子どもの「主体的・対話的で深い学び」
- 道徳授業の「カリキュラム・マネジメント」
- その他：[]

(2) 現在、様々な社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題が次のような言葉として挙げられています。これらの中で、今、あなたが道徳授業の中で特に重視したいことはどのような課題ですか。特に重視したい課題を3つまで（3つ以内を）選んでください。

- 子どもの「自尊感情」や自己肯定感を高める指導
- 子どもの「いじめ問題」の深刻化に向き合う指導
- 「情報モラル」に関して考えを深める指導
- 「対話型A I（生成A I）」を生かす指導
- 「SDG s」を意識した指導
- 子どもの「エージェンシー（Agency～主体性）」を生かす指導
- 子どもの「ウェルビーイング（幸福観・幸福度）」を高める指導
- 「伝統や文化の尊重」について考えを深める指導
- 特にない（本項目を選んだ場合は、上の項目やその他を選択しないこと）
- その他：[]

■問7 最後に、よろしければ、お教えてください。

道徳教育や道徳科の指導の一層の充実のために、このようなことが重要、こんなことを改善すべきだ、というお考えがありましたら、ぜひ、お聞かせください。

***** 以上で、今回の質問は終わりです。最後までありがとうございました。

.....

ところで、以下の3つは、「道徳」についてのイメージを問うもので、自由回答項目です。もしも可能であれば、ご回答ください。
思い付かないところは、空欄としていただいても大丈夫です。

自由回答項目

■問◎ 「道徳」の授業について、どんなイメージをもっていますか。

- (1) 「道徳」の授業で、子どもたちに考えさせたり教えたりするのにぴったりの人物といえど誰ですか。人物名、または「このような人」など、1つお答えください。

- (2) 「道徳」を歌で表すと、どんな歌が似合いますか。
歌のジャンル、題名、歌手名、または「このような歌」など、1つお答えください。

- (3) 「道徳」を色で表すと、どんな色がいちばん似合いますか。1つお答えください。

- (3-2) その色を選ぶのはなぜですか。よろしければその理由を簡潔にお書きください。

◎お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。
貴重なご回答を生かして、私どもで大事に分析・検討し、
皆さんにその結果をご報告させていただきます。



道徳教育に関する小・中学校段階の教員を対象とした調査

—道徳の授業への取組を中心として—

< 結果報告書 >

発行日：2024年12月

発行：東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

上廣道徳・倫理教育研究開発推進室 担当：永田繁雄・範 蘭心

所在地：184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学

TEL：042-329-7783

E-mail：kokoro@u-gakugei.ac.jp

印刷：株式会社イルコムジャパン